



こども食堂や多世代が集う居場所 に関するアンケート報告書

令和7年3月



公益財団法人
長野県みらい基金

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象者及び項目設計の考え方	2
3. 調査実施方法および回収結果	3
4. 調査結果を見る際の留意点	3
第2章 調査結果1：居場所の運営者に対するアンケート結果	4
1. 運営者の属性（運営主体や開催場所）	5
2. 居場所を開催する目的・活動内容・参加者	7
(1) 開催する主な目的・活動内容	7
(2) 居場所への参加者	8
(3) 居場所の利用者数	10
(4) 関わりがある実人数・協力企業数	12
(5) 実施回数	14
3. 経費・事業費	17
(1) 必要経費	17
(2) 事業費の調達	21
(3) 物価高騰による影響	23
4. 食事提供の実施状況	24
5. ボランティアの状況	28
6. 信州こどもカフェ推進地域プラットフォーム・おでかけ保健室	30
(1) 信州こどもカフェ推進地域プラットフォーム	30
(2) 信州こどもカフェおでかけ保健室	32
7. 課題・今後の意向など	35
8. 居場所による効果	38
(1) 利用している子どもたちへの効果	38
(2) 利用している子どもたちの保護者への効果	39
(3) 協力者や地域における効果	40
(4) 居場所により生じている変化などのエピソード	41
9. 活動継続のモチベーションや居場所運営に関する意見	45
第3章 調査結果2：協力者に対するアンケート結果	55
1. 回答者属性	56
2. 居場所との関わり方や居場所に対する考え	58
(1) 居場所との関わり方	58
(2) 居場所に対する考え	60
3. 居場所による効果	62
4. 居場所に関する今後の意向や意見	66
第4章 調査結果3：居場所を利用する子どもの保護者に対するアンケート結果 ...	70
1. 回答者属性	71
2. 居場所の利用状況や居場所に対する考え	73
(1) 居場所の利用状況	73

(2) 居場所に対する考え	76
3. 居場所による効果	86
4. 居場所に関する今後の意向や意見	90
第5章 調査結果4： 居場所を利用する子どもに対するアンケート結果	92
1. 回答者属性	93
2. 居場所に対する考え	94
3. 居場所による効果	99
4. 居場所に関する今後の意向	99

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

こども食堂や多世代が集う居場所（以下「居場所」という）には様々な効果がある。しかし、これらの居場所は利用者からの対価のみでは運営が困難であるうえに、行政サービスとしての位置づけが難しいため運営者への負担が大きい構造にあり、持続可能な運営という観点において課題が残されている。この課題を乗り越え、持続可能な運営ができる居場所を増やすためには、地域の支え合い、ボランティアによる協力、企業等からの寄付などの支援が必要であり、居場所づくりに対する理解を高め、協力を得ていくことが重要である。

以上から、本調査は、長野県における居場所の実態を把握するとともに、社会的なインパクトの「見える化」を行い、住民、地域、企業等による支援の促進に向けた検討材料を得ることを目的に実施する。

- 目的1：こども食堂・多世代の居場所等の実態把握
- 目的2：こども食堂・多世代の居場所の社会的なインパクトの「見える化」

2. 調査対象者及び項目設計の考え方

調査は、「運営者」、「協力者（活動を支えるスタッフ）」、「活動への参加者（主に親子）」を対象に行う。それぞれ、把握する視点は次のとおりである。

		運営者	協力者 (活動を支えるスタッフ)	活動への参加者 (主に親子)
目的1 実態 把握	属性	・ 基本属性等	・ 基本属性等	・ 基本属性等
	モチベーション	・ 何を目標しているか ・ なぜ続けるのか	・ なぜ始めたか ・ なぜ続けるのか	・ 参加のきっかけ ・ なぜ参加しているか
	活動内容	・ どのような活動をしているか	—	・ どのくらいの頻度で参加しているか ・ こども食堂の当初と参加後のイメージ
	応援者・支援者	・ どのような人が活動を支えているか	・ どのような支援をしているか	—
	運営経費	・ どのくらい経費がかかっているか ・ どのように調達しているか	・ どのくらいのマンパワーを投入しているか	—
	運営課題	・ どのようなことに課題を抱えているか ・ 足りないもの	—	—
目的2 社会的な インパクト		・ 気がかりな世帯に気づく ・ 参加する親子に感じている変化 ・ 支える協力者に感じている変化 ・ 実施する地域に生じている変化	・ 協力して良かったこと	・ 参加して良かったことや変わったこと

3. 調査実施方法および回収結果

【居場所の運営者に対する調査】

調査実施期間：① 令和6年9月10日～10月1日（※長野県こども若者局次世代サポート課実施）

② 令和6年11月20日～令和7年2月7日

調査対象：① 信州こどもカフェの運営者

② ①以外のこども食堂や多世代の居場所の運営者

調査方法：①web フォームによる回答

②web フォームまたは紙の調査票による回答

回収数：139件（① 59件、②80件）

※1つの居場所から重複して回答があった場合、基本的に①を優先しつつ、最新の情報が記入されている場合などは②の結果を採用した。

【協力者に対する調査】

調査実施期間：令和6年11月20日～令和7年2月7日

調査対象：信州こどもカフェを含むこども食堂や多世代の居場所の協力者

調査方法：web フォームによる回答または紙の調査票による回答

回収数：151件

【居場所を利用する子どもの保護者に対する調査】

調査実施期間：令和6年11月20日～令和7年2月7日

調査対象：信州こどもカフェを含むこども食堂や多世代の居場所を利用する子どもの保護者

調査方法：web フォームによる回答または紙の調査票による回答

回収数：124件

【居場所を利用する子どもに対する調査】

調査実施期間：令和6年11月20日～令和7年2月7日

調査対象：信州こどもカフェを含むこども食堂や多世代の居場所を利用する子ども

調査方法：web フォームによる回答または紙の調査票による回答

回収数：122件

4. 調査結果を見る際の留意点

報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合や文中に示す数値とグラフの数値が一致しない場合がある。

図表内のnは該当する設問の回答者数を表す。無回答を除いて集計しているため、設問ごとに回答者数が異なる。

1人の回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答の設問では、回答数の合計を回答者数(n)で割った比率を示しており、比率の合計は100%を超える。

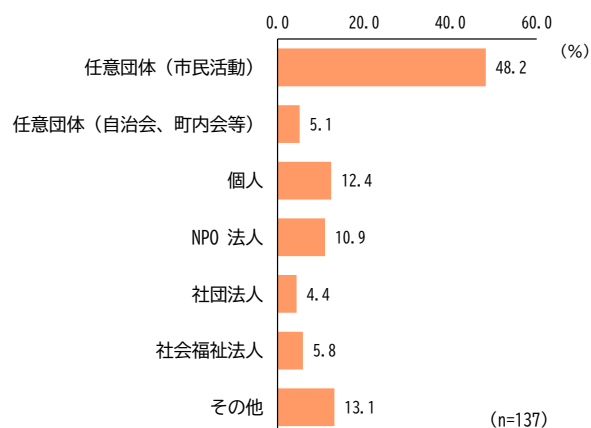
第2章 調査結果1：居場所の運営者に対するアンケート結果

1. 運営者の属性（運営主体や開催場所）

- ・居場所の運営主体は「任意団体（市民活動）」の割合が48.2%と半数近くを占めている。
- ・主な開催場所は「公民館・集会所」の割合が41.6%で最も高く、次いで「地方公共団体施設」が24.1%、「民間施設」が18.2%となっている。

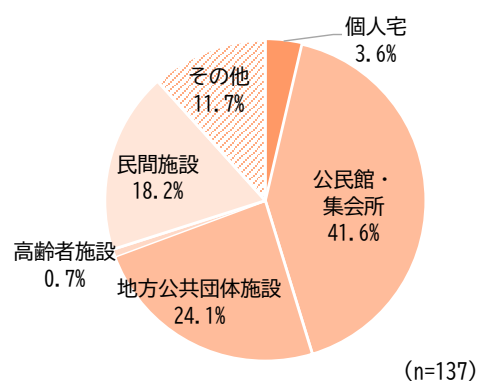
図表 1 運営主体

	人数	割合 (%)
任意団体（市民活動）	66	48.2
任意団体（自治会、町内会等）	7	5.1
個人	17	12.4
NPO 法人	15	10.9
社団法人	6	4.4
社会福祉法人	8	5.8
その他	18	13.1
合計	137	100.0



図表 2 主な開催場所

	人数	割合 (%)
個人宅	5	3.6
公民館・集会所	57	41.6
地方公共団体施設（市町村施設、高齢者福祉センター、子育て支援施設など）	33	24.1
高齢者施設（老人ホームなど）	1	0.7
民間施設（食堂、店舗、ゲストハウスなど）	25	18.2
その他	16	11.7
合計	137	100.0



- 回答があった居場所は、県内 77 市町村のうち、44 市町村に分布している。
- 内訳は、「松本市」が 19 箇所で最も多く、次いで「長野市」が 16 箇所、「上田市」と「飯田市」が 7 箇所である。

図表 3 所在する市町村

地域	回答者数	市町村	回答者数	割合 (%)
佐久地域	9	佐久市	3	2.1
		小海町	1	0.7
		軽井沢町	2	1.4
		御代田町	3	2.1
上田地域	9	上田市	7	5.0
		東御市	2	1.4
諏訪地域	15	岡谷市	3	2.1
		諏訪市	2	1.4
		茅野市	4	2.9
		下諏訪町	2	1.4
		富士見町	3	2.1
		原村	1	0.7
上伊那地域	19	伊那市	2	1.4
		駒ヶ根市	3	2.1
		辰野町	1	0.7
		箕輪町	4	2.9
		飯島町	1	0.7
		南箕輪村	5	3.6
		中川村	1	0.7
		宮田村	2	1.4
南信州地域	13	飯田市	7	5.0
		松川町	2	1.4
		高森町	3	2.1
		平谷村	1	0.7
木曽地域	9	上松町	3	2.1
		木曽町	2	1.4
		木祖村	2	1.4
		王滝村	1	0.7
		大桑村	1	0.7
松本地域	29	松本市	19	13.6
		塩尻市	5	3.6
		安曇野市	4	2.9
		麻績村	1	0.7
北アルプス地域	5	大町市	3	2.1
		池田町	1	0.7
		松川村	1	0.7
長野地域	23	長野市	16	11.4
		須坂市	1	0.7
		千曲市	5	3.6
		坂城町	1	0.7
北信地域	9	中野市	3	2.1
		飯山市	2	1.4
		山ノ内町	2	1.4
		野沢温泉村	1	0.7
無回答			1	0.7
合計			140	100.0

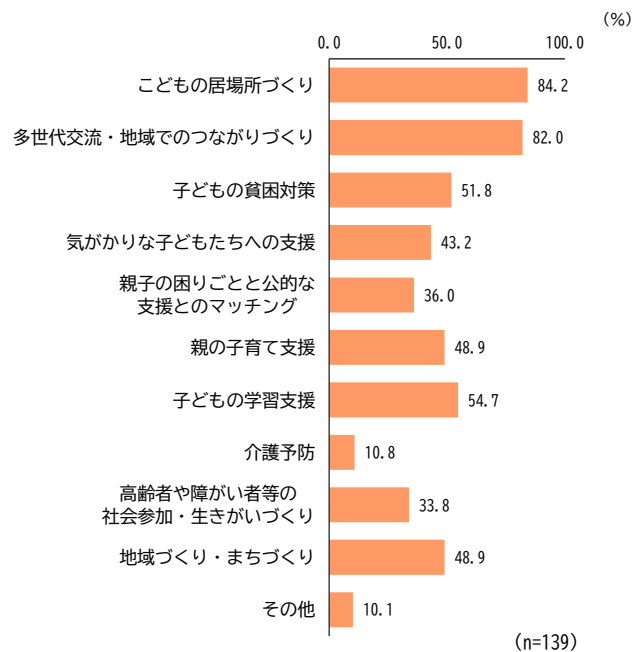
2. 居場所を開催する目的・活動内容・参加者

(1) 開催する主な目的・活動内容

- ・居場所の主な目的は、「こどもの居場所づくり」が 84.2%、「多世代交流・地域でのつながりづくり」が 82.0%と 8 割を超えており、次いで「子どもの学習支援」が 54.7%、「子どもの貧困対策」が 51.8%、「親の子育て支援」「地域づくり・まちづくり」が 48.9%である。
- ・活動内容は、「食事提供(食料配布を含む)」の割合が 87.1%で最も高く、次いで「多世代交流」が 71.2%、「学習支援(フリースクールではない)」が 53.2%、「悩み相談」が 48.2%である。

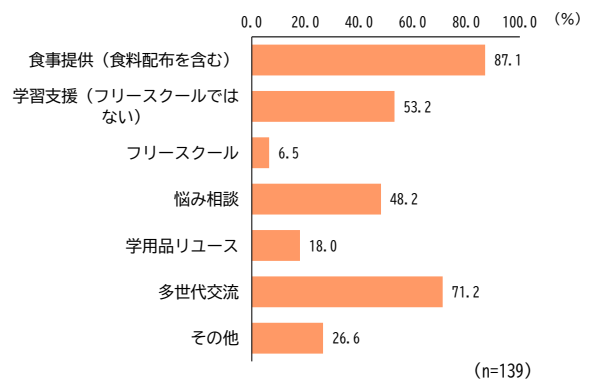
図表 4 居場所を開催する主な目的[複数回答]

	人数	割合 (%)
こどもの居場所づくり	117	84.2
多世代交流・地域でのつながりづくり	114	82.0
子どもの貧困対策	72	51.8
気がかりな子どもたちへの支援	60	43.2
親子の困りごとと公的な支援とのマッチング	50	36.0
親の子育て支援	68	48.9
子どもの学習支援	76	54.7
介護予防	15	10.8
高齢者や障がい者等の社会参加・生きがいづくり	47	33.8
地域づくり・まちづくり	68	48.9
その他	14	10.1
回答者数	139	



図表 5 活動内容[複数回答]

	人数	割合 (%)
食事提供(食料配布を含む)	121	87.1
学習支援(フリースクールではない)	74	53.2
フリースクール	9	6.5
悩み相談	67	48.2
学用品リユース	25	18.0
多世代交流	99	71.2
その他	37	26.6
回答者数	139	



【その他の内容】

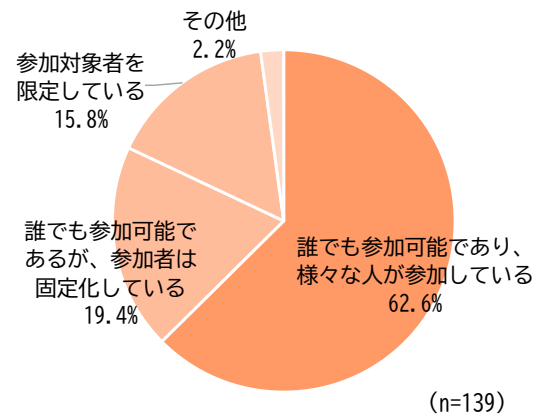
- ・生活・農業・文化などの体験：10 件
- ・遊び・レクリエーション：8 件
- ・日用品提供：4 件 など

(2) 居場所への参加者

- 参加への条件は、設けていない居場所が 82.0%、設けている居場所が 15.8%となっている。
- 参加条件は、年齢を限定している場合や、居住地を地区内や市町村内に限定している場合のほか、家庭環境や経済的状況、子どもの状況による制限を設けている場合などが見られる。

図表 6 参加条件の設定状況

	人数	割合 (%)
誰でも参加可能であり、様々な人が参加している	87	62.6
誰でも参加可能であるが、参加者は固定化している	27	19.4
参加対象者を限定している	22	15.8
その他	3	2.2
合計	139	100.0

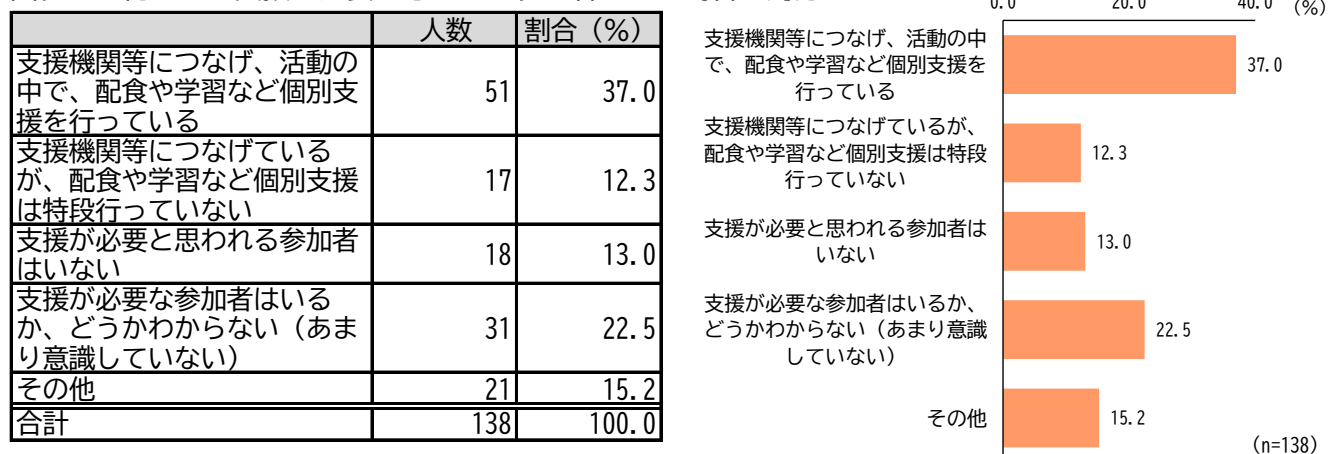


図表 7 回答対象：参加対象者を限定している居場所の運営者 参加条件の内容[自由記述]

年齢制限
・ 幼児～高校生（保護者同伴可）
・ 小・中学生と家族
・ 小学校高学年から中学生
・ 小学生以上（家族であれば幼稚園・保育園児・保護者同伴可）
・ 保護者以外の成人はボランティア参加 など
居住地による制限
・ 地区内
・ 市町村内 など
家庭環境・経済的状況・子どもの状況
・ ひとり親家庭
・ 経済的理由で民間の学習塾を利用できない小・中・高校生
・ 不登校の児童・生徒
・ 障害がある子どもとその家族
・ 外国にルーツのある子ども など

- 何らかの支援が必要と思われる参加者がいた場合に「支援機関等につなげている」と答えた割合は 49.3%である。そのうち「活動の中で、配食や学習など個別支援を行っている」と答えた割合は 37.0%となっている。

図表 8 何らかの支援が必要と思われる参加者がいた場合の対応



(3) 居場所の利用者数

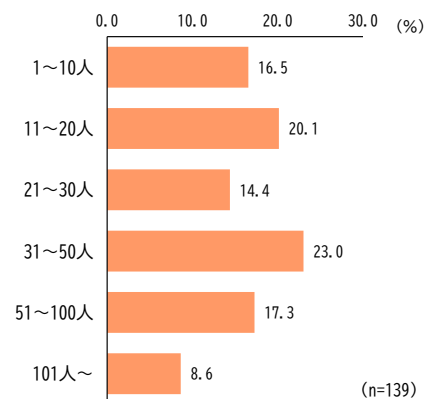
- 居場所の開催 1 回あたりに集まる概ねの利用者数の平均値は 44.7 人で、会食に限定した場合は 29.2 人、学習支援に限定した場合は 5.5 人である。
- 概ねの利用者数では、「31～50 人」の割合が 23.0%で最も高く、次いで「11～20 人」が 20.1%となっている。
- 信州こどもカフェ推進地域プラットフォームへの登録状況別に見ると、登録団体では「31～50 人」の割合が 25.0%で最も高いのに対し、登録団体以外では「11～20 人」が 25.6%で最も高くなっている。

図表 9 利用者数の平均値

1 回あたりに集まる概ねの利用者数	44.7 人
会食に限定した場合の、1 回あたりに集まる概ねの利用者数	29.2 人
学習支援に限定した場合の、1 回あたりに集まる概ねの利用者数	5.5 人

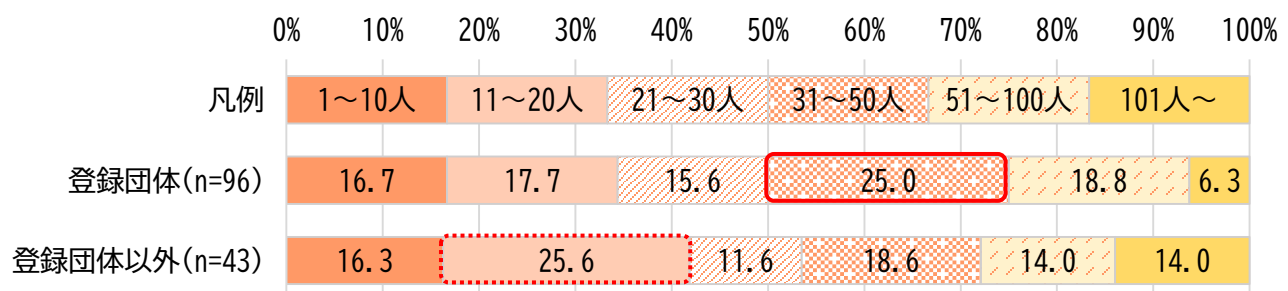
図表 10 1 回あたりに集まる概ねの利用者数

	人数	割合 (%)
1～10人	23	16.5
11～20人	28	20.1
21～30人	20	14.4
31～50人	32	23.0
51～100人	24	17.3
101人～	12	8.6
合計	139	100.0



図表 11 信州こどもカフェ推進地域プラットフォームへの登録状況別

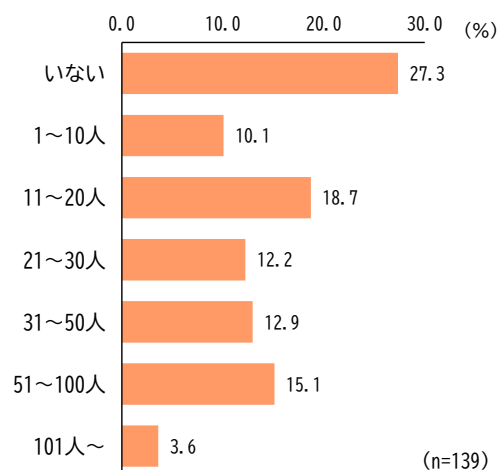
1 回あたりに集まる概ねの利用者数



- 会食に限定した場合は、「いない」(27.3%)を除くと、「11～20人」の割合が18.7%で最も高くなっている。
- 学習支援に限定した場合は、「いない」(49.6%)を除くと、「1～10人」の割合が39.6%で最も高くなっている。

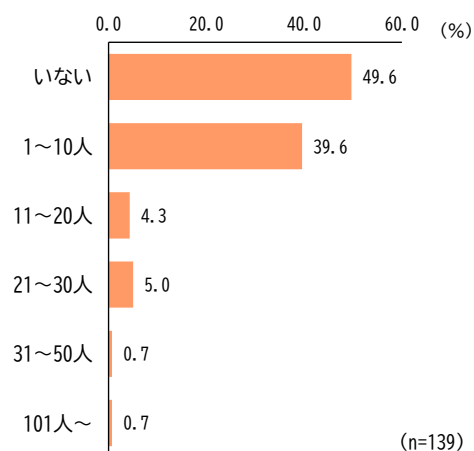
図表 12 会食に限定した場合の、1回あたりに集まる概ねの利用者数

	人数	割合 (%)
いない	38	27.3
1～10人	14	10.1
11～20人	26	18.7
21～30人	17	12.2
31～50人	18	12.9
51～100人	21	15.1
101人～	5	3.6
合計	139	100.0



図表 13 学習支援に限定した場合の、1回あたりに集まる概ねの利用者数

	人数	割合 (%)
いない	69	49.6
1～10人	55	39.6
11～20人	6	4.3
21～30人	7	5.0
31～50人	1	0.7
101人～	1	0.7
合計	139	100.0



(4) 関わりがある実人数・協力企業数

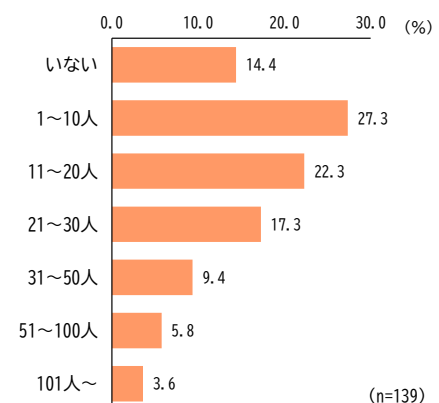
- 利用者、ボランティア、運営者などの関わりがある実人数の平均値は、「中学生未満」が 26.2 人、「高校生・大学生など 15～19 歳の若者」が 6.4 人、「20～50 歳代」が 15.3 人、「シニア層」が 12.0 人である。
- 協力企業数の平均値は、1.9 社である。
- 関わりがある実人数について、中学生未満では、「1～10 人」の割合が最も高く 27.3% である。
- 高校生・大学生など 15～19 歳の若者では、「1～10 人」の割合が最も高く 54.0% である。

図表 14 関わりがある実人数・協力企業数の平均値

中学生未満	26.2 人
高校生・大学生など 15～19 歳の若者	6.4 人
20～50 歳代	15.3 人
シニア層（おおよそ 60 歳以上）	12.0 人
協力企業数	1.9 社

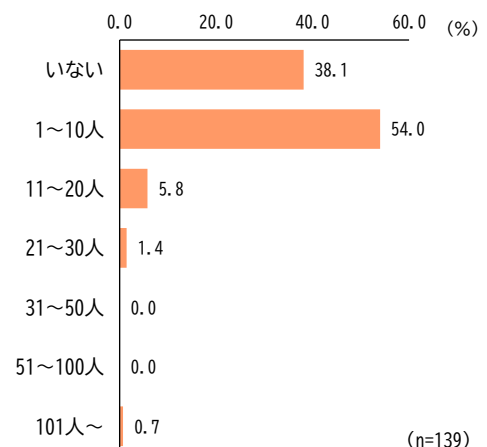
図表 15 関わりがある実人数【中学生未満】

	人数	割合 (%)
いない	20	14.4
1～10人	38	27.3
11～20人	31	22.3
21～30人	24	17.3
31～50人	13	9.4
51～100人	8	5.8
101人～	5	3.6
合計	139	100.0



図表 16 関わりがある実人数【高校生・大学生など 15～19 歳の若者】

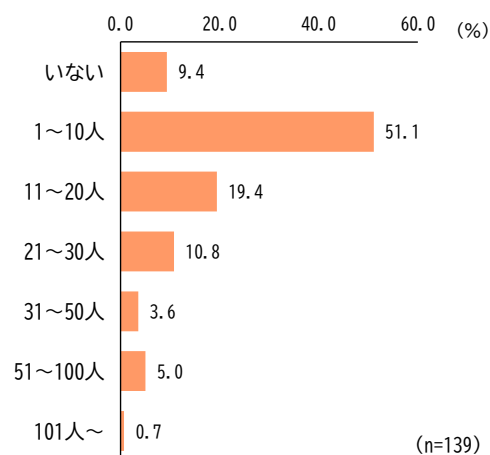
	人数	割合 (%)
いない	53	38.1
1～10人	75	54.0
11～20人	8	5.8
21～30人	2	1.4
31～50人	0	0.0
51～100人	0	0.0
101人～	1	0.7
合計	139	100.0



- 関わりがある実人数について、20～50 歳代では、「1～10 人」の割合が最も高く 51.1%である。
- シニア層では、「1～10 人」の割合が最も高く 62.6%である。
- 協力企業数は、「ない」の割合が 54.7%と半数を超えており、次いで「2 社」が 17.3%である。

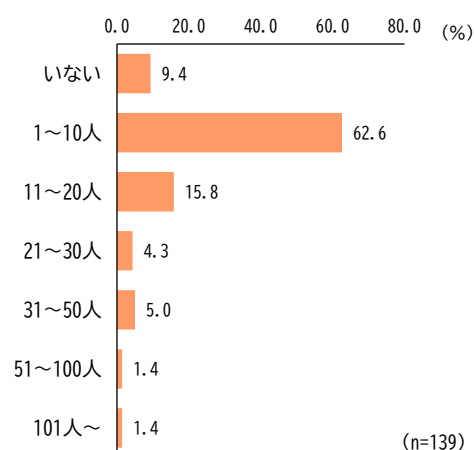
図表 17 関わりがある実人数【20～50 歳代】

	人数	割合 (%)
いない	13	9.4
1～10人	71	51.1
11～20人	27	19.4
21～30人	15	10.8
31～50人	5	3.6
51～100人	7	5.0
101人～	1	0.7
合計	139	100.0



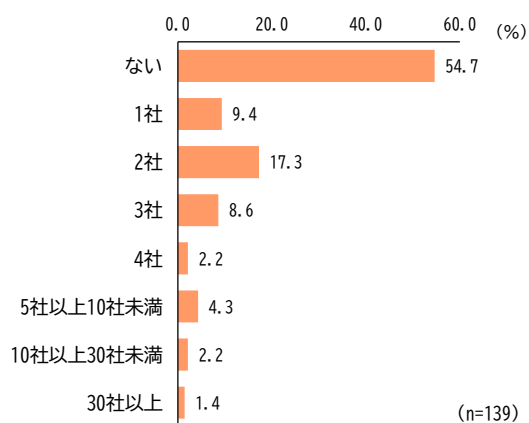
図表 18 関わりがある実人数【シニア層（およそ 60 歳以上）】

	人数	割合 (%)
いない	13	9.4
1～10人	87	62.6
11～20人	22	15.8
21～30人	6	4.3
31～50人	7	5.0
51～100人	2	1.4
101人～	2	1.4
合計	139	100.0



図表 19 協力企業数

	人数	割合 (%)
ない	76	54.7
1社	13	9.4
2社	24	17.3
3社	12	8.6
4社	3	2.2
5社以上10社未満	6	4.3
10社以上30社未満	3	2.2
30社以上	2	1.4
合計	139	100.0



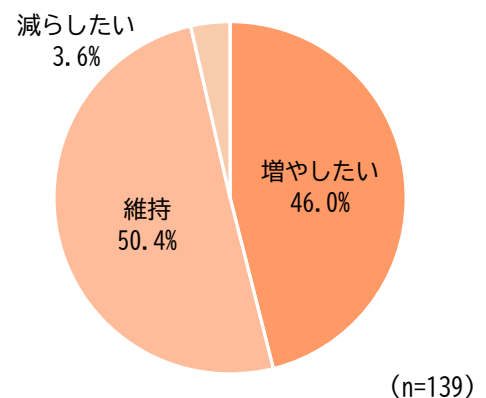
(5) 実施回数

- 1年あたりの実施回数に対する考えは、「維持」の割合が50.4%で最も高く、次いで「増やしたい」が46.0%、「減らしたい」が3.6%である。
- 1年あたりの実施回数の平均値は34.1回、本来1年あたりに実施したい回数（希望回数）の平均値は53.5回で、その差は19.4回である。
- 実施回数では「12回以上24回未満」（月に1・2回）の割合が40.3%で最も高く、次いで「24回以上52回未満」（2週に1回～週に1回）が27.3%である。
- 希望回数では「24回以上52回未満」（2週に1回～週に1回）の割合が38.4%で最も高く、次いで「12回以上24回未満」（月に1・2回）が27.5%である。

図表 20 実施回数に対する考え

	度数	割合 (%)
増やしたい	64	46.0
維持	70	50.4
減らしたい	5	3.6
合計	139	100.0

※「増やしたい」＝実施回数が希望回数を下回っている
「維持」＝実施回数と希望回数が等しい
「減らしたい」＝実施回数が希望回数を上回っている



図表 21 1年あたりの実施回数および希望回数の平均値

実施回数	34.1 回
希望回数	53.5 回
希望回数－実施回数	19.4 回

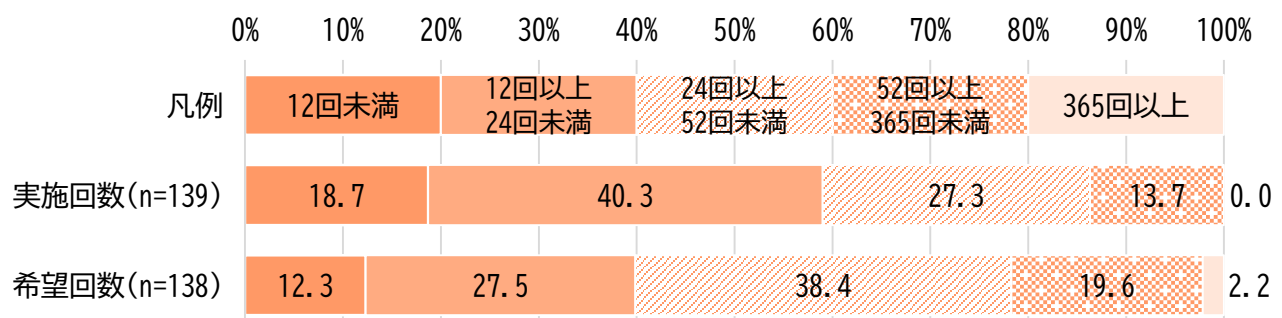
図表 22 1年あたりの実施回数および本来1年あたりに実施したい回数（希望回数）

【実施回数】

	人数	割合 (%)
12回未満	26	18.7
12回以上24回未満	56	40.3
24回以上52回未満	38	27.3
52回以上365回未満	19	13.7
365回以上	0	0.0
合計	139	100.0

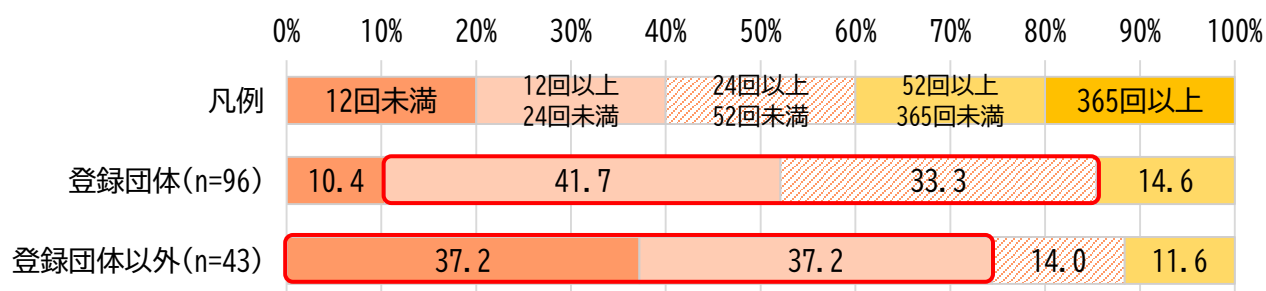
【希望回数】

	人数	割合 (%)
12回未満	17	12.3
12回以上24回未満	38	27.5
24回以上52回未満	53	38.4
52回以上365回未満	27	19.6
365回以上	3	2.2
合計	138	100.0

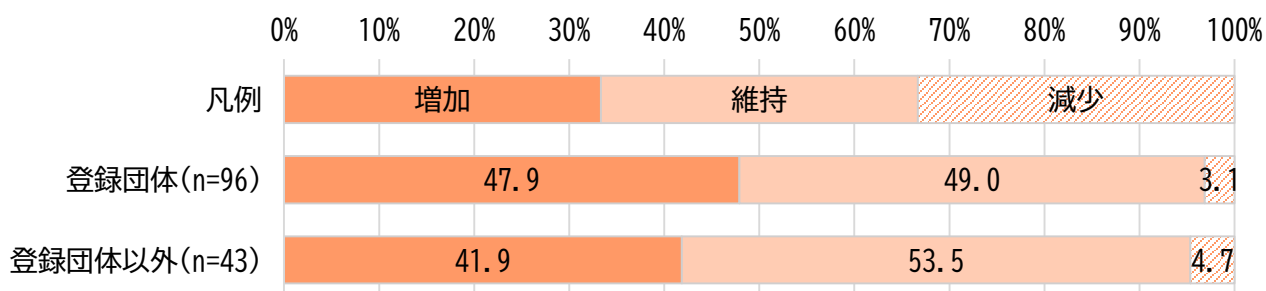


- 実施回数を信州こどもカフェ推進地域プラットフォームへの登録状況別に見ると、登録団体では「12回以上 24 回未満」の割合が 41.7%で最も高く、次いで「24 回以上 52 回未満」が 33.3%となっているのに対し、登録団体以外では「12 回未満」と「12 回以上 24 回未満」がともに 37.2%となっている。
- 実施回数に対する考えを信州こどもカフェ推進地域プラットフォームへの登録状況別に見ると、登録団体では「増加」と「維持」がほぼ二分しているのに対し、登録団体以外では「維持」が「増加」を 11.6ポイント上回っている状況である。

図表 23 信州こどもカフェ推進地域プラットフォームへの登録状況別 1 年あたりの実施回数



図表 24 信州こどもカフェ推進地域プラットフォームへの登録状況別 実施回数に対する考え



- ・実施回数が希望回数より少ない居場所の運営者に、希望回数に近づけるために課題となっていることを聞くと、「ボランティアが不足している」の割合が60.3%で最も高く、次いで「食材費の負担が大きい」が50.0%、「運営資金が不足している」が48.3%であった。

図表 25 回答対象：実施回数が希望回数より少ない居場所の運営者
希望回数に近づけるために課題となっていること[複数回答]

	人数	割合 (%)
ボランティアが不足している	35	60.3
食材費の負担が大きい	29	50.0
運営資金が不足している	28	48.3
学校や行政、地域組織等の他組織との連携	21	36.2
生活困窮家庭など、本当に支援をしている人の把握ができない	15	25.9
会場の確保が難しい	12	20.7
子どもへの周知が足りておらず参加者が少ない	12	20.7
支援したい子どもの把握ができない	12	20.7
運営上のノウハウが不足している	11	19.0
食材が不足している	10	17.2
食料配布・弁当配布の経費の負担が大きい	10	17.2
会場使用料の負担が大きい	9	15.5
使える助成金があるか分からない	6	10.3
気になる親子への個別相談	5	8.6
食中毒への対応	5	8.6
ボランティア保険料の負担が大きい	4	6.9
新型コロナへの感染防止対策がわからない	1	1.7
特になし	1	1.7
その他	6	10.3
回答者数	58	

3. 経費・事業費

(1) 必要経費

- 1回あたりの必要経費（金銭的支出＋人件費）の平均値は 60,746 円、中央値は 25,340 円で、利用者 1 人あたりでは平均値 2,801 円、中央値 769 円である。
- 利用者 1 人あたりの必要経費は、利用者数が少ない（規模の小さい）居場所ほど高くなっている。
- 費目別の必要経費の平均値は、「食材費」が 14,665 円、「謝金」が 8,608 円、「その他経費」が 6,477 円、「賃借料・会場使用料」が約 4,779 円などとなっている。

図表 26 1 回あたりの必要経費の平均値・中央値

単位：円

利用者数	n	①金銭的支出		②人件費		金銭的支出＋人件費 (①＋②)		利用者 1 人あたり	
		平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値
全体	139	40,068	17,000	20,678	4,990	60,746	25,340	2,801	769
1～10人	23	62,760	8,250	9,112	4,990	71,872	12,492	8,348	2,435
11～20人	28	35,081	8,560	33,362	4,990	68,443	15,275	3,616	900
21～30人	20	18,510	14,250	34,905	3,992	53,415	19,594	1,843	677
31～50人	32	25,968	20,700	18,557	6,986	44,524	26,832	1,057	691
51～100人	24	39,774	24,550	14,076	4,990	53,849	32,491	763	480
101人～	12	82,329	64,826	8,400	4,990	90,729	69,816	597	400

※②人件費は無償ボランティアの 1 回あたりの稼働時間と長野県最低賃金（令和 7 年 3 月時点）の積

図表 27 1 回あたりの項目別必要経費・時間の平均値・中央値

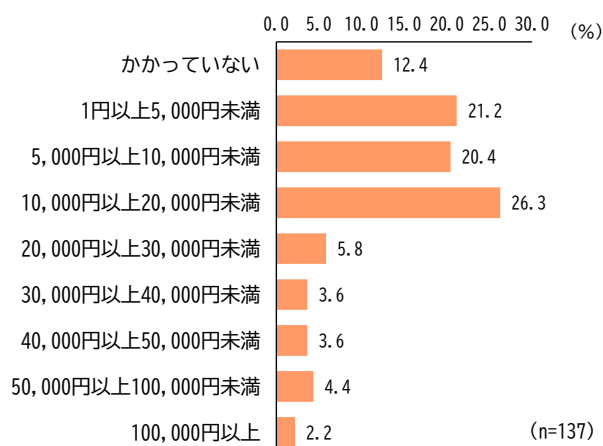
項目	平均値	中央値
食材費	14,665円	8,000円
光熱水費	2,104円	0円
需用費	2,492円	1,500円
謝金	8,608円	0円
賃借料・会場使用料	4,779円	0円
保険料	1,087円	0円
感染防止対策費用	440円	0円
その他経費	6,477円	0円

項目	平均値	中央値
無償ボランティアの活動時間	20.7時間	5.0時間

- 「食材費」では、「10,000 円以上 20,000 円未満」の割合が 26.3%で最も高い。
- 「光熱水費」では、「かかっていない」の割合が 62.0%で最も高い。
- 「需用費（消耗品費）」では、「1 円以上 2,000 円未満」の割合が 35.0%で最も高い。

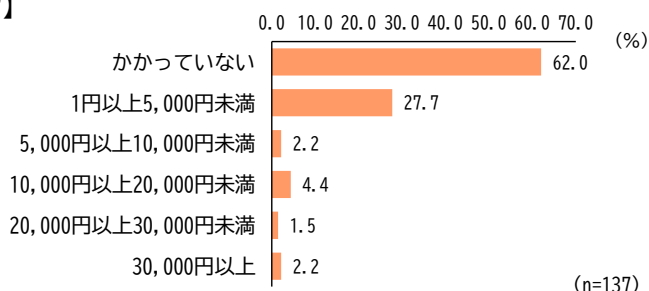
図表 28 1 回の開催にあたって必要な経費【食材費】

	人数	割合 (%)
かかっていない	17	12.4
1円以上5,000円未満	29	21.2
5,000円以上10,000円未満	28	20.4
10,000円以上20,000円未満	36	26.3
20,000円以上30,000円未満	8	5.8
30,000円以上40,000円未満	5	3.6
40,000円以上50,000円未満	5	3.6
50,000円以上100,000円未満	6	4.4
100,000円以上	3	2.2
合計	137	100.0



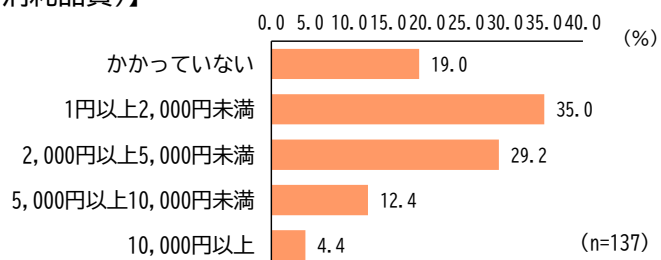
図表 29 1 回の開催にあたって必要な経費【光熱水費】

	人数	割合 (%)
かかっていない	85	62.0
1円以上5,000円未満	38	27.7
5,000円以上10,000円未満	3	2.2
10,000円以上20,000円未満	6	4.4
20,000円以上30,000円未満	2	1.5
30,000円以上	3	2.2
合計	137	100.0



図表 30 1 回の開催にあたって必要な経費【需用費（消耗品費）】

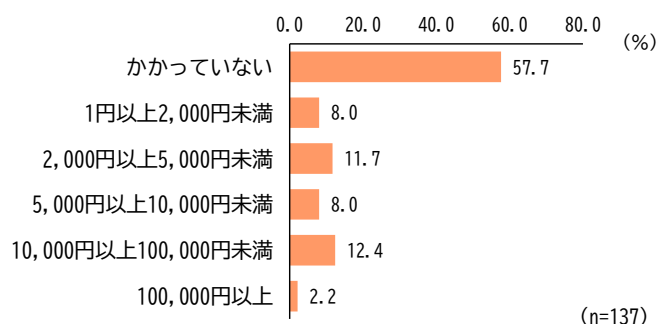
	人数	割合 (%)
かかっていない	26	19.0
1円以上2,000円未満	48	35.0
2,000円以上5,000円未満	40	29.2
5,000円以上10,000円未満	17	12.4
10,000円以上	6	4.4
合計	137	100.0



- 「謝金」「賃借料・会場使用料」「保険料」「感染防止対策費用」では、「かかっていない」の割合が50%以上で最も高くなっている。

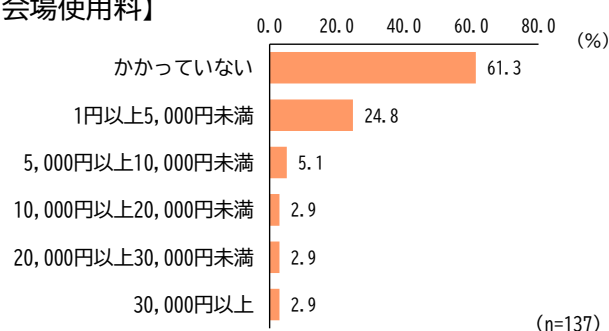
表 31 1 回の開催にあたって必要な経費【謝金】

	人数	割合 (%)
かかっていない	79	57.7
1円以上2,000円未満	11	8.0
2,000円以上5,000円未満	16	11.7
5,000円以上10,000円未満	11	8.0
10,000円以上100,000円未満	17	12.4
100,000円以上	3	2.2
合計	137	100.0



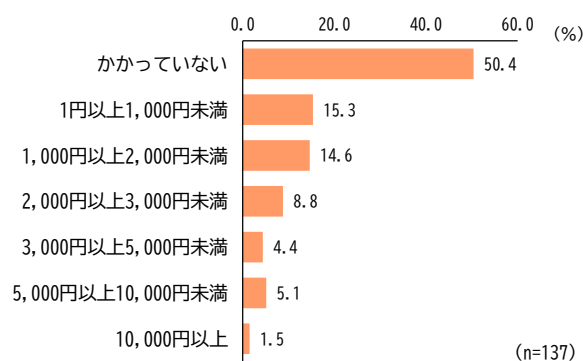
図表 32 1 回の開催にあたって必要な経費【賃借料・会場使用料】

	人数	割合 (%)
かかっていない	84	61.3
1円以上5,000円未満	34	24.8
5,000円以上10,000円未満	7	5.1
10,000円以上20,000円未満	4	2.9
20,000円以上30,000円未満	4	2.9
30,000円以上	4	2.9
合計	137	100.0



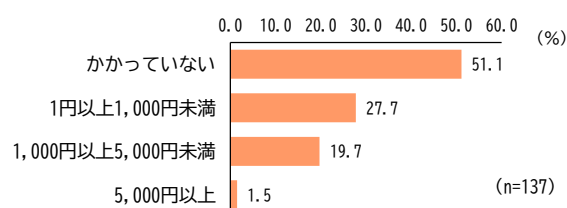
図表 33 1 回の開催にあたって必要な経費【保険料】

	人数	割合 (%)
かかっていない	69	50.4
1円以上1,000円未満	21	15.3
1,000円以上2,000円未満	20	14.6
2,000円以上3,000円未満	12	8.8
3,000円以上5,000円未満	6	4.4
5,000円以上10,000円未満	7	5.1
10,000円以上	2	1.5
合計	137	100.0



図表 34 1 回の開催にあたって必要な経費【感染防止対策費用】

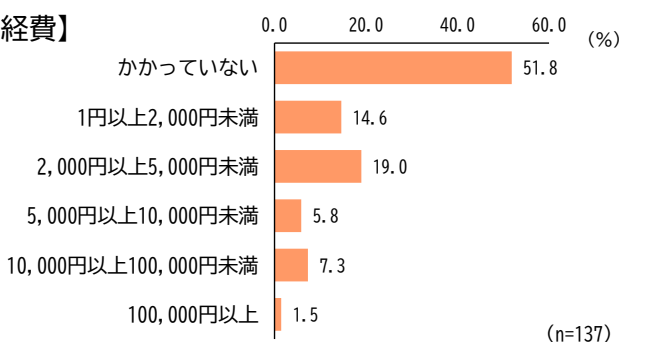
	人数	割合 (%)
かかっていない	70	51.1
1円以上1,000円未満	38	27.7
1,000円以上5,000円未満	27	19.7
5,000円以上	2	1.5
合計	137	100.0



- ・「その他経費」では、「かかっていない」の割合が51.8%で最も高くなっている。
- ・「1回あたりの無償ボランティアの活動時間」では、「6時間未満」の割合が41.0%で最も高くなっている。

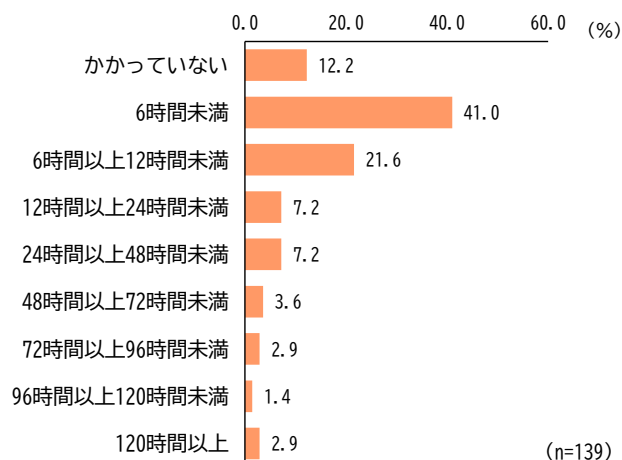
図表 35 1回の開催にあたって必要な経費【その他経費】

	人数	割合 (%)
かかっていない	71	51.8
1円以上2,000円未満	20	14.6
2,000円以上5,000円未満	26	19.0
5,000円以上10,000円未満	8	5.8
10,000円以上100,000円未満	10	7.3
100,000円以上	2	1.5
合計	137	100.0



図表 36 1回あたりの無償ボランティアの活動時間

	人数	割合 (%)
かかっていない	17	12.2
6時間未満	57	41.0
6時間以上12時間未満	30	21.6
12時間以上24時間未満	10	7.2
24時間以上48時間未満	10	7.2
48時間以上72時間未満	5	3.6
72時間以上96時間未満	4	2.9
96時間以上120時間未満	2	1.4
120時間以上	4	2.9
合計	139	100.0

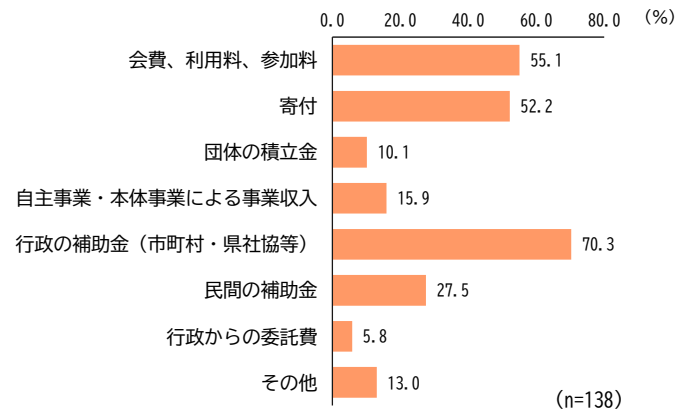


(2) 事業費の調達

- 事業費の調達手段では、「行政の補助金」の割合が 70.3%で最も高く、次いで「会費、利用料、参加料」が 55.1%、「寄付」が 52.2%となっている。
- 最も多くの額を調達している手段では、「行政の補助金」の割合が 48.9%で最も高く、次いで「会費、利用料、参加料」が 12.8%、「民間の補助金」が 12.0%である。

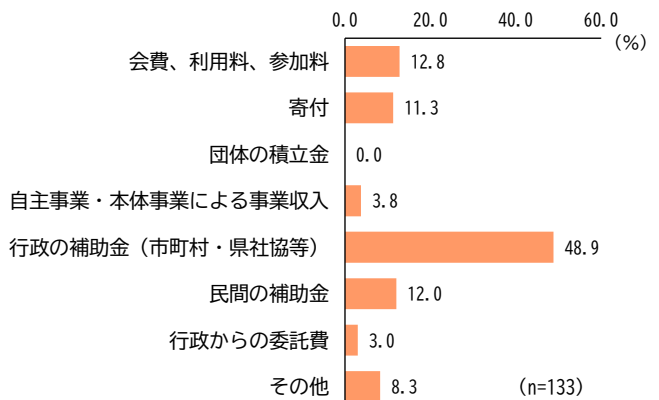
図表 37 事業費の調達手段[複数回答]

	人数	割合 (%)
会費、利用料、参加料	76	55.1
寄付	72	52.2
団体の積立金	14	10.1
自主事業・本体事業による事業収入	22	15.9
行政の補助金（市町村・県社協等）	97	70.3
民間の補助金	38	27.5
行政からの委託費	8	5.8
その他	18	13.0
回答者数	138	



図表 38 最も多くの額を調達している手段

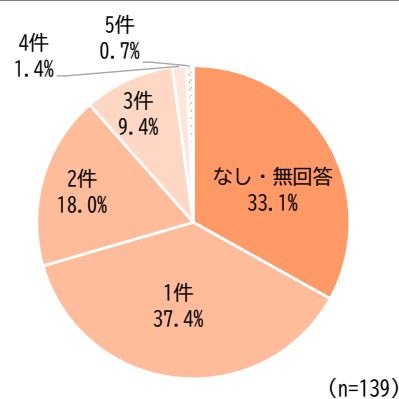
	人数	割合 (%)
会費、利用料、参加料	17	12.8
寄付	15	11.3
団体の積立金	0	0.0
自主事業・本体事業による事業収入	5	3.8
行政の補助金（市町村・県社協等）	65	48.9
民間の補助金	16	12.0
行政からの委託費	4	3.0
その他	11	8.3
合計	133	100.0



- 助成金・補助金の件数は、「1件」の割合が最も高く 37.4%で、次いで「なし」が 33.1%である。平均値は 1.11 件である。
- 金額の平均値は 462,549 円である。
- 寄付の件数は、「なし」の割合が最も高く 74.0%で、次いで「1件」が 12.2%である。平均値は 0.5 件である。
- 金額の平均値は 31,216 円である。

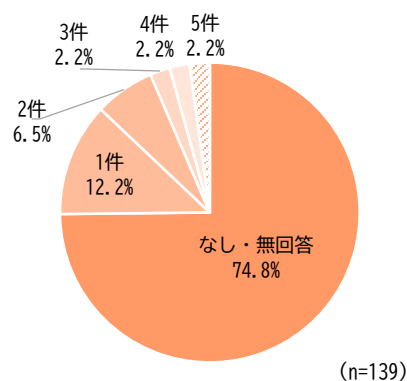
図表 39 助成金・補助金の件数

	人数	割合 (%)
なし・無回答	46	33.1
1件	52	37.4
2件	25	18.0
3件	13	9.4
4件	2	1.4
5件	1	0.7
合計	139	100.0



図表 40 寄付の件数

	人数	割合 (%)
なし・無回答	104	74.8
1件	17	12.2
2件	9	6.5
3件	3	2.2
4件	3	2.2
5件	3	2.2
合計	139	100.0



図表 41 助成金・補助金、寄付の状況

	件数 (平均値)	金額 (平均値)
助成金・補助金	1.1 件	462,549 円
寄付	0.5 件	31,216 円

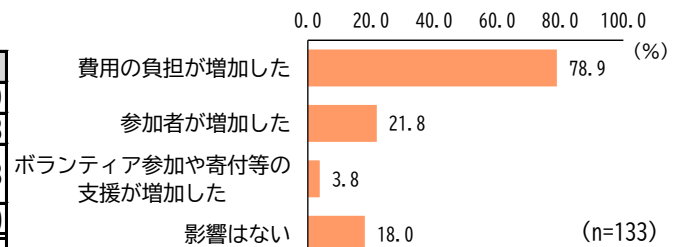
※それぞれ「なし・無回答」を含む

(3) 物価高騰による影響

- 物価高騰については、82.0%の運営者が何らかの影響があると感じている。内容としては、「費用の負担が増加した」の割合が78.9%で最も高く、次いで「参加者が増加した」が21.8%である。
- 「費用の負担が増加した」と答えた運営者に、費用負担が増えた費目を聞くと、「食材費」の割合が90.5%で最も高く、次いで「需用費（消耗品費）」が38.1%、「光熱水費」が25.7%であった。

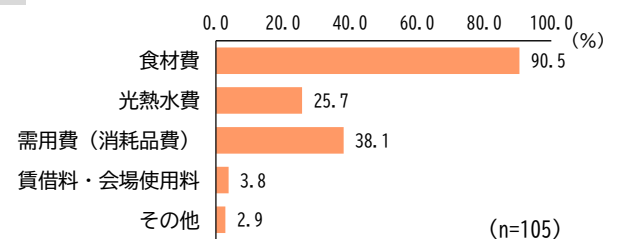
図表 42 物価高騰による影響[複数回答]

	人数	割合 (%)
費用の負担が増加した	105	78.9
参加者が増加した	29	21.8
ボランティア参加や寄付等の支援が増加した	5	3.8
影響はない	24	18.0
回答者数	133	



図表 43 回答対象：「費用の負担が増加した」と答えた運営者 費用負担が増えた費目[複数回答]

	人数	割合 (%)
食材費	95	90.5
光熱水費	27	25.7
需用費（消耗品費）	40	38.1
賃借料・会場使用料	4	3.8
その他	3	2.9
回答者数	105	

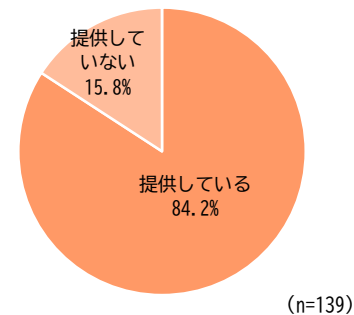


4. 食事提供の実施状況

- 食事提供の実施状況については、「提供している」が 84.2%である。
- 食事提供を行っている居場所における提供方法では、「会食形式」の割合が 87.1%で最も高く、次いで「食料配布」が 49.1%、「弁当配布」が 31.0%となっている。
- 食材の調達方法では、「食料品店等での購入」の割合が 91.3%で最も高く、次いで「フードバンク活動団体からの寄付」が 76.5%、「地域住民からの寄付」が 63.5%、「近隣農家からの寄付」が 57.4%、「企業・店舗からの寄付」が 41.7%となっている。

図表 44 食事提供の有無

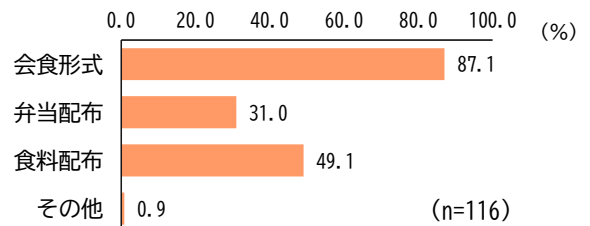
	人数	割合 (%)
提供している	117	84.2
提供していない	22	15.8
合計	139	100.0



図表 45 回答対象：食事提供を行っている居場所の運営者

	人数	割合 (%)
会食形式	101	87.1
弁当配布	36	31.0
食料配布	57	49.1
その他	1	0.9
回答者数	116	

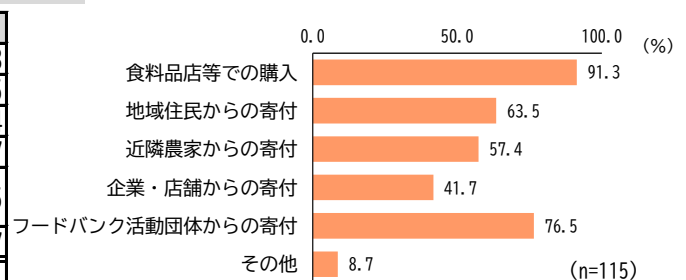
食事の提供方法[複数回答]



図表 46 回答対象：食事提供を行っている居場所の運営者

	人数	割合 (%)
食料品店等での購入	105	91.3
地域住民からの寄付	73	63.5
近隣農家からの寄付	66	57.4
企業・店舗からの寄付	48	41.7
フードバンク活動団体からの寄付	88	76.5
その他	10	8.7
回答者数	115	

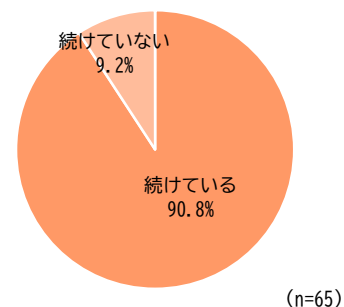
食材の調達方法[複数回答]



- ・弁当・食料配布を行っている居場所の運営者に、新型コロナが落ち着いてからも弁当・食料配布を続けているかを聞くと、「続けている」が90.8%となっている。

図表 47 回答対象：弁当・食料配布を行っている居場所の運営者
新型コロナが落ち着いてからも弁当・食料配布を続けているか

	人数	割合 (%)
続けている	59	90.8
続けない	6	9.2
合計	65	100.0



図表 48 回答対象：弁当・食料配布を行っている居場所の運営者
弁当・食料配布を続けている／続けない理由[自由記述]

【続けている居場所】

需要・必要性があるから【21件】
食料配布が一番喜ばれ、需要がある
参加者の希望による
必要としている方がいると思われるから、続けている。
保護者の希望があるので
求められるから
子どもたちの支援をしていく上で、途中でやめて良い活動ではないため。
希望者がいる
支援の必要な家庭は減っていないから。
物価高のため食料配布をして欲しいと言う声が多数ある。
生活困窮者の支援も兼ねているため
必要としている家庭があるから。また、コロナが落ち着いても、近年の物価高騰に見合う収入が得られていない家庭が多いため。
物価高にあたり経済的に困難な家庭のサポートをするため
ニーズがあるので
現実問題、会食より食料配布の方が助かったり、参加しやすいと思っている家庭も多いと感じるため。
弁当配布のニーズが高いため。
一人親家庭、生活困難家庭の皆さんから、是非続けてほしいと強い要望があるため
来た日だけの支援ではなくトータル的にサポートしたい
会食は望まないが経済的に困窮しているため
テイクアウトを無くしてイートインのみにしたら、来てくれる人が少なくなってしまう、テイクアウトは続けてほしいとの声が多くあったため
会食し、食料、食料を配布している。生活に困窮している家庭が多いから。
食料配布については、物価高騰等もあり、困窮している家庭があるため。

支援された食材・食料等があるから【6件】
提供できる食品が集まるため
活動が続けて行く中で、関係機関との協力の結果本当に支援が必要な家庭等に提供できるようになってきた。又自分も苦しいのに物品を提供してくれる人もあり、続ける原動になっている
地域の方から寄付をたくさんいただくので食糧配布をしています
フードバンクや市民からの寄付があり、使い切れない場合などに配布
頂いた食料がある場合には配布をしている
食材をたくさんいただいた場合には、食材配布も行っている。

会食への参加が難しい利用者がいるから【5件】
テイクアウトを希望する方がいるから。学校にいけないこどもは食堂に来られないから。
昨年始めたばかり。食べに来られない人にも食事が届くため
用事で会食に参加できない人には弁当を持ち帰ってもらう。
わけあって開催場所に来られない家庭への宅配
弁当だからこそ支援が届く家庭がある（会食には参加しにくい）

利用者数が多い、または場所がなく会食で対応できないから【4件】
弁当配布でなく会食形式に戻したいが、利用者が増えて物理的に不可能です
本来会食形式にしたいが、人数が増えすぎて難しい
会食する場所の確保が難しい
広い会場が安定して確保できない。

フードロス対策のため【3件】
フードロスの観点からも循環の場が必要と考えるから
食材を残らず消費してもらうため
会食で残った弁当・食料等を無駄にしない様、配布をしている。

保護者の精神的負担の軽減のため【2件】
保護者の負担軽減のため。
弁当については、週に一回は夕食づくりから解放され、子どもと過ごす時間を作るために家庭へ持ち帰ることを目的としているため。

感染対策のため【2件】
会食形式に不安を持つ保護者も有るので依頼があればテイクアウトに対応している。
依然として感染症対策

ボランティアの負担軽減のため【2件】
ボランティア負担軽減
夏休み中の開催日は、食事スタッフの負担を考慮し弁当

その他【4件】
食事をとりながらのコミュニケーション、親子や地域内、参加者同士でも必要だと思うため。
会食形式だが必ず食料の配布も行っている
新型コロナが落ち着いてから始めた。
長野地域こどもカフェプラットフォームからの情報で、活動日とタイミングが合う場合のみ食料配布を実施。

【続けていない居場所】

会食形式で参加した子ども、保護者、スタッフの交流の場を作りたい
対象者の把握ができていない
会食形式の方が保護者、子どもたち、主催者とのコミュニケーションが深まると感じる。また、おかずの種類も弁当より多く、栄養バランスにも配慮できる。
夏休みは昼食代を補助金（長野地域ネットワーク）から拠出したが、終了した。

5. ボランティアの状況

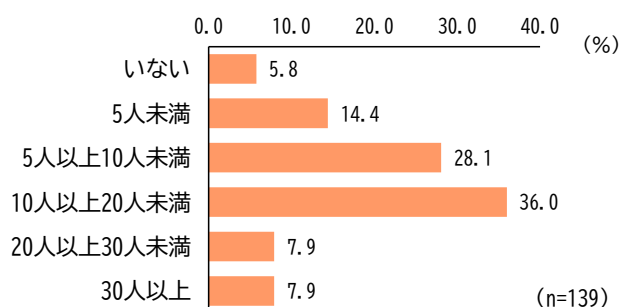
- 活動しているボランティアの人数の平均値は、11.2 人である。学習支援に携わっているボランティアの人数の平均値は 2.2 人で、その 1 か月あたりの活動時間の平均値は 5.3 時間である。
- 活動しているボランティアの人数では、「10 人以上 20 人未満」の割合が 36.0%で最も高い。
- 学習支援に携わっているボランティアの人数では、「いない」(50.4%)を除くと、「5 人未満」の割合が 32.3%で最も高い。
- 学習支援に携わっているボランティアの 1 か月あたりの活動時間では、「いない」(50.0%)を除くと、「6 時間未満」の割合が 30.3%で最も高くなっている。

図表 49 活動しているボランティアの人数・活動時間の平均値

活動しているボランティアの人数	11.2 人
学習支援に携わっているボランティアの人数	2.2 人
学習支援に携わっているボランティアの 1 か月あたりの活動時間	5.3 時間

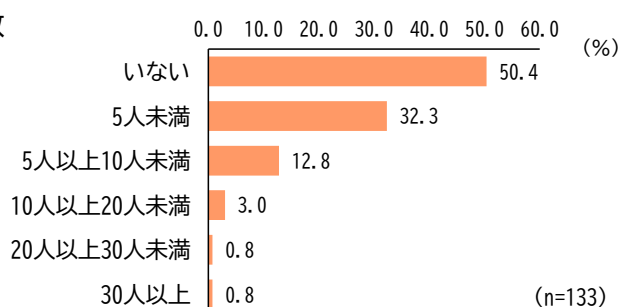
図表 50 活動しているボランティアの人数

	人数	割合 (%)
いない	8	5.8
5人未満	20	14.4
5人以上10人未満	39	28.1
10人以上20人未満	50	36.0
20人以上30人未満	11	7.9
30人以上	11	7.9
合計	139	100.0



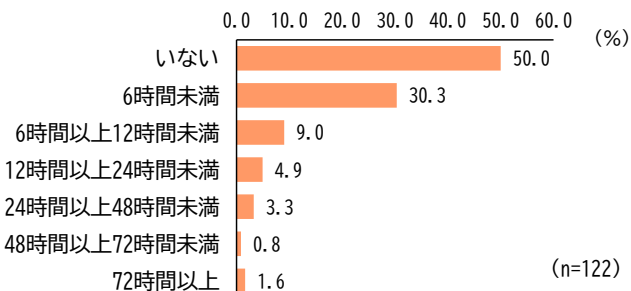
図表 51 学習支援に携わっているボランティアの人数

	人数	割合 (%)
いない	67	50.4
5人未満	43	32.3
5人以上10人未満	17	12.8
10人以上20人未満	4	3.0
20人以上30人未満	1	0.8
30人以上	1	0.8
合計	133	100.0



図表 52 学習支援に携わっているボランティアの 1 か月あたりの活動時間

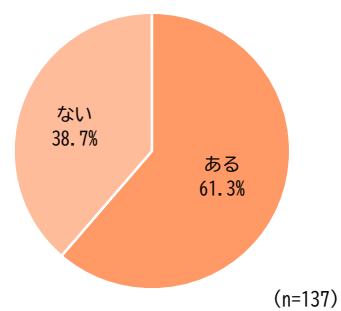
	人数	割合 (%)
いない	61	50.0
6時間未満	37	30.3
6時間以上12時間未満	11	9.0
12時間以上24時間未満	6	4.9
24時間以上48時間未満	4	3.3
48時間以上72時間未満	1	0.8
72時間以上	2	1.6
合計	122	100.0



- 大学生、高校生等のボランティア活動事例の有無については、「ある」が61.3%となっている。

図表 53 大学生、高校生等のボランティア活動事例の有無

	人数	割合 (%)
ある	84	61.3
ない	53	38.7
合計	137	100.0



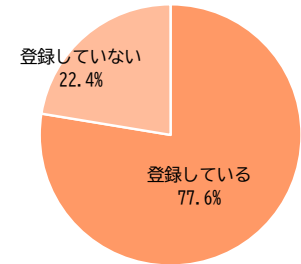
6. 信州こどもカフェ推進地域プラットフォーム・おでかけ保健室

(1) 信州こどもカフェ推進地域プラットフォーム

- 「信州こどもカフェ推進地域プラットフォーム」への登録状況については、「登録している」が 77.6% となっている。
- 「信州こどもカフェ推進地域プラットフォーム」と連携したいことについては、「助成金・補助金の情報提供」の割合が 54.5% で最も高くなっている。

図表 54 「信州こどもカフェ推進地域プラットフォーム」への登録状況

	人数	割合 (%)
登録している	104	77.6
登録していない	30	22.4
合計	134	100.0



(n=134)

図表 55 「信州こどもカフェ推進地域プラットフォーム」と連携したいこと[複数回答]

	人数	割合 (%)
助成金・補助金の情報提供	73	54.5
地域企業（経済団体）とのつながり	55	41.0
地域課題の掘り起こし・解決に向けた取り組み	54	40.3
市町村担当者とのつながり	49	36.6
学校関係者とのつながり	47	35.1
開催情報の周知	44	32.8
特になし	19	14.2
その他	8	6.0
回答者数	134	

図表 56 県や「信州こどもカフェ推進地域プラットフォーム」等で実施する研修会で希望するテーマ
[自由記述]

支援・居場所づくりに求められるものについて【8件】
支援について
支援が必要な（長野県内の）ご家庭の実情
ほんとうにしてほしい支援についてのディスカッションなど
子供の居場所づくり
現在の親子居場所づくりに求められるもの
支援を必要としている子ども達への、具体的な取り組み
みんなが幸せに暮らすにはどうするか
他人や自分を勇気づけ、自身の人生の課題への向き合い方。岡田憲治著「半径5メートルのフェイク論」が面白かったので。同著者の「教室を生きのびる政治学」は読んだことがないが、以下にその本に関して私が気になった部分を引用します。「公共空間が子どもたちにとって自分を脅かすものになってしまっている。一度失敗したら終わりだと震え、うずくまってしまう。そうじゃない、社会とは自分をそこに適応させるべきものではなく、自分たちでつくり上げていくものなんだ、と」

運営について【8件】
団体の運営方法
各地で開催されている団体の事例発表
運営側がどうすれば楽しく継続できるか？困っていること、経済的な負担
ネットを通した申込み フォームのつくりかた 親子レクリエーションの進め方
地域住民の交流の場としての子どもの居場所の先進事例の紹介
開催責任者の高齢化に伴う後継者の問題
こども家庭庁の今年度の施策と事例
県内外の好事例（食事提供や居場所）があれば学びたい。

困難を抱える子どもについて【5件】
子どもの自殺について
不登校児と発達障害との関連 ・両親の発達障害への取り組み
不登校、居場所、引きこもり、当事者の声
学校や放課後児童支援施設等の居場所ではなく、地域住民ボランティアとして居場所を開催している者が発達障害を持つ子どもと、その保護者との関わり方を考えたい。
発達、不登校など

子どもとの関わり方・子どもの権利について【4件】
子どもとのコミュニケーションや理解について、しっかりと共有して質を高めたい思いがある。話題提供できたらと思う。
子どもの権利条約
子どもの権利条約とはなにか。今必要なこと。
子どもの権利、性教育

地域内や運営者同士の交流【4件】
研修というほどでないが、同じ市内の運営者同士のおしゃべり
組織連携
コンパッションシティ
地域・学校との連携

貧困について【3件】
子どもの貧困
「子どもの貧困は親の教育・知識向上から・・・負の連鎖を断ち切るために」といった内容
生理的貧困・相対的貧困への対応

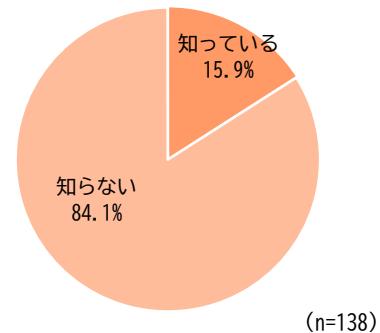
資金調達・助成金・企業との連携について【3件】
企業との接点を作るためのもの。研修と、実際の企業との交流や連携の機会づくり
助成金の取り方
資金調達

(2) 信州こどもカフェおでかけ保健室

- ・「信州こどもカフェおでかけ保健室」の認知について、「知っている」の割合は 15.9%となっている。
- ・「信州こどもカフェおでかけ保健室」による性教育や相談については、「希望する」の割合は 25.9%となっている。

図表 57 「信州こどもカフェおでかけ保健室」の認知

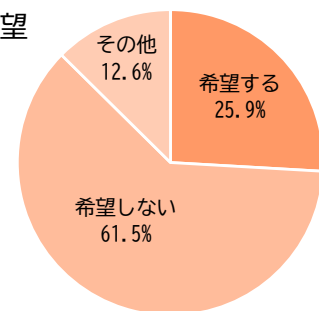
	人数	割合 (%)
知っている	22	15.9
知らない	116	84.1
合計	138	100.0



(n=138)

図表 58 「信州こどもカフェおでかけ保健室」による性教育や相談の希望

	人数	割合 (%)
希望する	35	25.9
希望しない	83	61.5
その他	17	12.6
合計	135	100.0



(n=135)

図表 59 子どもの性教育等で課題と感じていること[自由記述]

学校等における教育の不足や、それによる知識の不足【9件】
貧弱な学校教育
正しい知識を身につけているか
子供の成長はそれぞれで、学校で画一的に教育するのは難しい。
実際に踏み込んだ部分の“真の性教育”を教える場が少ない。
学校での性教育が足りていない気がする
正しく伝わっているかどうか分からない
自治体で条例を作り、学校で包括的性教育をしっかり行うことを義務付けて欲しい。
学校で包括的性教育を実施することを義務付ける条例が必要
学校での性教育が不足している

保護者等の大人の知識・意識変革の必要性【8件】
家庭環境が整うこと
親がうまく話せない 環境がない
家庭での性教育をどのようにするのか？
親が恥ずかしくてうまく伝えられない事。
世間一般に、乳幼児が被害に合うことも多いので、早い段階で本人も含め、父母への教育が必要。
家庭での性教育が足りていない気がする
大人も子供も正しい知識を持つ機会が必要だと思う
伝え方が大切だとは思いますが、各家庭の考え方が色々あると思うので難しいと思います。

運営者の知識・意識変革の必要性【6件】
子どもの体調が悪いのか？精神的、身体的な課題があるのか？スタッフの中に専門知識を持つ者がいない。
性へのタブーを無くして、隠さなくても良いことを、恥ずかしがらずに、はっきりと明確に伝えることが大切。 教える側のマインドセットがとても大切と感じます。
こどもに伝えるノウハウがない
性教育は必要ですが、どう伝えれば子どもたちに抵抗なく理解してもらえるかが課題です
子どもよりも、スタッフ含めて大人の方が性に対して閉鎖的 大人が自信を持って話せるようになりたい
成長期また思春期の子どもたちを預かっているので、スタッフの研修

メディアの影響【5件】
メディアの影響
親のスマホで安易に動画視聴できる環境にある。
偏った情報
SNS などで性に関する有害情報が、性についての本来必要で正しい認識の形成を妨げがちなこと。
SNS などで知らない相手に写真を送ってしまうなど。間違った性知識など。

不登校・ひきこもりによる性教育の機会の不足【4件】
成人の性教育、健康診断が不登校、ひきこもりの場合受けられない。
あまり学校に行っていない子が多いため、性教育に特化した活動を行っていないことが心配。
全く学校に行っていない子は、性教育を受ける機会がない
不登校の子たちへの性教育の機会の不足

指導基準が不明確【4件】
教える内容、どこまで教えるかを書いた教材がほしい。作成配布をお願いしたい。または本の紹介をお願いしたい。
学校で教わる内容と同じ内容なのかどうか。
学校でどんな性教育が行われているのかわからない。
交際等も経験する年ごろであり、パンフレット等で性被害や多様な避妊の方法、もし妊娠してしまった時の長野市の具体的な流れなど情報を伝えたい。学生は出産できるのか、しっかりと体制を整えてほしい。中学生や高校生は性行為をしてはいけないのか問われた際何と答えればよいのか教えてほしい。

利用者間の配慮の欠如やトラブル【3件】
生理の重い軽い 他者への労りの希薄
中学生男子による女子への性的な「からかい」等の言動への対応
小学生高学年や中学生も利用が多く、性への興味から卑猥な発言が多く他の利用者が気分を悪くすることがある。

意識教育や啓発方法【3件】
自分事として、あまり重大な話ではないと捉えている気がする。
性加害から自分の身を守る
大勢の中で聞くのはためらう学生が多い、パンフレットや本などを子供食堂に置いておきたい。

具体的なトピック・対象【5件】
性交渉・妊娠・感染症など
中絶することへの否定的な先入観をなくしたい。
低学年に対する性教育
月経困難症、月経前症候群などが心と体にどんな影響があるのか話していただきたいです。
命の尊さ、両親への感謝など。

7. 課題・今後の意向など

- 活動にあたっての課題については、「運営者など、特定の人にかかる負担が大きい」の割合が46.8%で最も高く、次いで「食材費の負担が大きい」が43.2%、「ボランティアが不足している」が41.7%となっている。

図表 60 活動にあたっての課題[複数回答]

	人数	割合 (%)
運営者など、特定の人にかかる負担が大きい	65	46.8
食材費の負担が大きい	60	43.2
ボランティアが不足している	58	41.7
学校や行政、地域組織等の他組織との連携	45	32.4
運営資金が不足している	43	30.9
生活困窮家庭など、本当に支援をしている人の把握ができない	43	30.9
助成金の見通しが不安である	41	29.5
支援したい子どもの把握ができない	32	23.0
子どもへの周知が足りていない	30	21.6
支援者を増やしたいが、募り方がわからない	23	16.5
食材が不足	21	15.1
こどもの居場所（こどもカフェ）が地域に足りていない	20	14.4
会場の確保が難しい	19	13.7
活動に参加したいが、移動手段がなく来られない人が多い	18	12.9
会場使用料の負担が大きい	17	12.2
食料配布・弁当配布の経費の負担が大きい	17	12.2
気がかりな子ども、世帯が増え、対応すべきことが増えている	17	12.2
気になる親子への個別相談	12	8.6
使える助成金があるか分からない	11	7.9
食中毒への対応	11	7.9
活動の趣旨を理解しない利用者にストレスを感じる	11	7.9
光熱水費の負担が大きい	10	7.2
運営上のノウハウが不足している、知る機会がない	9	6.5
ボランティア保険料の負担が大きい	5	3.6
特になし	10	7.2
その他	22	15.8
回答者数	139	

- ・活動にあたっての課題を信州こどもカフェ推進地域プラットフォームへの登録状況別に見ると、登録団体では「運営者など、特定の人にかかる負担が大きい」の割合が 51.0%で最も高く、次いで「食材費の負担が大きい」が 42.7%であるのに対し、登録団体以外では、「食材費の負担が大きい」が 44.2%で最も高く、次いで「ボランティアが不足している」が 41.9%となっている。

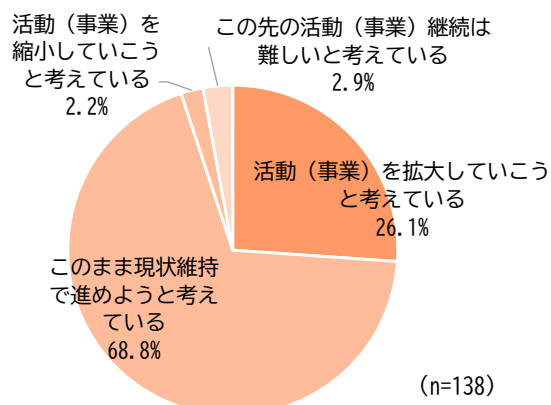
図表 61 信州こどもカフェ推進地域プラットフォームへの登録状況別
活動にあたっての課題[複数回答]

	登録団体 (n=96)	登録団体以外 (n=43)
運営者など、特定の人にかかる負担が大きい	51.0	37.2
食材費の負担が大きい	42.7	44.2
ボランティアが不足している	41.7	41.9
学校や行政、地域組織等の他組織との連携	34.4	27.9
助成金の見通しが不安である	33.3	20.9
生活困窮家庭など、本当に支援をしている人の把握ができない	33.3	25.6
運営資金が不足している	32.3	27.9
支援したい子どもの把握ができない	26.0	16.3
子どもへの周知が足りていない	24.0	16.3
支援者を増やしたいが、募り方がわからない	19.8	9.3
食材が不足	16.7	11.6
こどもの居場所（こどもカフェ）が地域に足りていない	15.6	11.6
活動に参加したいが、移動手段がなく来られない人が多い	15.6	7.0
会場の確保が難しい	14.6	11.6
会場使用料の負担が大きい	13.5	9.3
気がかりな子ども、世帯が増え、対応すべきことが増えている	13.5	9.3
食料配布・弁当配布の経費の負担が大きい	12.5	11.6
光熱水費の負担が大きい	8.3	4.7
気になる親子への個別相談	8.3	9.3
食中毒への対応	8.3	7.0
活動の趣旨を理解しない利用者にストレスを感じる	8.3	7.0
運営上のノウハウが不足している、知る機会がない	7.3	4.7
使える助成金があるか分からない	6.3	11.6
ボランティア保険料の負担が大きい	5.2	0.0
特になし	7.3	7.0
その他	16.7	14.0

- 今後3年間の活動予定では、「このまま現状維持で進めようと考えている」の割合が 68.8%で最も高く、次いで「活動を拡大していこうと考えている」が 26.1%である。

図表 62 今後3年間の活動予定

	人数	割合 (%)
活動（事業）を拡大していこうと考えている	36	26.1
このまま現状維持で進めようと考えている	95	68.8
活動（事業）を縮小していこうと考えている	3	2.2
この先の活動（事業）継続は難しいと考えている	4	2.9
合計	138	100.0



8. 居場所による効果

(1) 利用している子どもたちへの効果

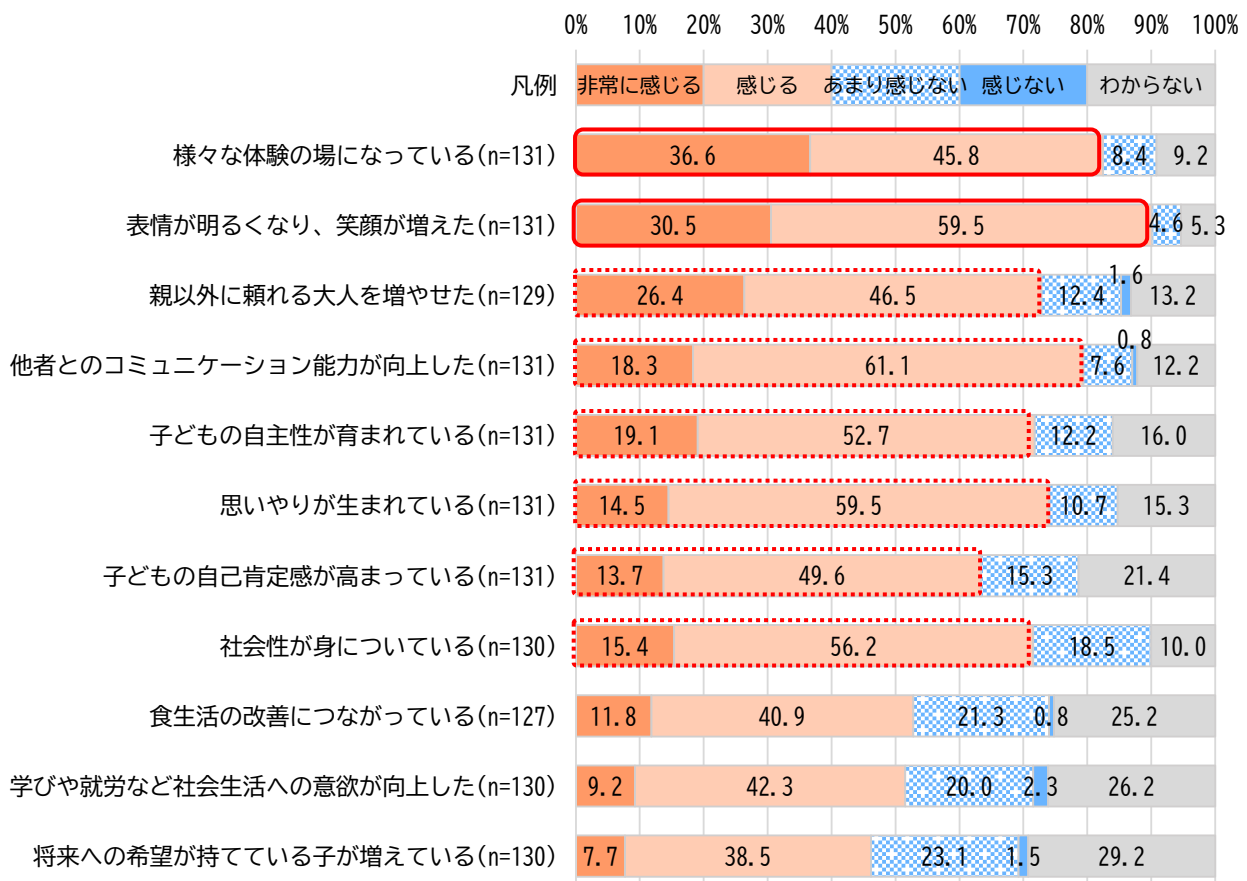
- 居場所による子どもたちへの効果について得点化すると、「様々な体験の場になっている」が 3.31 点で最も高く、次いで「表情が明るくなり、笑顔が増えた」が 3.27 点、「親以外に頼れる大人を増やせた」が 3.13 点となっている。
- 「非常に感じる」と「感じる」の割合の合計は、「表情が明るくなり、笑顔が増えた」(90.1%)、「様々な体験の場になっている」(82.4%) で8割を超えている。また、全 11 項目中8項目で、6割を超えている。

図表 63 利用している子どもたちへの効果（得点）

効果	得点
様々な体験の場になっている	3.31
表情が明るくなり、笑顔が増えた	3.27
親以外に頼れる大人を増やせた	3.13
他者とのコミュニケーション能力が向上した	3.10
子どもの自主性が育まれている	3.08
思いやりが生まれている	3.05
子どもの自己肯定感が高まっている	2.98
社会性が身についている	2.97
食生活の改善につながっている	2.85
学びや就労など社会生活への意欲が向上した	2.79
将来への希望が持てている子が増えている	2.74

※「非常に感じる」＝4点、「感じる」＝3点、「あまり感じない」＝2点、「感じない」＝1点として得点化した。「わからない」は母数から除いている。

図表 64 利用している子どもたちへの効果



(2) 利用している子どもたちの保護者への効果

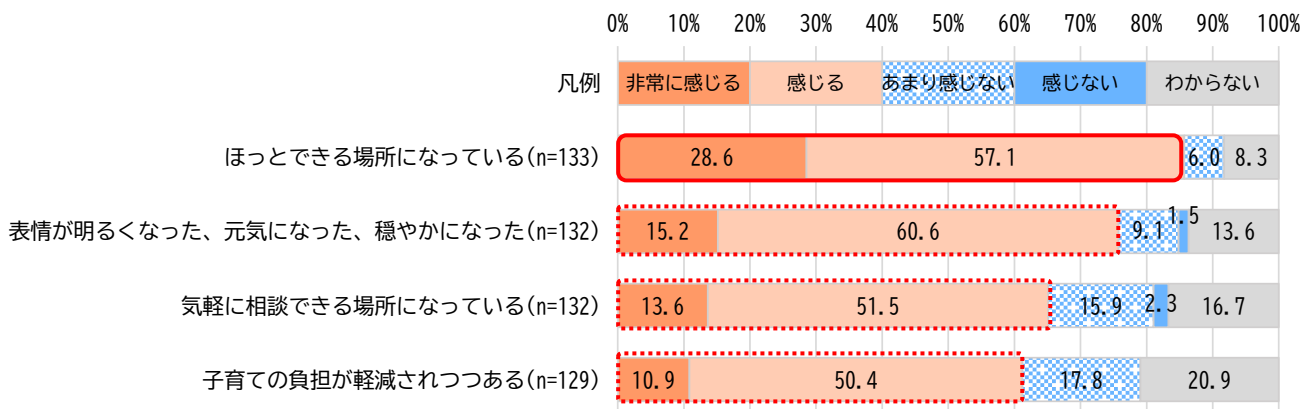
- 居場所による保護者への効果について得点化すると、「ほっとできる場所になっている」が 3.25 点で最も高く、次いで「表情が明るくなった、元気になった、穏やかになった」が 3.04 点となっている。
- 「非常に感じる」と「感じる」の割合の合計は、「ほっとできる場所になっている」(85.7%) で8割を超えている。また、全4項目で6割を超えている。

図表 65 利用している子どもたちの保護者への効果（得点）

効果	得点
ほっとできる場所になっている	3.25
表情が明るくなった、元気になった、穏やかになった	3.04
気軽に相談できる場所になっている	2.92
子育ての負担が軽減されつつある	2.91

※「非常に感じる」= 4点、「感じる」= 3点、「あまり感じない」= 2点、「感じない」= 1点として得点化した。「わからない」は母数から除いている。

図表 66 利用している子どもたちの保護者への効果



(3) 協力者や地域における効果

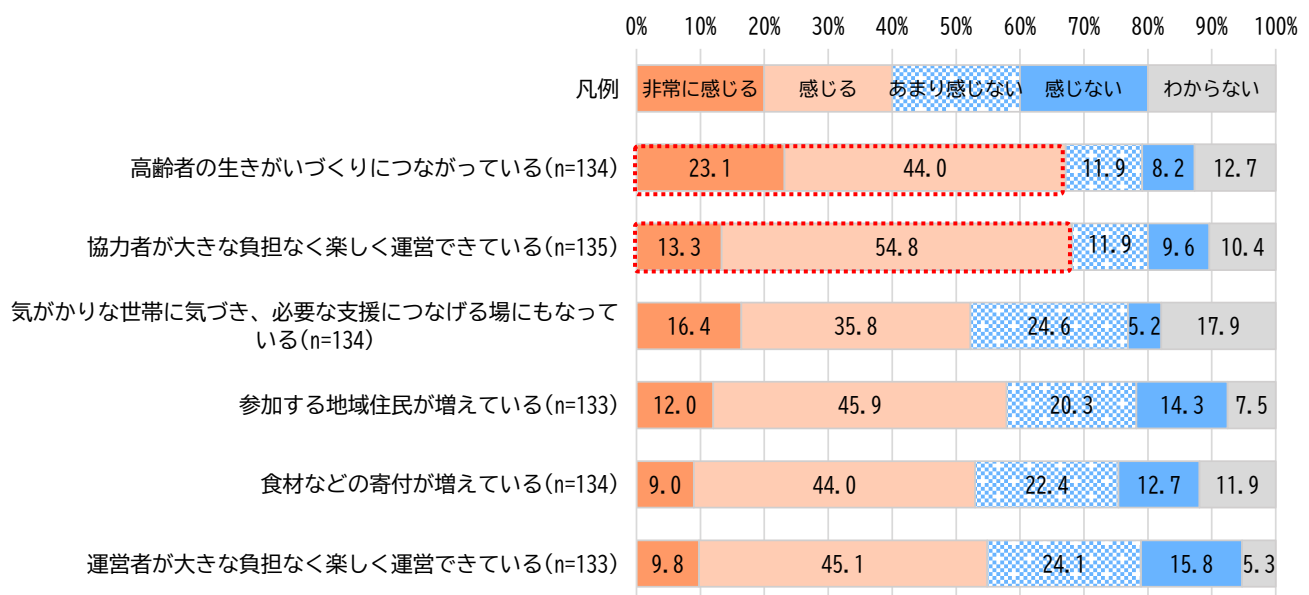
- 居場所による協力者や地域における効果について得点化すると、「高齢者の生きがいがいづくりにつながっている」が2.94点で最も高く、次いで「協力者が大きな負担なく楽しく運営できている」が2.80点となっている。
- 「非常に感じる」と「感じる」の割合の合計は、「協力者が大きな負担なく楽しく運営できている」(68.1%)、「高齢者の生きがいがいづくりにつながっている」(67.2%)で6割を超えている。

図表 67 協力者や地域における効果（得点）

効果	得点
高齢者の生きがいがいづくりにつながっている	2.94
協力者が大きな負担なく楽しく運営できている	2.80
気がかりな世帯に気づき、必要な支援につなげる場にもなっている	2.77
参加する地域住民が増えている	2.60
食材などの寄付が増えている	2.56
運営者が大きな負担なく楽しく運営できている	2.52

※「非常に感じる」＝4点、「感じる」＝3点、「あまり感じない」＝2点、「感じない」＝1点として得点化した。「わからない」は母数から除いている。

図表 68 協力者や地域における効果



(4) 居場所により生じている変化などのエピソード

- 居場所により生じている変化などのエピソードは以下の通りである。

図表 69 居場所により生じている変化などのエピソード[自由記述]

さまざまな世代における交流が生まれている【13件】
回数を重ねることによって輪が広がる。
こどもの食材費を確保するために、第二部として地域居酒屋の機能を持たせている。そこに来る大人同士のつながりや、独身男性のコミュニケーションの場になっている。
コロナ禍でも出来る世代間交流を考える中、いくつになっても、障害があっても楽しめる e スポーツ世代間交流を企画。状況に応じて子どもと高齢者が会場を別にしてリモート交流を行う時もあった。最近では e スポーツだけではなく昔の遊びや子どもがハマっているゲーム等を入れた形に硫化している。今後については検討中。
異年齢の交流がもてて良い。地域の方との交流になり、縄ないなどでは地域の方同士の交流にもなり良かった。
世代間交流が増えた
子どもたちとスタッフの絆が深まった
福祉の色が強く出ても、障がいのある方と 2 才の遊び場になり（一緒に遊べる）とても良いが、一方で一般向けの子どもの居場所へはなかなか入りづらい。
親と子の名前や顔が周知できた
リピーターさんが増えた。 高齢者も友人同士で来られる。 若いご家族も増えた。
最初にスタートした時のメンバーの一人が癌で闘病生活を送ったときもお弁当を届けたり、病院の送迎をしたり、みんなで支えることができました。地域とのつながりが薄い移住者の高齢者同士の助け合いの拠点にもなっています
顔見知りの方が増え、商業施設などで偶然お逢いし、挨拶を交わした。
住民が個人的に打ち込んでいる趣味を巡って人々の交流が始まり、その趣味の同好会・サークルなどがいくつか生まれた。
地域で顔見知りが増えた
子どもの居場所や、親子のよりどころとなっている【9件】
安心して過ごせる居場所があることによって孤立をふせぎ、心の安定を得ることができていると思います。
心のより所になっている
首都圏などから移住し、親が遠くに居て頼ることができない子育て世代の方々の拠り所となれている実感はあります。
保育所や学校などとは違う、じいじとばあばの家に遊びに来て、やりたいことをとことんやって、帰る。家庭の中の様に「普通の暮らし」で過ごしています。
滞在が長いので子育て支援（居場所）につながっている。
昼夜食提供なので安心されている 一緒に調理することで食育にもなっている

2023 年と 2024 年に NHK E テレキラキラムチューにて 2 回取材を受け、吉江陽友君のエピソードの中で、彼が通うフリースクールの様子として放送されました。なかなか外に出ることができない子どもにとってもここに行きたいと強く願うモチベーションの源となっています。
子どもたちが心から安心してることができ、心許せる仲間ができ、生きる励みとなることが何よりの喜びです。
子どもたちは各々、のびのびと過ごしています。

子どもの成長・経験の場や、大人と関わる機会となっている【8 件】
共働き世代で、夫婦での参加者が保護者に多くなってきた。家族皆さんでお腹が満たされ、児童とボランティアとの交流が社会経験となっていると肯定的な意見を得られた。
スタートして 2 年目を迎えているが、子どもたちが自発的に参加するようになった。 1) 食事の準備、配膳、手伝い 2) イベントへの提案、提言 3) イベント開催時の進行 4) あいさつが増えた
子供達の自主性が向上したこと
子どもたちがイベントを、企画から実施まで担当した際に、終了後、子どもたちが達成感に溢れた様子でした。また、その後、その経験が自信となり、自主性が育った様子でした。
学校や放課後デイサービスでも居場所のなかった子どもが、徐々に人と一緒にできることが増えた。暴言や拒否を受け入れて、何ができるかを一緒に考えてくれるスタッフと過ごす中での変化があった。
始まる時間より早くに、こどもたちが集まって来る。時によれば、手伝いもしてくれる。
当所に参加する子は、様々な問題を抱えています。大人たちが一人一人に常に寄り添い、そっと背中を押すことで、大きく変わっていく姿を目の当たりにしてきました。
排泄習慣等基本的な生活習慣が身についていない子どもが、自立してきた。また、他のこども達と関われなかった中学生が、自分が受け入れられたことにより積極的に意見が言えるようになった。

支援の輪の広がりや循環が生まれている【9 件】
参加者だった親が、ボランティアとして支える側になっている。
日本語教室の活動が主なので、このアンケートに 回答がしにくい部分がありました。しかし、支援物資については、とても助かっています。今では、学習者、元学習者等外国籍住民の協力があり助かっています。
参加者から、子育てが一段落したら是非お手伝いに来たい、高校生になったら子ども食堂に来て子どもたちと遊びたい、と言ってくれる参加者が出て来ている。
子育て世代のボランティア団体が共に活動してくれており、若い世代に福祉活動が広まってきている。
活動を見学に来た団体が子ども食堂を立ち上げてくれた。
開始当初より参加者が増えており、レギュラーになっている方も増えている。地区に根付いてきている。イベントや会食も楽しみにしているという声も少しずつ聞こえてくるようになった。
地域振興課の職員が実情を聴いてくれたり有用な情報をくれてとても助かった。
地域住民が食材提供をしてくださるようになった。回覧板に子ども食堂の情報が載り、地域性特有の困り感を持つご家庭が多いことを周知できるようになった。
小学生の頃からずっと来てくれて、中学生、高校生、大学生になってもボランティアに来てくれました。

高齢者や障がい者の楽しみや生きがいとなっている【6件】
高齢者、特に1人老人の方々が、小さい子供達と話ができたり、昔の遊びをしたり生きがいになっている為、楽しみにしている。
シニア大学の方が応援にきてくださる機会があったがシニア大学以外の高齢者が関われる環境ができればもっとやりがいや生きがい、温かな環境になると思います。まだまだ自分には無関係と思っている高齢者が多いですが、もっと関われる機会があったらうれしいです。救われる若者世代が多くなることや団体の負担も減っていくと感じます
独居の高齢男性の楽しみの場になっている
それを見ている笑顔の一人暮らしのお年寄りのすがた
子ども食堂へ出向くことで、独居の高齢者の外出やコミュニケーションの機会が増えた。
障がいをお持ちの方がボランティアしてくれている。障がいをお持ちの方も役割を感じボランティアを楽しみにしてくれている。

子どもが明るく活発になっている、希望が生まれている【5件】
本来のその子らしさを発揮できるようで、生き生きしている子が多いです。
大きなぬいぐるみを抱えて喜んで帰って行く子供
昨年、腕時計のリサイクルの活動を行った際に、女子中学生が私が働き始めて初任給か夏のボーナスで、お母さんにSEIKOの腕時計を買ってあげたい！と反応が有りました。
コロナで元気がなかったこども達の笑顔が増えました。
参加のこども数は少ないですが、その分スタッフ・ボランティアと信頼関係が出来、笑顔が絶えません。勉強も成績が向上。彼らの自信に繋がっています。

学年や年齢を超えた子ども同士のつながりが生まれている【5件】
年齢の差はあるが、同じ地区の子同士の名前、顔が分かるようになり、親近感を感じているように思う。
学年を超えた交流が活発になり、地域としてのまとまりが向上したと感じております
親の前では「いい子」になってしまう子どもや学校に行けない子など、家庭と学校ではない「居場所」の必要性を感じています。子どもだけが集まり、学区と年を越えた交流が生まれている
異年齢の子どもの関わりが増えた
学年が違って、話したり、一緒にご飯を食べたりする姿が見られて、新たな交流や繋がりが見られます。ひとりで参加した子をほっとかないで、中学生が声をかけたりして、思いやりの心が育っているように感じます。

活動への関心が高まっている【5件】
子ども食堂の活動を、2023年の第21回読売福祉文化賞に応募し、全国で初めて社会福祉法人として受賞できたこと。2024年の第55回博報賞にも応募し、53年ぶりに社会福祉法人として受賞することができました。子ども食堂の取り組みが全国や各界で認められてきたと実感します。
関心は高まっていると感じる
近くの方で、「子ども食堂をやりたい」と見学に来られる方が複数いる
市内にこども食堂や子どもの居場所が増えるきっかけが作れたと勝手に思っています。
地域において、一つの支援団体として、見られるようになってきている感じがする。

課題を抱える家庭の支援につながっている【4件】
よくきてくれていた子が関係性を深める中で家庭の相談をしてくれ、保護することができた。
子供がお腹が空いたと言わなくなったと親から話してくれた
活動の初めは町のこども課が実施している見守り弁当を受託をしてお届けにいった家庭(こどもの居場所によく来ることもの家)でカップヌードルを食べているか見てきてとたのまれたことから、こどもに関わってきた3人のばあさんがこども食堂をたちあげました。その時のこどもにはいつもスタッフが声をかけ、シングルマザーで遅くまで仕事をしているお母さんにお弁当を持ち帰ってもらっていましたが、最近はお弁当は？とか配布する食糧を「これもらっていい？」と聞いて家の食事を気にして、必要な支援を相談してくれるようになったことです。
毎回、参加者からの感想を寄せてもらい、それぞれの家庭での変化を受け止めることをしています。参加者に有意義な時間をお届けできていると感じています。

ボランティアとして関わる人たちの成長の場になっている【2件】
ボランティアの高校生や大学生の成長が著しい点です。以前、集団不適應だった小学生が、ボランティア活動に参加してから高校生や大学生になって将来の進路を真剣に考えるようになったこと。また、卒業後、教員や県職員になって、教育や福祉の分野の仕事に就けた等の成果が数多く上がってきました。さらに、子ども食堂に参加していた中学3年間不登校だった女子生徒が、公立大学の教育学部に進学し、参加している不登校児童の研究を深め、いじめや不登校等の解決のために大学院に進学したいという希望から、受験したところ 2024 年 4 月に公立大学大学院に合格できたこと。
学生のフィールドワークの場になっており、学生が子ども支援に関わる良いきっかけになった。

その他【4件】
色彩教室や科学教室、カメラ教室など学びのものが多いので（大人用も）楽しんでもらえている。
地域振興課の職員が実情を聴いてくれたり有用な情報をくれたりしてとても助かった。
恵まれた環境で行うことができている
コロナにより減った参加人数が少しずつ増えている

9. 活動継続のモチベーションや居場所運営に関する意見

図表 70 活動を続けるうえでのモチベーション[自由記述]

子どもたちや関わる人たちの笑顔や喜びの声【52 件】
こども達の笑顔
喜んでくれる人がいる
子ども達の喜んでくれる姿
母親や子どもが喜んでくれたこと
皆さんに、来てよかったと喜ばれること
参加者の皆様の笑顔。
子どもたちの笑顔
未来の笑顔
参加して下さった、お子さんや保護者の方が、楽しんでくれている表情や様子をうかがうことができること。
利用者からの感謝とその笑顔
参加者からの喜びの声
親子の笑顔
子どもたちの笑顔
みんなの笑顔や優しさ、心の豊かさがベースにあり、経済のバランスが成り立っていること
参加する子どもの笑顔。幼児の保護者からの感謝のコトバ。
お弁当や食材を提供して、お腹が満たされて勉強に集中できたと話してくれたり、一人暮らしのお年寄りが子どもを見て笑顔になっている姿
子供たちとそこご家族の笑顔、満足感
参加者の笑顔、喜ぶ姿が見れることが1番嬉しいです。
来てくださる方々の笑顔
子どもや参加者の笑顔 関わる関係者が楽しそうに活動をしていること
来てくださる参加者が増える事。楽しいと言ってもらえる事
参加者の笑顔
参加する子どもたちの笑顔。親御さんからからの感謝の言葉。
子供の笑顔
子どもたちのパワーや笑顔。 仲間との信頼関係。目的を明確化していること
子どもやボランティアの笑顔
子どもたちの笑顔
みんなの喜ぶ顔
参加者の笑顔
参加の皆さんに喜んでいただいていること。
子ども達の笑顔ありがとうなどの言葉

子どもたちが喜ぶ顔
子ども達の笑顔であったり、「おいしかったよ！」の一言であったりと、日々の暮らしのお役に立てたことです(^^)
参加者の反応や、感謝の手紙
参加してくれる利用者からのありがとうの声、
参加者の笑顔と感謝の言葉
子どもたちの元気な姿を見れること。
子どもたちの笑顔や美味しかったという参加者の言葉
来場者の方の喜びの声。
こどもたちの喜ぶ顔をみること
参加者やボランティアさんの笑顔
利用者の方からの感謝の声、
参加者の笑顔
参加者の笑顔、頂戴する感謝、それがボランティアで運営を担うモチベーション
参加者から「来て良かった」と言われる事
未来ある子供たちの笑顔が見られる「居場所づくり」のイベント企画を実施する。
こども達の笑顔、様子が会を重ねるごとに良い方向に向かっていることがはっきりわかる
子どもたちの笑顔と参加家族からの感謝の言葉
子どもの笑顔
来てくれる方の笑顔を見ることが出来た時。
子どもたちの笑顔。
こども達の元気と笑顔。

多様な交流が生まれる場になっていること【22件】
地区民生委員として地域の皆さんと広く交流したい。
ボランティア、児童、保護者等、多世代交流が成されていること
運営側の準備等大変な面もあるが多世代でのふれあう様子がモチベーションになっている。
世代を越えて一緒にごはんを食べるのが美味しく、楽しいため
子どもたちとスタッフの絆が深まっている事
子供から大人までだれでも参加できる居場所とすることで人々の関わりを生み温かなつながりの輪が進展することによるこびを感じるためである
近所に住む者同士が、気軽に集うことがうれしいです。
多世代、特に高齢者が子供たちとの交流に生きがいを感じていると話してもらう時など、モチベーションが上がる。
かつてあった、日本の助け合いの精神と命の文化を地域の方と父母や子どもたちへ繋いでいきたいという核は持っております。
地域の活性化
多世代交流の良い機会となっている。
子育てにおける繋がり作り

人のつながり
子ども食堂に来てくれている子どもたちとの関わり
地域の人同士が顔見知りになり、自主的な交流活動が生まれたりすること。
高校生、専門学校生の利用
いろいろな人との触れ合い
来場者との関わり。
地域の居場所
地域の支援の輪
食事を提供時に地域の方々と会話し、コミュニケーションが取れる事。
様々な人の交流が一人一人を逞しく元気にしてくれる

「役に立ちたい」「必要性がある」という思いや手ごたえ【21 件】
子育てへの支援の必要性を感じている
「子どもから大人まで、一人ひとりが愛される存在！」という信念
不安と混乱した社会にあって、将来を担うこどもたちを健やかに成長させたいという強い使命と責任
誰かのために役立ちたい思い
社会的弱者の状況
市民の力
現場で実ニーズを感じる事
生活困窮や課題を抱えるこどもや家庭のエネルギーを蓄える一助になっていると思える時
人の役に立っている気持ちがある
令和3年10月開設以来、利用者が増え、地域に必要とされていると痛感しているから。
生活に困っている人に、少しでも手を差し伸べられたらという想いで活動している
労働組合的な信義
必要な人にサポートできて、その方が生きながらえているという実感。
より良い、住みやすい地域にしていきたいという情熱のみ
人の役に立っている事
「地域の子どもは地域で育てる！」をモットーに、子どもにも親にも安心な、学童保育以外のお子さんの居場所の補完を行っている
十分お役に立っていると思えること
本当に困っているご家族が沢山いる。悩みをたくさん聞いている。少しでも私たちに出来ることで手助けをしたい。
行政の支援対象とならないが支援が必要な家庭に支援できたとき。
居場所を求めている人がたくさんいる。次の世代につなげていくこと。
どのような境遇におかれた子どもも、一人ひとりがその子らしく夢と希望をもって生活をしてほしい

子どもたちや保護者からの期待【18件】
子どもが楽しく参加してくれていることに喜びを感じる。
開催日には次々と子供がやって来るので、「開けてあげたい」と毎回思っている。
「楽しかった」「ゲームから離れてよかった」という感謝の声。
こどもたちや地域の方々子ども食堂に来て、笑顔で過ごしてくださっている様子を見ること。「美味しかった」「誰かと話せて良かった」と言葉をかけてくださること。
自分の子もまわりの子も楽しみだと言ってくれる事
参加希望者がいる
親子参加者が増える傾向にあり、スタッフの励ましとなっています。
参加者の増加 必要とされていること
参加してくれる子どもたちの存在
当カフェの雰囲気を好んで来てくださるリピーターがいる事
子どもたちや保護者が居場所として開催を楽しみにしてくれている姿
子どもへの学習支援
子ども達から「今度いつ？」と聞かれる事で次回も頑張ろう！と思っています。
生徒の「勉強したい」という気持ちや本音の発言に支えられている。
モノの循環に子どもたちが自然に馴染んでいること。
子どもたちの学習に対する意欲
子どもたちに、忘れられない思い出が生まれる場所であること。
子どもとの関わり。子どもが楽しいと思える事業を行う地域は全ての人にとっても楽しく住みやすい地域（町会）になると思う。

支援や協力が得られていること【14件】
企業など協力をいただいているので金銭的な苦勞がないのは大変ありがたい。ボランティアの方々が78才という高齢者の為若い方々を育てる為に皆さん努力している
応援してくれる地域の大人達の存在。
知らない人から食料品やお金の寄付が届く度に、気持ちを託された気持ちになる。
活動を継続していくための助成金・寄付・賛同の声
活動に賛同しておコメなど提供してくれる人が増えて来たこと
全国からの応援の声がある。
地域住民の協力(野菜の提供など)や活動に対しての応援(ボランティア)
日本語教室に関わっている外国籍住民の協力がある事
ボランティアやスタッフや寄付者等協力者がいる
突然現れる篤志寄付者
ボランティアの熱心さ
寄付
日曜日はここにきて、いろいろなことを話したり何か届けたり受け取ったりする人がふえていること。
地域の民生委員さん、他の方が、ボランティア活動に協力いただいたり、賞賛いただくことで継続して頑張っていこうと思える。

運営者・協力者も含む関わる人たちの楽しみや生きがい【10件】
自分も楽しむ
運営者自身が活動に生きがいを感じている点です。
子供との交流
スタッフの楽しみ、自己満足
無償ボランティアは四捨五入して 60～80 歳のババースで運営しているが、みんな楽しみにしていてくれて、仲良く一緒に支えあって年老いていきたい
活動を楽しむこと
スタッフがやりがいを感じて子どもも手伝ってくれていること。
利用者やスタッフが楽しんでいるのがわかる時
子ども食堂を通じて私自身がたくさんの方と関わりを持つことができ、自分自身が成長できる場所と感じた時。
子どもたちと同じ時間（勉強、食事、レクリエーション）を過ごすことが楽しみだから。

子どもたちの成長【9件】
子ども達の成長
子どもたちが自発的になっていく事
子供達への食事の提供、学習支援を通じ、健やかな成長の手助けをすること
子どもたちの交流の場がつくれていること。
子どもたちの成長
子どもや親の変容
子どもたちの成長の様子が見られること
子どもたちの成長と笑顔
子どもたちの変化や成長

スタッフ間のつながり【3件】
スタッフ間の連携、信頼関係が増している事
主催者であるボランティア仲間同士のコミュニケーション。
新規にボランティア参加があること、スタッフ同士の交流がみられること

継続してきた経験【2件】
24 年間地域住民の気持ちでつづけてきていること
もう 20 年以上続けているのでそのまま。

図表 71 居場所運営に関する意見[自由記述]

【子どもの居場所の必要性・意義・効果】

子どもの居場所の必要性や今後の希望・展望【8件】
近所のおばあちゃんに、お姉ちゃんに、おじちゃんに困ったら助けてもらっていいんだと感じてもらえる居場所が日本に増えていけるよう、国や行政からの援助を望みます。
良かれと思つての支援ではなく、子どもとの対等性が担保され、子どもが生きられる社会につながる場として、質の向上を図っていききたい
中高生の居場所が少ないと感じているので、中高生向けの時間や居場所が県内に増えたら良いなと思います。
子ども食堂のイメージを明るいものにしていきたい。誰でも来てもらえるようにしたい。
今のように、誰でも自由に安心して参加できる居場所、遊び場所、無料で食事が出来る場所、として今後も活動を続けていきたい。支援場所として一つの選択肢として求められるような存在となっていければと思う。
子どもたちの身近なところに居場所が増えるといいと思います。
子ども食堂に集まっている人は貧困だけではなく、不登校のお子さん、特別な支援が必要なお子さん、LGBT のお子さんなど、様々な困難を抱えている。そういう子どもや保護者の方の居場所（元気の源）になる子ども食堂を目指している。
子ども自身への支援の居場所か、地域コミュニティの場としての居場所か迷うことが多いです。地域の中で子どもは育っていきいますが、大勢の人を集めての居場所の開催ではなく、少人数になってしましますが、子どもだけの育ち合いの場の必要性も感じています。

居場所が存在する意義【2件】
子どもや高齢の方たちが、安心でき、安全に、気軽に遊びに行ける。
私たちの活動は、生活日本語習得支援が主です。年1～2回ワールドカフェを開きます。地域の方達と交流、居場所づくりをしています。食品など支援頂き感謝しています。

効果～交流や子どもの成長【3件】
子どもの居場所づくりの会では、子どもと高齢者がともに集える場所にしようと活動している。地域の子どもと高齢者がともに集い、地域そのものが大家族のような環境になれば！その為の環境づくりととらえて活動を続けていきたい。
大学生の参加、協力（学習支援や生活体験支援、遊び）は、子どもたちにとって大変有意義であり、活動の励みになっている。
今年6年目。一期生の中高生は社会人・大学生になっています。参加当初に比べ見違えるようになりしました。定期的に手伝いに来てくれる子もいます。

効果～問題解決【2件】
居場所支援として進めてきたこども食堂だが、昨今の物価高の影響もあり、相対的貧困の手前の収入を得ている世帯の支援につながっているように思う。中間層からの制度の恩恵を受けない世帯にとって、夕食の手間を月1回はぶき、地域とのつながりが少なからずある。こども食堂は地域の福祉資源として考えられる。
引きこもりの親御さんからの相談では、息子さんが単なる就労拒否であることが分かり、引きこもりに対しての可哀そうという先入観で物事を観なくなりました。

【居場所の運営における課題】

課題～資金・助成金【9件】
子供食堂を運営するうえでの一番の問題は運営するための資金です。当区のように市街地から遠く離れている地域は食材等の支援を受けることはなく、地域差を感じております。
H29年8月より運営（コロナ禍で3年休止）令和5年5月より再開。この間、村からの助成金（3年間限定）や、社協の補助金、参加料などで運営してきました。今年の物価高騰や助成金終了で運営不安であり、参加料（大人）を300円から500円に上げ、理解を得て開催。できれば開催（毎年4月より）前に、助成金などの情報提供いただけると嬉しいです。
駒ヶ根市だけでしょうか？ 内閣府の交付金をいただいての運営助成金に、団体立ち上げ支援として縛りをつけ3年間の助成金交付が終われば他の助成金の申請は受付無いと言われました。
要のスタッフは、有償で活動してもらうことで、密度も、効果も違う。しかし、助成金に、役務費を認めていないため、その部分を寄付や会費回収で賄わねばならないのは、継続的運営をする上で、大きなハードルになる。ぜひ、役務費が重要な経費であることを認識した助成制度を創設してもらいたい。
「こども」に限定せず地域の持続維持のための活動をしています。そのため「日用品」も配布しています。食品についてもそうですが、助成金では運営に係る物品等の購入は認められていますが、食品や日用品の購入は不可であることが多く、実際には使いづらいのが現状です。そのため、企業に「寄付」の依頼等をお願いしています。
助成金に関しては、公益財団法人や民間の支援制度は多いと感じますが、市町村自治体の支援制度は少ない気がします。
活動費もほぼ助成金頼みなのでいつまで活動ができるか不安もある。
金銭的体力的に運営継続が難しい
こどもカフェの助成金を3年のみでなく延長していただきたい。

課題～マンパワー【8件】
地域にたくさんあり公平な場所として居場所は必要だと思います。ボランティアを仕事としてできる様、がんばりたいと思います。
市民の協力と思いのある人たちで成り立っていることを行政はもっと分かってもらいたい。儲からないもの、実践と出世できないものは手も出さないのかなと。心ある一部の関係機関の方はボランティアで来てくれています

活動が継続できるような仕組みづくりが、会社で仕事をするような形にできるといいと思います。 仕事であれば家族も社会も協力してくれますが、ボランティア活動には家族、社会も理解をしてくれませんか…ということをお願いしました。
主催者は人的・時間的・労力的な負担が大きくなる。 地域でつくる居場所もよいが、過度な負担がかからないようにして行ってほしい。そのためには、地域住民を支援する方策が必要。
スタッフの高齢化が進み、現状維持がやっとですが、もう少し頑張りたいと思います。
ボランティアで頑張っている方々の声を、日常的に社協職員や役場職員から吸い上げて、県政に反映させて下さい。
これまで、順調に運営できた要因は、常勤スタッフ（有償）と、高校生無償ボランティアの熱心な活動のおかげだと痛感している。
運営主体の3法人としても社会貢献活動の一環として行っており、子どもの居場所となるような活動をしたいと思うがそれにはもう少し開催頻度を増やす必要があると感じる。今の月に一度の開催では参加者にとっては居場所ではなく「イベント(特別)」といった印象が強いと思われる。しかし、回数を増やそうにも、3法人それぞれ本来の業務がありながらの活動なので正直負担感もあることは否めない。そのため月に2回という目標設定自体も難しい。

課題～ネットワーク構築・行政への期待【7件】
行政の子育ての部署と教育関係の部署の連携が取れているのかと疑問に感じる事がある。学校側がもう少し居場所等、民間の支援活動に関係深く連携をとれる様になると良いと思う。
いつも応援やご支援あるおかげで活動ができています。ありがとうございます。月2回おこなっていた「フレッシュフード」も希望団体が増えてきており、物資を取りに行く時間や運搬費も含め課題であると感じます。在庫食品を抱えている企業様やNPOでは物資管理が難しく廃棄、処分にコストがかかっていると思います。今後も情報交換、連携していけば、継続して活動していく団体や、救われるご家庭も増えていくと思います。個々の団体がそれぞれで頑張るのではなく、物資関係はうまく循環できたらと思います。 今後ともよろしくお願いいたします。
行政との両輪で開催を継続できないので、こども食堂・多世代の居場所の推進に協力は難しいです
居場所づくりを開きたくてもどこに申請してよいのかわかりづらいので窓口を開いて申請をスムーズにして欲しい
高齢者の方々との交流は、子どもたちにとって安心となり、高齢者の方々にとっても喜びとなる様子を度々見てきました。二つをつなぐ仕組み作りを行政からも率先してやっていただけたらと願います。
地域の自治体との連携支援を早急をお願いしたいです！！
行政の委嘱で実施する活動も実施したいと思います。

課題～継続性全般【3件】
今の所私達の子供食堂はいろいろな面で恵まれているように思います。ただこれがいつまで続くのか、不安を感じます。
大きく行うのではなく、細々とだが場所を増やして行こうほうが良いのかもしれないと感じる。
コロナでしばらく休んでいたの、こどもの参加者が減少している。

課題～その他【4件】
大人の参加費問題。 ハロウィンこども食堂では 3500 人集まったが大人の参加費がなかなか支払ってもらえない。
開催地期は田舎のため、子どもが参加したくても親に車で送ってもらわないと難しい。
参加者を増やしたいが、会場の広さに限界がある。
コロナでしばらく休んでいたの、こどもの参加者が減少している。

【子どもを巡る環境に対する見解】

社会状況全般【4件】
活動は、子供食堂として始めましたが、少子高齢化の現実を垣間見る機会となっています。 子供食堂よりも、高齢者食堂を開催した方が地域のためにもなるのでは？とも感じてしまいます。 それだけ、子供が居ないということです。 子供は、何処へ行ってしまったのでしょうか？ ○○ハラスメントだらけ、規制が厳しくなり、物価も上がり賃金は据え置き状態で、結婚して子供を持つ気になるのでしょうか？ もっと、おおらかな世の中で有って欲しいです。
コロナ禍も一段落して子どもの貧困化は実はよりその深刻度が高まっているように感じます。その原因となるのは「親」の貧困化です。いくら一時しのぎの子どもへの支援をしても、日常生活で一緒にいる「毒親」への指導が行われなければ状況は変わらないと考えます。
市民は「子ども食堂」といえば子どもの貧困対策なのかと思って、寄付したり補助金をくれたりボランティアに参加するのかなと思いますが、本当に困窮している家庭の子どもへの支援は「子ども食堂」なのかどうかもう一度現状をよく見て欲しいと思います。地域振興・住民ボランティア参加活性化のための「子ども食堂」(子どもカフェ)なら、貧困対策名目の予算や寄付、補助金を一律に安易に充てないことが必要だと思います。子どもの貧困対策は「貧困と学歴の連鎖」を心配する子どもたちの声(H27 アンケート)に立ち戻って、それに応える施策に予算や補助金を充てるべきかと思います。同アンケートでもすでにひとり親家庭の子どもは一般の家庭よりも「あっても行かない」を多く選択していました。
現在の日本社会は資本主義社会に参加して稼ぐこと>子育てという関係に私にはみえるのですが、プラットフォームに参加している人たちはどのような関係に見えているのか、そして本当にそのような関係ならば、どこをどのように変えれば良いのか、を話し合う場があるといいかな、と思いました。

教育を取り巻く環境【3件】
殺伐とした現代社会にあって、全国で 73 万件のいじめの過去最高の件数のニュースや不登校児童生徒 41 万件、職員の療養休暇取得者数 7900 人余等、子どもを含めた教育を取り巻く環境の悪化を考えてみても、こども食堂のもつ使命は極めて大きいと言えます。全国や教育関係者、福祉関係者に幅広く、子ども食堂の成果や課題を伝えていくべきだと私たち社会福祉法人の一員として日々、感じております。これからも、ご支援やアドバイス、情報提供等をよろしくお願いします。
学校は<地域に開かれた学校>などのスローガンを掲げることは多いが、しばしば形だけに終わって本当に開いていく態勢をとることはあまりないように感じる。教員に課される負担があまりにも大きいため、気持ちはあっても定式的な教育活動の枠から飛び出すことは精神的にも物理的にもなかなか困難なのだろうと理解はしているが。

子育て世代は、子どもの教育費や保護者負担に苦しんでいます。新しいものでなくとも、循環すれば使える教材や教具は人気です。学校でも、保護者が負担して新品を購入することを安易に勧めないで欲しいです。小規模校なら共用や備え付けにできるものもあります。商店の販売チラシを配布するのもやめて欲しいです。バッグだけが新しい柄の中身は同じ商品をお勧めしてくれます。そのためだけに新品を購入した保護者もいます。でもこういう意見は保護者は言えないし、次世代サポート課にお伝えしても、学校現場には届きませんよね。

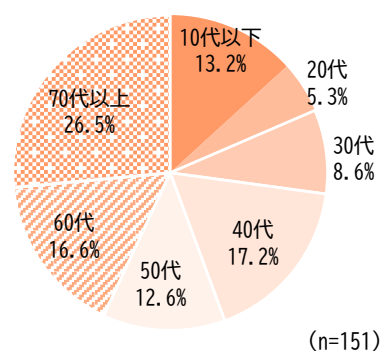
第3章 調査結果2：協力者に対するアンケート結果

1. 回答者属性

- 回答者の年齢は、「10～30代」が27.1%、「40・50代」が29.8%、「60代以上」が43.1%となっている。
- 性別は、「女性」が72.2%、「男性」が27.2%、「回答しない」が0.7%となっている。
- 職業は、「非正規社員」の割合が22.0%で最も高く、次いで「家事専業」が17.3%、「学生」が16.7%、「正規社員」が15.3%、「自営業・個人事業主」が14.7%となっている。

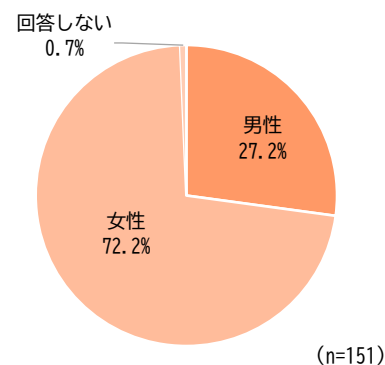
図表 72 年齢

	人数	割合 (%)
10代以下	20	13.2
20代	8	5.3
30代	13	8.6
40代	26	17.2
50代	19	12.6
60代	25	16.6
70代以上	40	26.5
合計	151	100.0



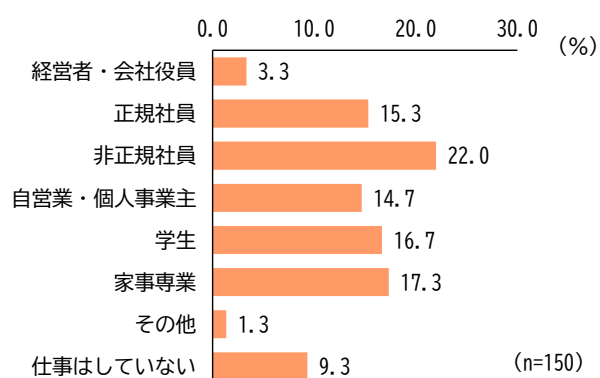
図表 73 性別

	人数	割合 (%)
男性	41	27.2
女性	109	72.2
回答しない	1	0.7
合計	151	100.0



図表 74 職業

	人数	割合 (%)
経営者・会社役員	5	3.3
正規社員	23	15.3
非正規社員	33	22.0
自営業・個人事業主	22	14.7
学生	25	16.7
家事専業	26	17.3
その他	2	1.3
仕事はしていない	14	9.3
合計	150	100.0



- 居住市町村は、「松本市」の割合が 23.8%で最も高く、次いで「長野市」が 12.6%、「飯田市」が 9.3%、「佐久市」が 7.9%となっている。

図表 75 居住市町村

地域	人数	市町村	人数	割合 (%)
佐久地域	21	佐久市	12	7.9
		軽井沢町	1	0.7
		御代田町	8	5.3
上田地域	6	上田市	6	4.0
諏訪地域	9	岡谷市	1	0.7
		諏訪市	6	4.0
		茅野市	2	1.3
上伊那地域	10	伊那市	1	0.7
		駒ヶ根市	5	3.3
		中川村	1	0.7
		宮田村	3	2.0
南信州地域	22	飯田市	14	9.3
		松川町	1	0.7
		高森町	4	2.6
		阿南町	1	0.7
		泰阜村	1	0.7
		喬木村	1	0.7
木曽地域	2	上松町	2	1.3
松本地域	42	松本市	36	23.8
		塩尻市	1	0.7
		安曇野市	5	3.3
北アルプス地域	5	大町市	2	1.3
		松川村	3	2.0
長野地域	27	長野市	19	12.6
		須坂市	5	3.3
		小布施町	2	1.3
		飯綱町	1	0.7
北信地域	6	中野市	5	3.3
		山ノ内町	1	0.7
無回答			1	0.7
合計			151	100.0

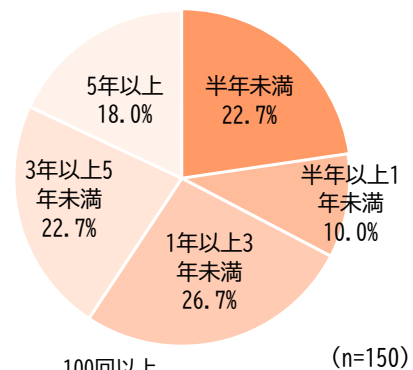
2. 居場所との関わり方や居場所に対する考え

(1) 居場所との関わり方

- 活動を始めてからの期間は、「1年以上3年未満」の割合が26.7%で最も高く、次いで「半年未満」と「3年以上5年未満」がそれぞれ22.5%となっている。
- 1年あたりの活動回数は、「12回以上24回未満」(月に1・2回程度)の割合が31.5%で最も高く、次いで「24回以上52回未満」(月に2回～週に1回程度)が20.1%となっている。
- 1回あたりの活動時間は、「2時間以上4時間未満」の割合が35.6%で最も高く、次いで「4時間以上6時間未満」が29.5%である。

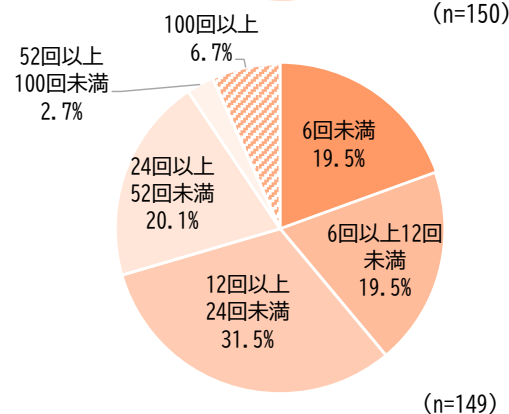
図表 76 活動を始めてからの期間

	人数	割合 (%)
半年未満	34	22.7
半年以上1年未満	15	10.0
1年以上3年未満	40	26.7
3年以上5年未満	34	22.7
5年以上	27	18.0
合計	150	100.0



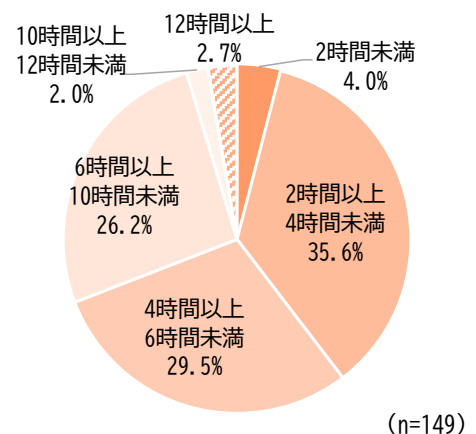
図表 77 1年あたりの活動回数

	人数	割合 (%)
6回未満	29	19.5
6回以上12回未満	29	19.5
12回以上24回未満	47	31.5
24回以上52回未満	30	20.1
52回以上100回未満	4	2.7
100回以上	10	6.7
合計	149	100.0



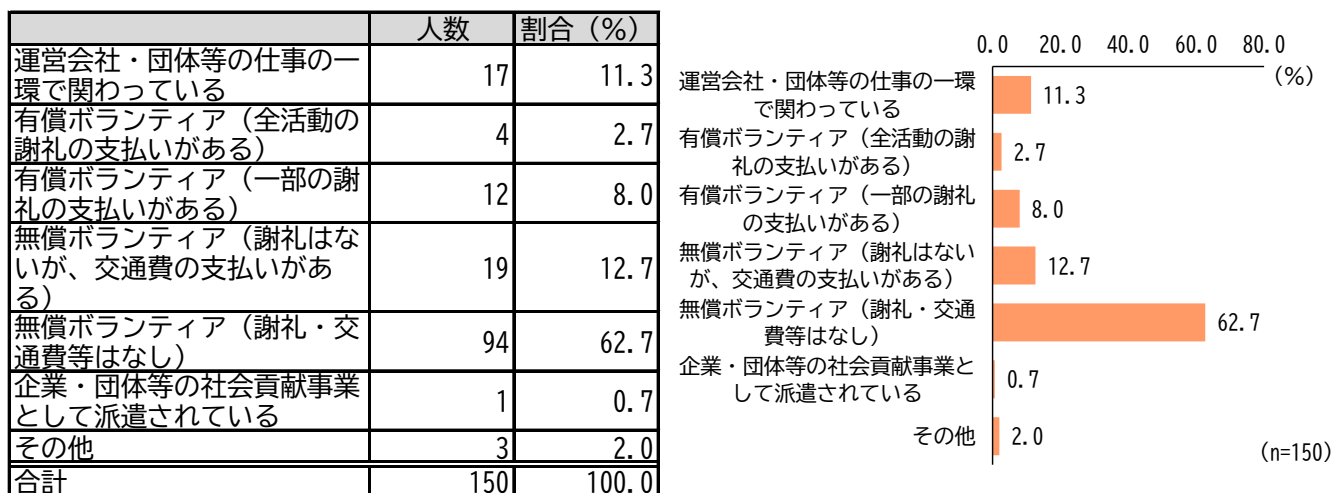
図表 78 1回あたりの活動時間

	人数	割合 (%)
2時間未満	6	4.0
2時間以上4時間未満	53	35.6
4時間以上6時間未満	44	29.5
6時間以上10時間未満	39	26.2
10時間以上12時間未満	3	2.0
12時間以上	4	2.7
合計	149	100.0

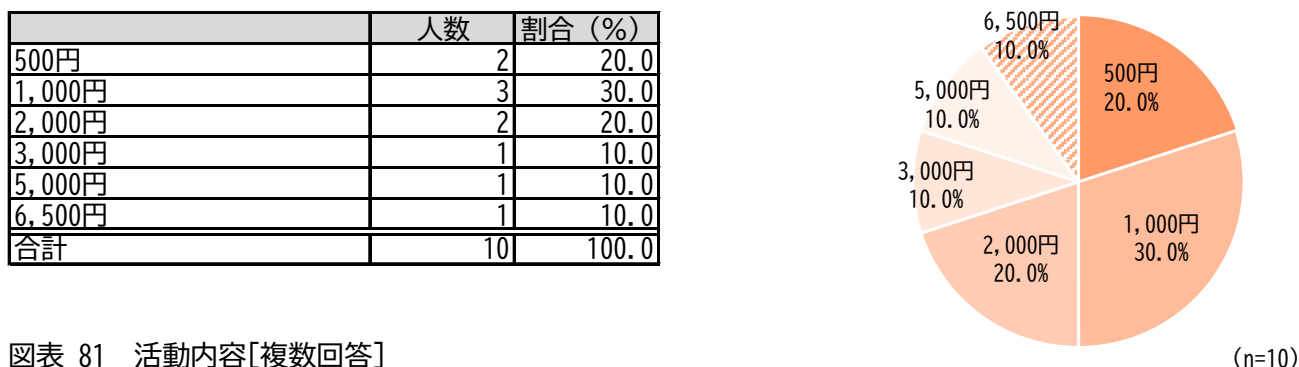


- 活動の形態は、「無償ボランティア（謝礼・交通費等はなし）」の割合が 62.7%で最も高い。
- 有償ボランティアとして関わっている人における、1 回あたりの謝礼の金額は、「500 円」～「6,500 円」となっている。
- 活動内容は、「食事提供」の割合が 61.5%で最も高く、次いで「子どもと一緒に遊ぶ」が 53.4%である。

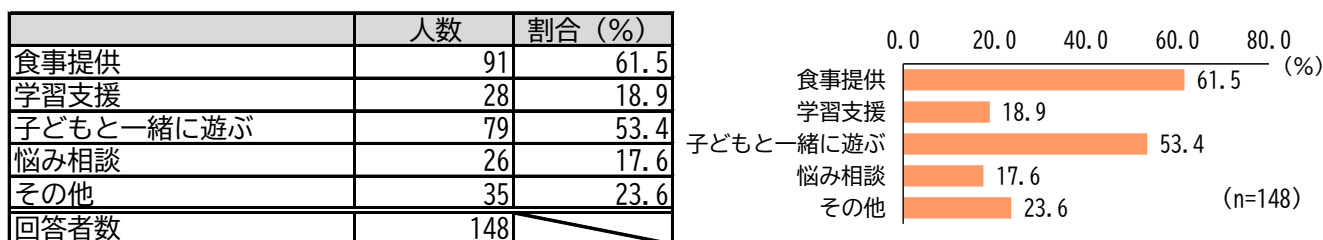
図表 79 活動の形態



図表 80 回答対象：「有償ボランティア」として関わっている人 1 回あたりの謝礼の金額



図表 81 活動内容[複数回答]

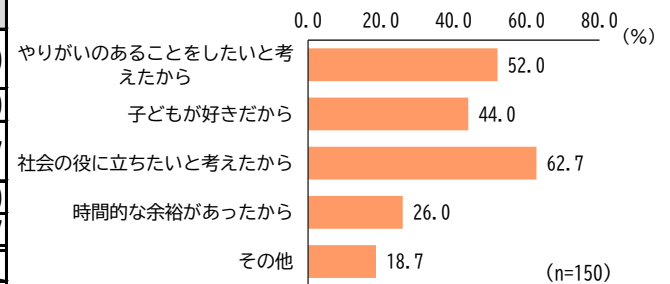


(2) 居場所に対する考え

- 居場所の活動に参加した動機は、「社会の役に立ちたいと考えたから」の割合が 62.7%で最も高く、次いで「やりがいのあることをしたいと考えたから」が 52.0%である。
- 活動を始めたきっかけは、「運営者に誘われて」の割合が 45.0%で最も高く、次いで「知人・友人（運営者以外）に誘われて」が 34.9%である。
- 現在活動している居場所を選んだ理由は、「考え方に共感したため」の割合が 51.7%で最も高く、次いで「自宅から近いため」が 40.9%である。

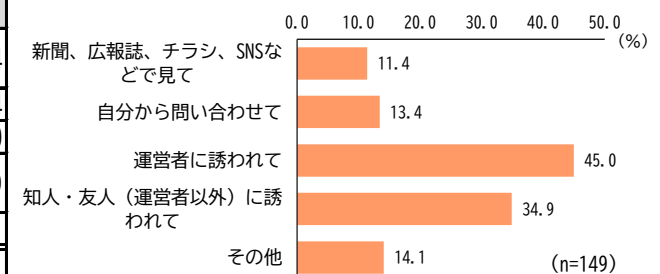
図表 82 参加した動機[複数回答]

	人数	割合 (%)
やりがいのあることをしたいと考えたから	78	52.0
子どもが好きだから	66	44.0
社会の役に立ちたいと考えたから	94	62.7
時間的な余裕があったから	39	26.0
その他	28	18.7
回答者数	150	



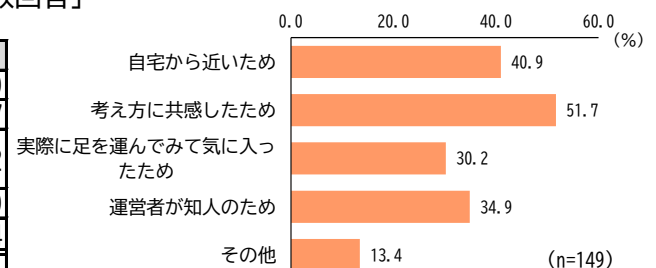
図表 83 活動を始めたきっかけ[複数回答]

	人数	割合 (%)
新聞、広報誌、チラシ、SNSなどで見て	17	11.4
自分から問い合わせ	20	13.4
運営者に誘われて	67	45.0
知人・友人（運営者以外）に誘われて	52	34.9
その他	21	14.1
回答者数	149	



図表 84 現在活動している居場所を選んだ理由[複数回答]

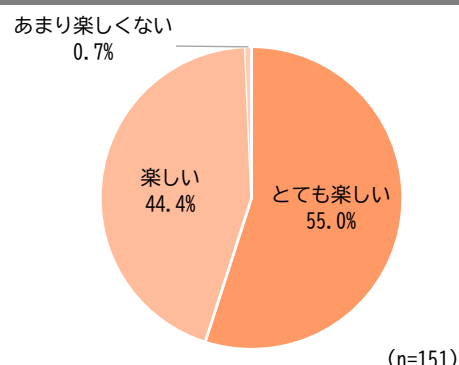
	人数	割合 (%)
自宅から近いため	61	40.9
考え方に共感したため	77	51.7
実際に足を運んでみて気に入ったため	45	30.2
運営者が知人のため	52	34.9
その他	20	13.4
回答者数	149	



- 活動は楽しいと感じるかについては、「とても楽しい」の割合が55.0%、「楽しい」が44.4%で、合計すると99.4%となっている。
- 活動を通して得られたことは、「やりがいを感じている」の割合が76.8%で最も高く、次いで「様々な世代の人と関わっている」が68.2%である。
- 活動による負担を感じているかについては、「負担にはなっていない」の割合が62.9%、「負担を感じているところもある」が37.1%となっている。
- 負担を感じている人における、負担を感じる点は、「時間的な負担が大きい」の割合が50.9%で最も高く、次いで「肉体的または精神的な負担が大きい」が38.2%である。

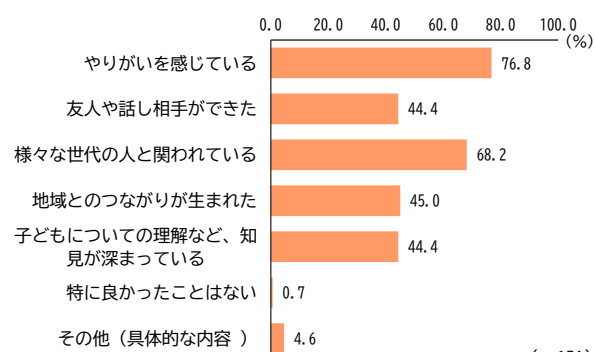
図表 85 活動は楽しいと感じるか

	人数	割合 (%)
とても楽しい	83	55.0
楽しい	67	44.4
あまり楽しくない	1	0.7
合計	151	100.0



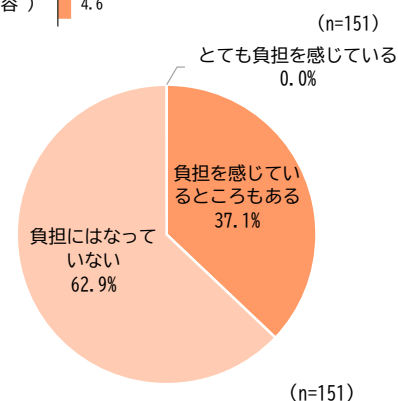
図表 86 活動を通して得られたこと[複数回答]

	人数	割合 (%)
やりがいを感じている	116	76.8
友人や話し相手ができる	67	44.4
様々な世代の人と関わっている	103	68.2
地域とのつながりが生まれた	68	45.0
子どもについての理解など、知見が深まっている	67	44.4
特に良かったことはない	1	0.7
その他	7	4.6
回答者数	151	



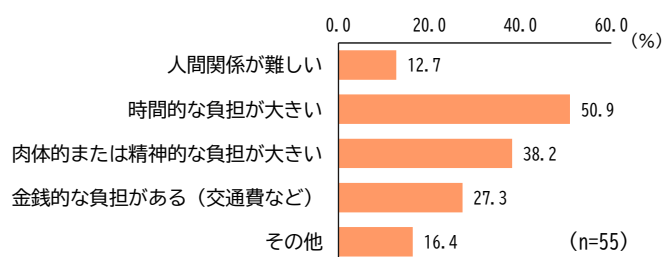
図表 87 活動による負担を感じているか

	人数	割合 (%)
とても負担を感じている	0	0.0
負担を感じているところもある	56	37.1
負担にはなっていない	95	62.9
合計	151	100.0



図表 88 回答対象：「とても負担を感じている」「負担を感じているところもある」と感じる人
負担を感じる点[複数回答]

	人数	割合 (%)
人間関係が難しい	7	12.7
時間的な負担が大きい	28	50.9
肉体的または精神的な負担が大きい	21	38.2
金銭的な負担がある（交通費など）	15	27.3
その他	9	16.4
回答者数	55	



3. 居場所による効果

- 居場所による、利用している子どもたちへの効果では、「様々な体験の場になっている」の割合が 77.5% で最も高く、次いで「表情が明るくなり、笑顔が増えた」が 74.2% である。
- 利用している子どもたちの保護者への効果では、「ほっとできる居場所になっている」の割合が 74.2% で最も高く、次いで「気軽に相談できる場所になっている」が 60.3% である。
- 地域における効果では、「食材などの寄付が増えている」の割合が 69.5% で最も高く、次いで「地域住民の結びつきが強まっている」が 64.2% である。

図表 89 利用している子どもたちへの効果（上位5つ）〔複数回答〕

	人数	割合 (%)
様々な体験の場になっている	117	77.5
表情が明るくなり、笑顔が増えた	112	74.2
社会性が身についている（挨拶をする、マナーが身につくなど）	98	64.9
他者とのコミュニケーションが向上した	96	63.6
親以外に頼れる大人が増えた	94	62.3
回答者数	151	

図表 90 利用している子どもたちの保護者への効果〔複数回答〕

	人数	割合 (%)
ほっとできる場所になっている	112	74.2
気軽に相談できる場所になっている	91	60.3
表情が明るくなった、元気になった、穏やかになった	88	58.3
家事・子育ての負担が軽くなった	85	56.3
経済的な負担が軽くなった	62	41.1
回答者数	151	

図表 91 地域における効果〔複数回答〕

	人数	割合 (%)
食材などの寄付が増えている	105	69.5
地域住民の結びつきが強まっている	97	64.2
高齢者の生きがいづくりにつながっている	81	53.6
協力する企業が増えている	79	52.3
気がかりな世帯に気づき、必要な支援につなげる場にもなっている	77	51.0
回答者数	151	

・居場所により生じている変化などのエピソードは以下の通りである。

図表 92 居場所により生じている変化などのエピソード[自由記述]

子どもの成長・経験の場となっている【14件】
子どもから進んで何かしたいと話しかけてくれた事がとても小さな変化とは思いが嬉しかった
生活においてあらゆるものに興味を持ち始め、それを大人や子どもにも話してくれる
約5年が経とうとしているので子どもたちの成長を間近で見えて感じることができるのは嬉しい
私自身は、お手伝いのこどもたちの精神的成長を感じます。会場づくりなど「前回と同じでいい？」と積極的に動いてくれます。
自分達で劇を作った。
なかなか話を聞いてくれなかった子もボランティアの高校生との交流を通じ、協調性を持てるようになった
思いやりを持ったり、これまで周りが見えていなかった子も一歩落ち着いてやっていけるようになっていのように感じる
成長を感じると共に内容の変化を感じる
地区の育成会や子供会でなくとも体験がある。室内で(流しそうめん、餅つき、ボーリングなど)
一緒に工作をしている時に、出来たものを見せてくれたのが可愛かったです
行事食、伝統食等を味わう機会になっている。嫌いな食べ物も少しずつ食べれるようになってきている
人間関係が豊かになり、生活の幅が広がり、表情も豊かに変化している。
食事を食べられなかったお子さんが食べれるようになっている。
こども同士でトラブルがあった時「絶対あやまらない」と言っていた子があやまることができた
子どもが楽しく参加している【8件】
学生が遊びに来たときは、子どもたちがそれぞれの方法でおもてなしをしていたり、楽しそうに遊んでいた
子供たちが自分らしくあそんでいていいなと思った
おかわりが自由に出来て、お腹いっぱい食べられて嬉しかったそうです。
うどんが打てるようになったり、火を扱えるようになったり、とてものびのびしているなとよく言われた
食事の手伝い、ゲーム、野菜作りなど子供の意見を聞き一緒にやって貰います。良い思い出になったと喜ばれた。
皆で食事する楽しさ
みんなで楽しくイベントをやったこと
子ども達は元気に活動している
子どもの居場所や、親子のよりどころとなっている【8件】
食事があるときは集う人が増えている
回数を重ねると、顔見知りになれる。また、おもちゃなどを通して会話ができる。つながるきっかけが増えると、関わるハードルが下がる。

子供達皆が気兼ねなく集える場所になっていると思う。子供達が自ら配膳したり、おかわりを求めている姿が沢山見えた。
自分は1人だと自己完結する事なく、様々な居場所や人間がいる事で、自分は1人じゃないと感じられる部分があると思う。
お母さんが、子育ての悩みを吐露する場で、肩の荷をすこしでもおろすことで、子どもに笑顔で向き合おうとする姿が、見えるようになり、月1回の子ども食堂を楽しみに、参加してもらい、お母さんの柔らかい表情の中で、子どもも、楽しげに参加している様にみえます。
子ども達だけで来てくれた時があり、親が安心して送り出すことが出来る食堂だと感じた
生徒たちに慣れて、安心する空間が作られている
冬は雪にとざされており、子供達の活動の場として有効であります

子どもが明るく活発になっている、意欲が湧いている【6件】
週一回の学習支援 全く、学習意欲のなかったお子さんが、少しずつ意欲を見せるようになった。
家でのお手伝いが増え楽しみになっていった
暗いイメージの男の子がとても明るくなった
子ども達が、お料理を作る方にも参加していて、やる気で参加している。
宿題を学校から持ち帰ることも難しかった子が、自ら宿題を出して取り組むようになった。
明るくなってきている

子どもが挨拶などで声をかけてくれるようになった【6件】
子ども食堂以外で会っても声をかけてくれる
登下校中挨拶してくれる。
継続して通ってのご家庭のお子さんとは道であってご挨拶する仲になりました
リピーターの子供が多く 町で会った時挨拶してくれます。
お互いに顔を覚え、来た時に笑顔で「お姉ちゃん」と呼んでくれる
登下校時、会おうと挨拶してくれる。

学校・学年や年齢を超えた子ども同士のつながりが生まれている【5件】
子ども同士でのつながりが生まれていると感じております。
学年をこえたつながりを感じる
学校だけでない友達ができているように感じる
出会った家族どうして遊びに行き、絆が深まって楽しく過ごせている。
小学生から高校生まで色々な年齢の子供同士が交わる機会があり、少子化の時代に多様性を学ぶことが出来ている

ボランティアとして関わる人たちの成長の場になっている【4件】
地元の通信制高校や信州大学医学部看護学科の女子学生が、子ども食堂の紙芝居上演にボランティアで協力参加する人数が増えている。
学習支援をしている女子生徒さんが、中学2年生で実用英語技能検定3級に合格しました。

高校生たちが子ども食堂を手伝ってくれるが、調理を通して自信を持てるようになり、自立心が芽生えているを感じる。
複数人でできる遊びに中高生が、小学生を誘ってみんなで仲良くやっていること。これが自然に起きるのはすごいと思っています。

不登校だった子どもが学校に通えるようになった【2件】
私のこどもは「お母さんと離れたくない」という理由で一時期不登校になりました。「今日は、学校の後にこども広場(ご褒美として行ける)があるから学校に行く」と言い、それから学校に行けるようになりました。こども広場の大学生の方との交流がきっかけで学校に通えるようになったので、私も恩返ししたいと感じてボランティアをしています。
不登校からの復帰

さまざまな世代における交流が生まれている【2件】
今日は、はじめは知らなかった参加者同士で劇をして楽しんできました。
普段は、関われないような、いろいろな世代と関われる。

支援の輪の広がりや循環が生まれている
来てくれていた子が手伝い側に回って活動している姿。

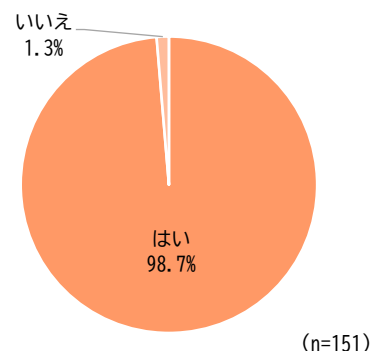
保護者の意識の変化がある
ママが、子どもは出来るんだということに気づいてくれた。出来ないと思っていた。

4. 居場所に関する今後の意向や意見

- 今後も活動を継続したいかについては、「はい（継続したい）」が 98.7%となっている。

図表 93 今後も活動を継続したいか

	人数	割合 (%)
はい	149	98.7
いいえ	2	1.3
合計	151	100.0



図表 94 ボランティアを増やしていくためのアイデア[自由記述]

活動自体の周知・広報【17 件】
紹介する
広報をより広く行う
必要性があることの啓発
地域に協力をしてもらい参加していただける方を募集する。場所を提供してくださる方や食材を提供してくださる方、色んな形で協力していただける方を探す。
知らない人が多いので、宣伝が必要。
地域住民との横の繋がりと発信(どこに何をやっているところがあるのかよく知らない)。子どもの貧困をはじめさまざまな問題意識を持つ人や関心ある人を発掘する。
どこでやっているのか知る機会を増やし、勉強をするだけではなくただ来ただけでもいい場所であることを知ってもらう
内容やどこにあるのか？どんなことをやるのか？気軽にネットで調べられる Q&A サイトなどあるといいのかと。
ホームページや SNS で参加を呼びかける
どんな活動をしているのかを、もっと発信したり、広報やラインなどでも情報を流す。
口コミ
「ボランティア募集」とポスター掲示する（開催場所で）
活動内容の広報
広報の重要性を感じます。
活動の内容を発信して、いろいろな人の目にとまるように広報する。
ポスター等でボランティアを募る
活動の発信
若年層へのアプローチ【9 件】
学生にボランティア体験に参加してもらう
教育にボランティアを含める。

中高生へのアプローチなどがあれば興味を持つ人がいる可能性があると思う。学校へ行けていない中高生にも目に留まる様だとより良いと思う。
TikTok など高校生世代の目に入りやすいツールを使い、流行りなどを利用しボランティアを集める
学生にフォーカスをして内容を見てもらいやすいツールを使用したりする。
学生たちに声をかける。(知らない人が多い)
学校にチラシを貼る
市内の大学生にボランティア求人を、行政も進める。
イベント・学校のボランティアサークルをたずねる

メリットの提供／負担軽減【8件】
時間と経済的な負担の軽減。子育て世代が中心に開催するのであれば、スタッフの子どもが楽しく過ごせている必要も感じる。
謝礼を出す。【2件】
おもちゃとかの寄付
有償にする
漠然とですが、ボランティアにも、メリットがあるようなことをする。
学習塾の併設
無償ではボランティアを辞めて行く人が多く、補助金があればボランティアが集まると思います。

友人・知人への声掛け【7件】
親しい人への声が増えるといいなと思っています。
まずは知る事。参加した人が知り合いを誘うと参加しやすい。自分もそういう場を始める。
とにかくボランティアさんを増やすために、私は友達ひとりずつに話しています。介護の終了した友達を狙い撃ちしております。
声掛け。
友人・知人に声をかける
今いる人たちが周りに声をかけていく。
子どものセーフガーディングの研修を通してお誘いする

活動を楽しめる環境づくり／楽しさを伝えること【6件】
自分たちの活動を見てもらって、いいなと感じて貰いたい
楽しさを伝える
参加者もボランティア側も楽しいと思える場を作る
食材を配布するだけの場所ではなく、紙芝居や絵本の上演を行うお楽しみ（エンターテインメント）提供の場所となっています。ホットライン信州の子ども食堂事例。
ボランティア自身も楽しむ。
やりがいにつながるポジションを与えられることと思います。

活動を体験する機会の提供【5件】
興味のある方にはとりあえず1回お手伝いとして参加してもらいたいです。合うか合わないは、とりあえず参加してみて判断してもらえれば…
学習会を実施する
活動をしての情報交換。当事者の悩みの持ち寄り(愚痴など、あるある話の吐き出し場)。地域住民のための、子どもの権利の啓発セミナー。発達に応じた対応が出来るようなセミナー。子どもとデジタル機器について、などの勉強会をやってみる。
茅野市、地区がボランティアの事を教えてほしい。
ボランティア体験と交流

シニア層へのアプローチ【4件】
お年寄りにもお手伝いの方での参加を呼び掛ける。
人が少なく1人あたりの負担が大きいのでシニアの方などにもできるだけ多く、長く入っていただきたい。
シニア等のサポートもいのように感じる。
地域の高齢者(子育て卒業世代)にも声掛けがあるといいように感じています。もしかして、子供と話したいけれど、「私は小学生の孫もいないし行けないかな」と感じている方がいるかもしれません。

企業・他団体との連携・協力【4件】
教育機関との連携
私達のところは、つながりで、相撲クラブの会長がかかわってくださり、ちゃんこ鍋を作ったり、私達も相撲大会の応援ですべての参加者にスイカの提供をしたりと、他団体との相互の協力しあいで、つながり、私達の団体の高齢化を、補ってもらっています。
各自治体が開催している研修会や高齢者の活動グループに声をかけて、まずは体験会をしたらどうかと思います。
企業の方の受入。会社の社会貢献活動の一環としてPRできると思う。親として子ども食堂を利用する。あるいはボランティアとしてお手伝いできることを若手の社員に知ってもらう。

行政による支援の強化【2件】
行政の支援が質量ともに不足している
長野こどもいきいきカフェでは、保護者が連れてくることができないお子さんのために、送り迎えをするスタッフを確保したと聞き、そのことへの補助金をぜひつけてほしい。

図表 95 意見[自由記述]

希望・展望
子供達にとって良いものであると思うので続けてほしい
居場所づくりの活動がもっと多くの人に知れ渡り居場所を求めてきてくれる人がもっと増えて辛い思いをする子が1人でも少なくなるようにしたいです。
シニア食堂創設して交流できれば
「教えてあげよう」「やってあげよう」等余計なことはせず、適度な距離感で、適度に見守る事を心掛けて皆さんに頑張っていたきたいと考えています。
こども食堂を始めて、大変なこともあります、やりがいを感じています。これからも私たちが楽しみながら運営していきたいです。
食材やお弁当配布と同等に、お楽しみ（エンターテイメント）提供に力点を置くこども食堂がさらに増えて行くことを期待します。
友人が始めた事をきっかけに、自分も自分の地域で動きはじめた。地域のみんなで地域の子どもたちを見守りたい。
ボランティア精神は簡単に育たない。 他人をおもんばかりの配慮、気持ちなど子どもの頃から一つずつ教えていけたら良いですね。
こども広場で配られる個人、企業からの寄付の食材に感謝しています。
子供だけではなく子供達から元気をもらいたい高齢者もいるのでその橋渡しもできたら素晴らしいと思います
皆が外に出て、この居場所のことを知ってくれたら良い。

課題・懸念
時代と共に家庭の生活様式が大きく変化しているのに環境が追いつかない。共働きはすでにスタンダード。少子化による人口減少で更に増えます。子どもの居場所が家、保育園、学校。特に家は家族が居ない時間帯、子どもだけで過ごすのはどうか、学童は…で、やむ無く、パートに処遇を変えざるを得ない、これではダメ。この時間帯の受皿をつくるのが急務。
長野県には公民館活動があり、分館が沢山ある。その活用がヒントになるかと思います。
全てに困っているところに手が届くと言うことは無理。本来必要な人に支援が届かない感じを受ける。
地域の企業や団体や個人や役場からの補助がないので、運営費用が、大変だと思います。
長く3続けるには食材を支給してもらいたい。
既存のシステムをもっと活用した方がよい。PTAや育成会など。
ボランティアの年齢が高くなり心配。
継続的に支援を受けられることができれば安心して活動できると思います。
継続が課題と思います。
食材の支援があればありがたいです

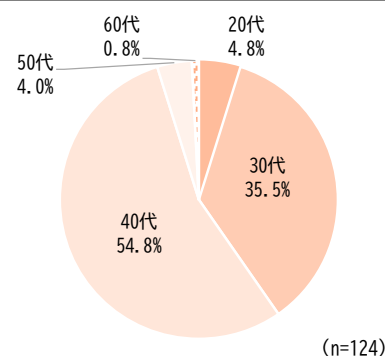
第4章 調査結果3： 居場所を利用する子どもの保護者に対するアンケート結果

1. 回答者属性

- 回答者の年齢は、「40代」の割合が54.8%で最も高く、次いで「30代」が35.5%となっている。
- 性別は、「女性」が88.7%、「男性」が11.3%となっている。
- 居場所を利用している子どもとの関係は、「母親」の割合が87.8%で最も高く、次いで「父親」が9.8%となっている。
- 配偶者の有無は、「いる」の割合が80.6%、「いない」が17.7%、「回答しない」が1.6%となっている。

図表 96 年齢

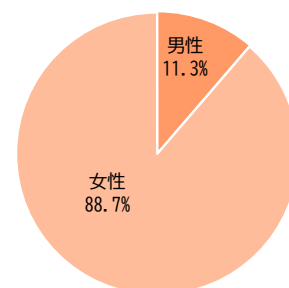
	人数	割合 (%)
20代	6	4.8
30代	44	35.5
40代	68	54.8
50代	5	4.0
60代	1	0.8
合計	124	100.0



(n=124)

図表 97 性別

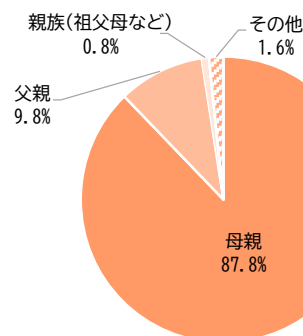
	人数	割合 (%)
男性	14	11.3
女性	110	88.7
合計	124	100.0



(n=124)

図表 98 居場所を利用している子どもとの関係

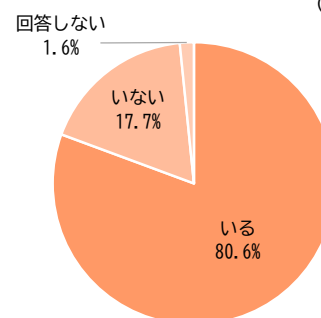
	人数	割合 (%)
母親	108	87.8
父親	12	9.8
親族(祖父母など)	1	0.8
その他	2	1.6
合計	123	100.0



(n=123)

図表 99 配偶者の有無

	人数	割合 (%)
いる	100	80.6
いない	22	17.7
回答しない	2	1.6
合計	124	100.0

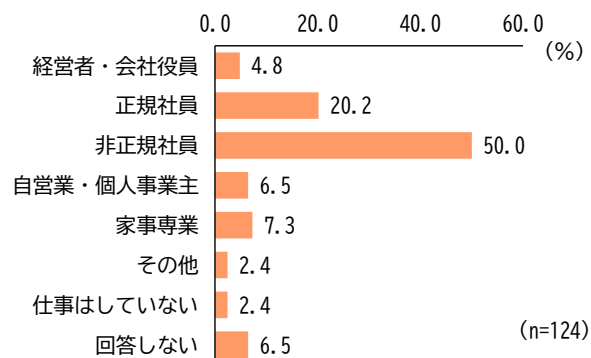


(n=124)

- 職業は、「非正規社員」の割合が 50.0%で最も高く、次いで「正規社員」が 20.2%となっている。
- 現在の暮らしの経済的な状況は、「生活には困っていない」の割合が 50.0%で最も高く、次いで「苦しい」が 41.9%である。
- 居住市町村は、「長野市」の割合が 16.1%で最も高く、次いで「松本市」が 15.3%である。

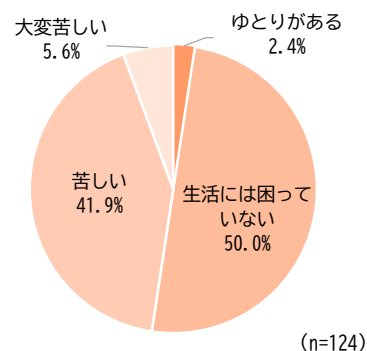
図表 100 職業

	人数	割合 (%)
経営者・会社役員	6	4.8
正規社員	25	20.2
非正規社員	62	50.0
自営業・個人事業主	8	6.5
家事専業	9	7.3
その他	3	2.4
仕事はしていない	3	2.4
回答しない	8	6.5
合計	124	100.0



図表 101 現在の暮らしの経済的な状況

	人数	割合 (%)
ゆとりがある	3	2.4
生活には困っていない	62	50.0
苦しい	52	41.9
大変苦しい	7	5.6
合計	124	100.0



図表 102 居住市町村

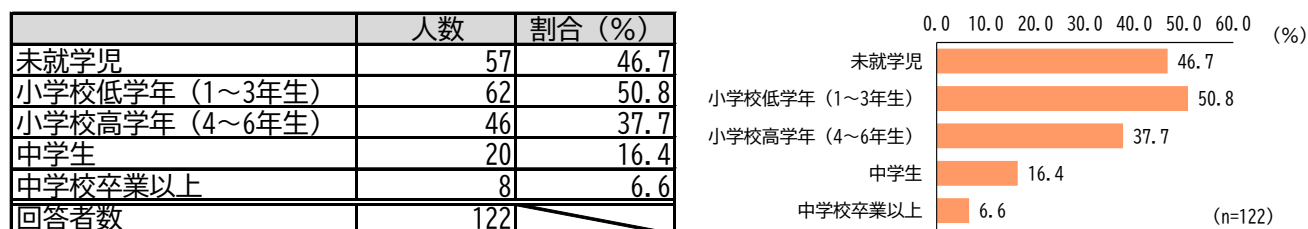
地域	人数	市町村	人数	割合 (%)
佐久地域	9	小諸市	1	0.8
		佐久市	4	3.2
		軽井沢町	1	0.8
		御代田町	4	3.2
上小地域	7	上田市	7	5.6
諏訪地域	4	諏訪市	2	1.6
		茅野市	1	0.8
		原村	1	0.8
上伊那地域	3	宮田村	3	2.4
南信州地域	16	飯田市	10	8.1
		高森町	5	4.0
		平谷村	1	0.8
木曽地域	8	上松町	6	4.8
		木曽町	2	1.6
松本地域	34	松本市	19	15.3
		塩尻市	10	8.1
		安曇野市	5	4.0
北アルプス地域	9	大町市	4	3.2
		松川村	5	4.0
長野地域	23	長野市	20	16.1
		須坂市	3	2.4
無回答			10	8.1
合計			124	100.0

2. 居場所の利用状況や居場所に対する考え

(1) 居場所の利用状況

- 一緒に居場所を利用している子どもの学年は、「小学校低学年」の割合が 50.8%で最も高く、次いで「未就学児」が 46.7%、「小学校高学年」が 37.7%となっている。
- 利用している子どもの人数を学年別に見ると、合計人数が最も多いのは「未就学児」(65 人)で、次いで「小学校低学年」(59 人)、「小学校高学年」(46 人)となっている。
- 利用を始めてからの期間は、「1 年以上 3 年未満」の割合が 40.2%で最も高く、次いで「半年以上 1 年未満」が 21.3%である。

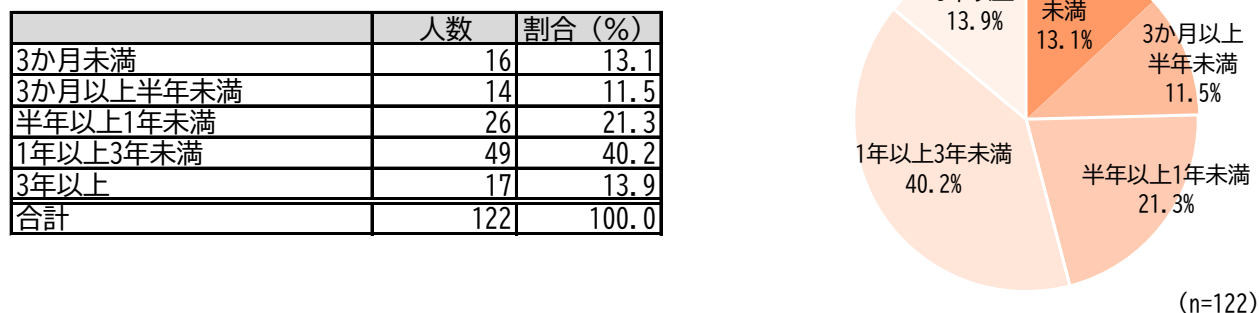
図表 103 一緒に居場所を利用している子どもの学年[複数回答]



図表 104 一緒に居場所を利用している子どもの学年別人数

	未就学児 (n=48)	小学校低学年 (n=52)	小学校高学年 (n=37)	中学生 (n=18)	中学校卒業以上 (n=7)
1人	64.6	88.5	83.8	94.4	85.7
2人	35.4	9.6	10.8	5.6	14.3
3人	0.0	1.9	2.7	0.0	0.0
4人	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
子ども数 合計	65人	59人	46人	19人	8人

図表 105 利用を始めてからの期間

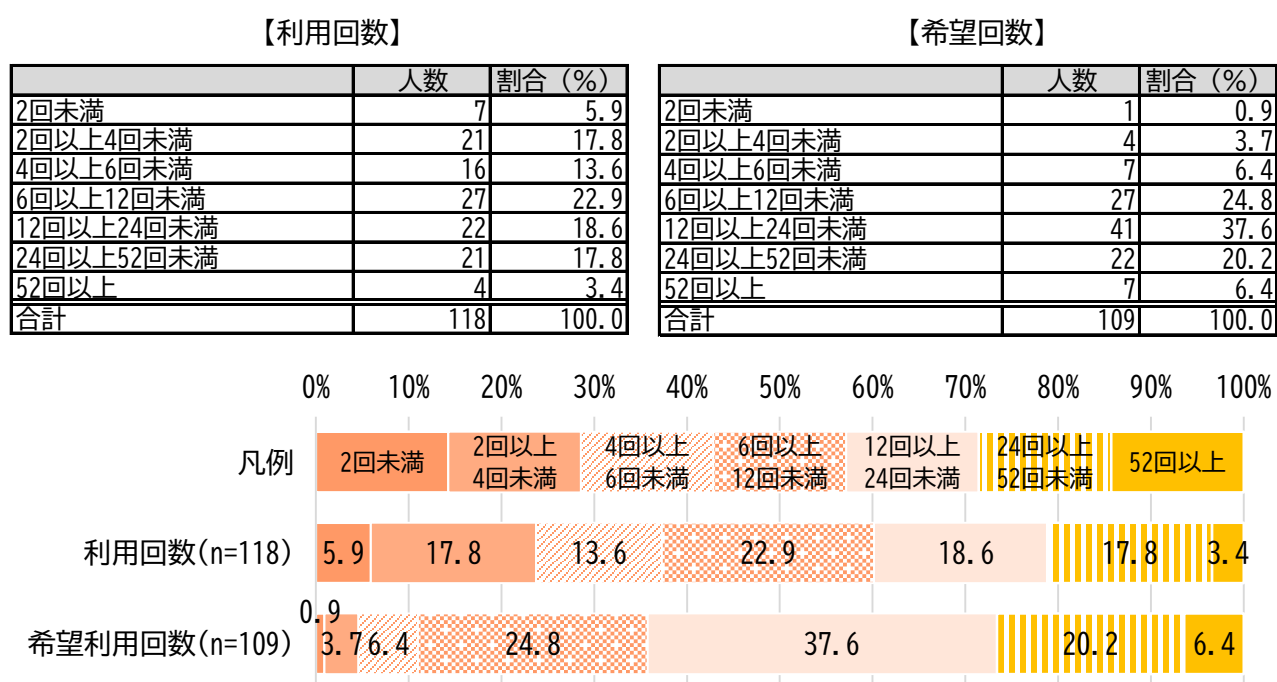


- 1年あたりの利用回数の平均値は 15.3 回、希望回数の平均値は 20.1 回で、その差は 4.8 回である。
- 利用回数では「6 回以上 12 回未満」（1・2 ヶ月に 1 回）の割合が 22.9%で最も高く、次いで「12 回以上 24 回未満」（月に 1・2 回）が 18.6%である。
- 希望回数では「12 回以上 24 回未満」（月に 1・2 回）の割合が 37.6%で最も高く、次いで「6 回以上 12 回未満」（1・2 ヶ月に 1 回）」が 24.8%である。

図表 106 1 年あたりの利用回数および本来 1 年あたりに利用したい回数（希望回数）の平均値

利用回数	15.3 回
希望回数	20.1 回
希望回数－利用回数	4.8 回

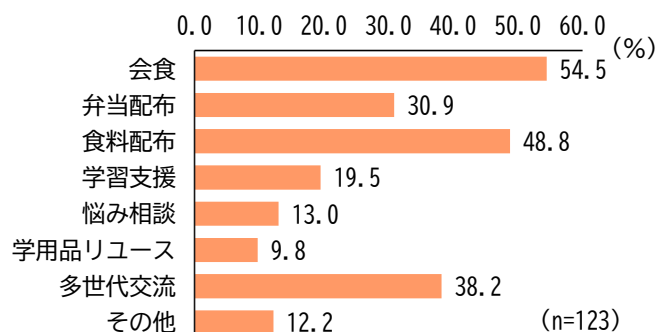
図表 107 1 年あたりの利用回数および本来 1 年あたりに利用したい回数（希望回数）



- 利用内容は、「会食」の割合が 54.5%で最も高く、次いで「食料配布」が 48.8%、「多世代交流」が 38.2%である。
- 利用を始めたきっかけは、「知人・友人（運営者以外）に誘われて」の割合が 48.4%で最も高く、次いで「新聞、広報誌、チラシ、SNS などを見て」が 33.6%である。
- 現在利用している居場所を選んだ理由は、「自宅から近い」ため」の割合が 55.3%で最も高く、次いで「実際に足を運んでみて気に入ったため」が 50.4%である。

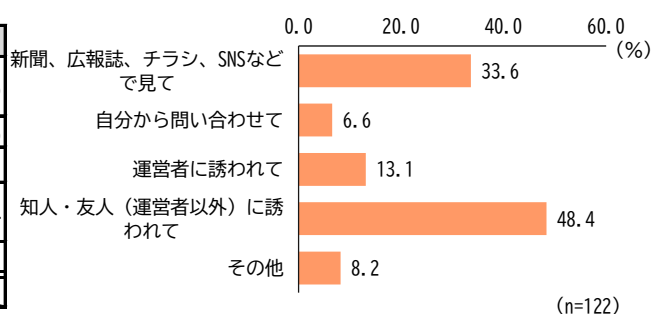
図表 108 利用内容[複数回答]

	人数	割合 (%)
会食	67	54.5
弁当配布	38	30.9
食料配布	60	48.8
学習支援	24	19.5
悩み相談	16	13.0
学用品リユース	12	9.8
多世代交流	47	38.2
その他	15	12.2
回答者数	123	



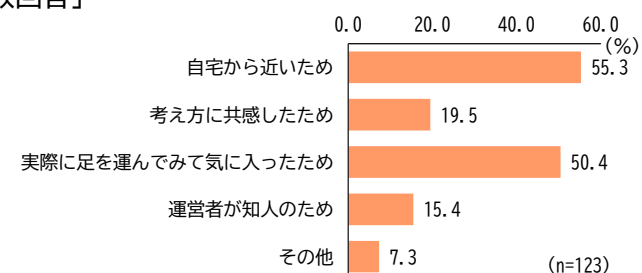
図表 109 利用を始めたきっかけ[複数回答]

	人数	割合 (%)
新聞、広報誌、チラシ、SNS などを見て	41	33.6
自分から問い合わせ	8	6.6
運営者に誘われて	16	13.1
知人・友人（運営者以外）に誘われて	59	48.4
その他	10	8.2
回答者数	122	



図表 110 現在利用している居場所を選んだ理由[複数回答]

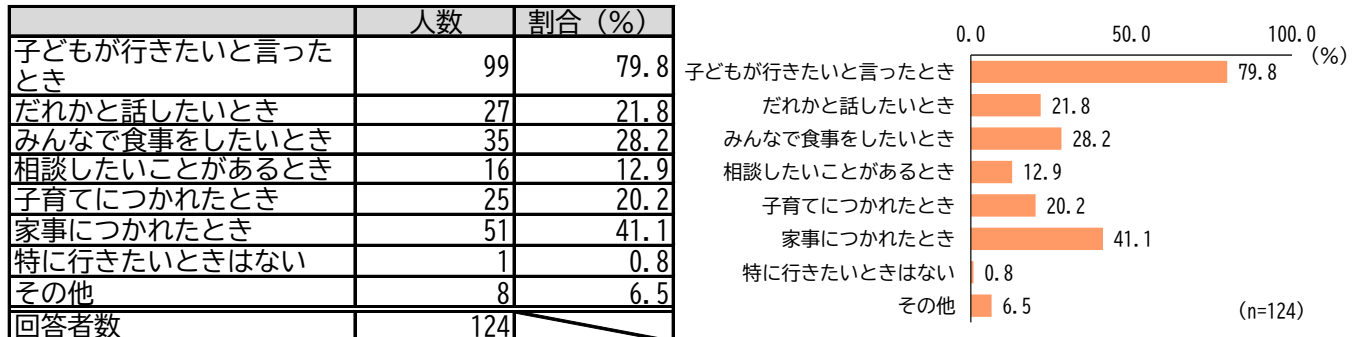
	人数	割合 (%)
自宅から近い	68	55.3
考え方に共感した	24	19.5
実際に足を運んでみて気に入った	62	50.4
運営者が知人のため	19	15.4
その他	9	7.3
回答者数	123	



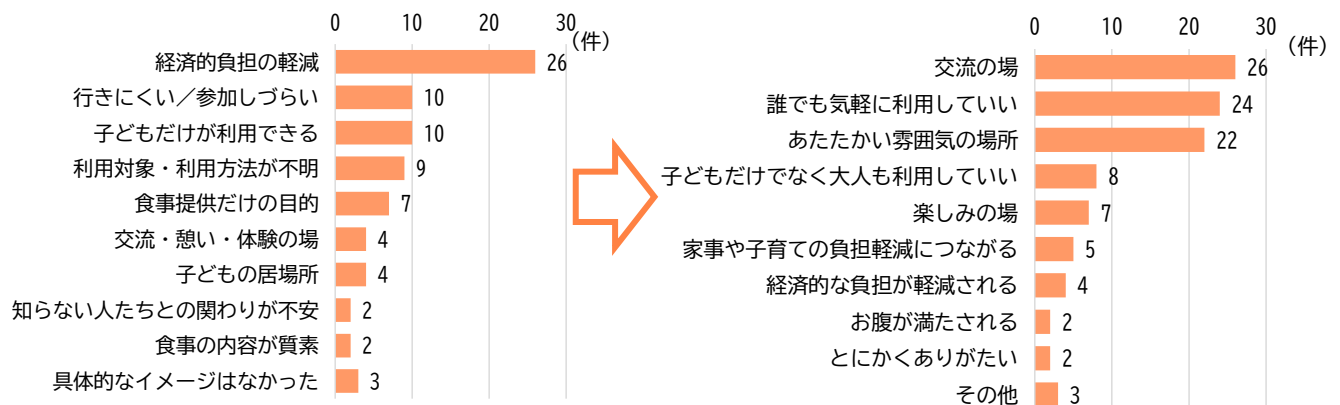
(2) 居場所に対する考え

- どんなときに居場所に行きたいかについては、「子どもが行きたいと言ったとき」の割合が79.8%で最も高く、次いで「家事に疲れたとき」が41.1%である。

図表 111 どんなときに居場所に行きたいか[複数回答]



図表 112 居場所に対して当初もっていたイメージと実際に行ってみてのイメージ[自由記述]



図表 113 居場所に対して当初もっていたイメージ[自由記述]

経済的負担の軽減【26 件】
食事に困っている人が利用する場所。
お得
配給みたいなイメージ
生活に困っている人しか参加してはいけない。
食事に困っている世帯の方が来る場所
生活に困ってる人がいてもいい場所
本当にお金に困っていないと使えない
生活に本当に困っての利用でないと行ってはいけないところだと思っていました
生活困窮者が支援を受ける場所
困っているこどもたちがくるイメージ
片親の子供や、食事に困っている家庭が行く場所と思っていた
母子家庭、両親が共働きで一人で夕飯を摂るお子さん、生活保護を受けているご家庭が利用する場所

貧困の子どものための居場所
貧困、片親のイメージでした。
一般家庭の人たちは利用してはいけない場所だと思っていた。
生活保護や生活困窮世帯しか行けないのかなと思っていた。
食事に困っている子たちに食事を提供する場所
1人親家庭や生活困窮者向けの場所
日中親がいない家庭の子どもや食べるものに困っている人が利用する
ひとり親家庭のみが参加できる場所
困っている方の使う場所
家庭に居場所がなかったり、社会的に、低所得層と言われてしまう方が利用できる。
生活困窮家庭のための場所
ツライ人、困っている人が行くイメージ
ひとり親支援
本当に困っている人のみ利用する場所

行きにくい／参加しづらい【10件】
孤独なイメージ
行きにくさ
厳しそうなイメージ
壁がある
行くまでは緊張しました
ちょっと行きづらいイメージ
行ってみたかったけど、勇気がなかった。
大人は行きにくい
少し行きづらいイメージ。
いきづらい。

子どもだけが利用できる【10件】
親も食事をいただけるとは思ってなかった
子どもだけの食堂
こども食堂という名前に、大人は同伴のみで子供だけご飯を食べる場所かと思っていた
家に大人がいない場合に行く場所
子供しか利用してはいけないと思っていた
子どもだけしか行けないと思った。
子供だけしか利用できないのかと思った。
子供達への食の提供
子供しか参加出来ない
こどもがいないと行けないイメージでした。

利用対象・利用方法が不明【9件】
参加していいのか不安があった
本当に生活に困っていたり、居場所が無い人しか参加しない方が良いのかと思っていた。
どんな人たちが対象なのか、参加しても良いのか、わからなかった。
登録者しか対象にならない
近くの地元の人しか行けないのかなと思っていた。
行って良いのかわからなかった
本当に自由に参加していいのかな
誰が参加できるのかわからなかった
どのように利用していいのかわからなかったです。

食事提供だけの目的【7件】
ご飯を食べるだけの場所
ご飯を食べる場所
ご飯が食べられる
ただ食事をもらって食べるだけだと思っていた。
ご飯を食べるだけ
ご飯を食べて帰るのかと思っていました。
会話は特になく物資のみの渡すだけ

交流・憩い・体験の場【4件】
利用する親子がたくさんいて、みんなでワイワイ話しながら食事をするイメージ
料理を教えていただく
交流の場
子どもと一緒にゆっくりすごせる

子どもの居場所【4件】
ボランティアさんが複数人いて、親子連れの利用者が多い
子ども達の居場所作り
子ども食堂にはいったことはありません。現在利用している場所に行く目的は親子の居場所として、です。そこでは、野生児＝スバラシイ、というだけでなく、ゲームに夢中な子や、なかなか伸び伸びできないような子に対しても、繊細に感じ取って見守ってくださり、親にも声をかけてくれる、とてもありがたい場所です。
放課後お友だちや大学生と遊べる場所

知らない人たちとの関わりが不安【2件】
知らない人達との関わり合いが不安だった。
どういう人がいるかわからない

食事の内容が質素【2件】
ご飯の量が少ないかなあと思っていた
食事の内容が寂しい物

図表 114 利用してみて感じた、当初のイメージとの違い[自由記述]

交流の場【26件】
同級生のお友達もいて安心しました。
コミュニケーションの場所
交流することのできる場所
利用している場所は、どちらかと言うと多世代交流や他学校児童達の交流という感じ
いろいろな人たちが集まり話したりすることで心の居場所になる
子どもたちも楽しそうで良かったです
料理を教えていただくだけでなく、交流が深まった
皆で楽しむ場所
子供が騒いでいても気にならない空間でした。
子供達が初めて会う子達とも年齢の違いがあっても楽しく遊んでいて安心しました。
子育て世代の親同士の交流や癒しの場
子供の仲間作りや体験の場
子供同士と交流や大人同士の情報交換も出来る
作って頂いた食事をみんなで美味しく頂けてとても楽しいです
親切な方ばかりで、地域交流にもなり、食事もいただけるのはありがたいと思った。
交流の場所なんだと感じた。
周りのお友達も来ていて、遊べて楽しそう。
子供達も友達と食べられて楽しそうなので、行ける時は行くようにしています。
手作りのお食事、多世代交流
休日に学校のお友達と会える
たくさんの子供達が参加し、自由に過ごしている
色んな情報交換ができて良かった
色んな方との交流場
色々な人と楽しく遊べて、食べられる
子どもも含め、沢山のひとと交流できる
大勢の人がいた

誰でも気軽に利用していい【24 件】
いろんな方々がいてよい。
誰でも参加できる場所
普通の人や地域の人が来ている。
参加しやすい
誰でも参加して良いと言うのがわかった。
経済的に恵まれているご家族も多くいた。
世代や家庭環境は様々で壁がない
幅広く受け入れてくれる
ごく一般的な家庭が普通に利用している
誰でも利用できる。貧困でなくても良い。
誰でもウェルカム
様々な年齢や、様々な地域から参加されていた
気楽な感じで来ても大丈夫なんだなと感じた。
気軽に行けて、子供の食事を提供して頂いて、助かっています。
誰でも参加してよい
地域の人のボランティアも多く、誰でも気軽に受け入れてくれる場所
地域の人誰でも来れる
気軽に利用しやすい
どなたでも参加していい
行きやすい
誰でも参加できる
どんな方でも利用できる
誰もが行ってよいということ
どんな子でも通って OK だった

あたたかい雰囲気のところ【22 件】
皆が子供の相手をしてくれたり、お世話をしてくれたり、話しかけてくれたり、とても人との繋がりを 感じられる場所でした。
とてもアットホームで温かい居場所
とても居心地がよかった。こどもも次を楽しみにしていた。
和気あいあいとしていた
アットホーム
普通の家庭でも快く受け入れてくれて、とても自由な雰囲気に感じた。
保護者としてはたわいない話や、悩みの話などしがらみなくできアットホームな場所です。
親戚宅に気楽に遊びに行くような雰囲気。
どんな人でも受け入れてくれる温かい場所

今回は現地で食事をするスタイルではなく、お弁当配布ということでもらって帰る流れでしたが、主催者さんがやさしく話しかけてくださり、少しですが楽しくお話ができたのでとてもいい印象でした。また利用したいです！
運営の方も参加している方もとても明るく、場の雰囲気がとても良かったです。
行ったらスタッフの方が優しくて 毎回参加したい！となった
そのままのイメージで、とても楽しく参加できた
とても参加しやすい雰囲気でした
気軽に過ごせた
とても親切であたたかくオープンに迎えてくださって安心しました。
みなさん優しく迎えてくれて子供たちが喜ぶことを考えてくれているのでありがたく思っています。
皆さん話しやすく行きやすいです。
歓迎していただいて行きやすくなりました。
とてもオープンで、地域の方々が楽しげに美味しいお料理を振る舞ってくださり、参加しやすい。
みんな優しくて、雰囲気が良い
誰でも利用できる雰囲気がある

子どもだけでなく大人も利用していい【8件】
大人もこどもも楽しく過ごせる場所
大人も食べてよいものだった。
家族で参加する人が多い。
運営者一人で食事提供し、利用者は一人暮らしの看護学生がほとんどだった
子供だけではなく親も一緒に利用して良いんだと思った
親も子も利用していいんだと思った。
子どもだけではなく親子で利用できる
親子で利用できるのがよかった。

楽しみの場【7件】
イベント等もあり、子供だけでなく大人も楽しめる
いろいろなイベントや遊びも提供してくれて、子供が楽しんでいます。
季節の遊びが体験出来る
季節のイベント(流しそうめん、もちつきなど)は特に子供も楽しみにしていて参加させていただいています。
色々な子供が楽しめるイベントがある
楽しいイベントを実施している場所
お弁当だったり、いろんな体験ができています。

家事や子育ての負担軽減につながる【5件】
毎回美味しい食事を頂け、育児相談もしていただける
一食を考えなくてよいので、食事の準備に時間が取られず、子どもとその分ゆっくりできるのでとても助かっている。
月に一度ご飯を作らなくていい日があると思うと心が楽。
ご飯を作らなくても良い日をつくっても良いんだ！と思った。
食事を親が作らず楽ができて助かる

経済的な負担が軽減される【4件】
お得
食料・衣服をいただけるため、とても楽しく助かっています。
配布がある
いろいろなものをもらえる。食料、生活用品

お腹が満たされる【2件】
大人でもお腹いっぱいになる量でよかった
ご飯もいっぱい食べれて参加してよかったと思いました。

とにかくありがたい【2件】
本当にありがたい
ありがたい

その他【3件】
子どもたちの主体性を大切にしてくれる
こども達が少ないのでもっと広がれば良いと感じます
学習支援がある

図表 115 運営者やボランティアに感じていること[自由記述]

年代	内容
20 代	いつもありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。
20 代	ありがとうございます
20 代	受け取り時の雰囲気もよく 毎回安心して受け取りに行ける
20 代	運営者側がイライラしてるのかな？という時がある。ボランティアの学生さんは配膳する人でも髪を結ばない人がちらほら。政治の関わりがあるのかな、という印象を受けるものがある。けれど、みんな人間だし色んなことがあるのは仕方ないと思います。色んな人が集まり、温かく迎え入れてもらって温かいご飯を食べられるだけでとても幸せを感じさせてもらってます。
30 代	週に一回沢山のこどもたちとごはんが食べられて嬉しい。
30 代	こどもとも仲良くしてくれて楽しいひと時をすごさせてもらえてとても有難いです。
30 代	みなさん親切でとても助かってます
30 代	感謝しています。
30 代	よくやってくれていると思います。
30 代	資金が乏しい中、ボランティアで行われて素晴らしいと思いました。
30 代	私どもは助かりますが、この金額で本当に大丈夫なのか。とてもありがたく思っています。
30 代	いろいろ作っていただきありがたいと感じます。
30 代	大変ありがたいと思っています。
30 代	いつも温かく、笑顔で、行くだけで癒される。たくさんのお料理を作って頂き感謝です。
30 代	本当に本当に助かっています。夕方の忙しい時間に一食分のごはんを作らなくていいなんて、本当にありがたいです。いつも仕事後保育園の迎えに行って帰ってからがとてもバタバタで、今日は特に保育園迎え後に病院への受診もあり夕飯の準備の時間がない状態だったので、こどもの分だけでも食事が頂けてサッと食べさせられてとても助かりました。
30 代	ありがたいです
30 代	食材集めや運営など大変かとは思いますが、こういう場所があることは、とてもありがたいです。
30 代	準備や片付けが大変だろうと思います。感謝しかないです。
30 代	ボランティアの学生が増えて子どもの遊び相手をしてくれる子どもが楽しんでいるのでありがたい。
30 代	素敵な経験に感謝してる
30 代	いつもあたたかく迎えてくださって、準備や片付けなどこのような場を準備して下さることに感謝しかありません。
30 代	優しい 誰でも受け入れてくれる印象 初めて行くのが一人の場合はルールがわからず参加しにくいかも
30 代	いつもありがとうございます
30 代	いつもありがとうございます
30 代	とても親切です。
30 代	大変だなーと

30代	いつもありがとうございます。
30代	子どもに優しい
30代	感謝
30代	皆さん優しいです。
30代	みなさんととても親切
30代	ありがたい。感謝です
30代	あたたかい
30代	子育てがおちついたら手伝いたい
30代	感謝
30代	いつもありがとうございます。
40代	子供の幸せのためにいつも一生懸命やってくれてる
40代	いつも準備ありがとうございます。
40代	本当に有難く、感謝の気持ちでいっぱいです。
40代	素晴らしい活動をしていて尊敬します。外食にかけられるお金に限られるので、家以外で無料で子どもたちに食べさせられるので助かっています
40代	いつも大変お世話になって、運営してくださっている方がいてありがたいです
40代	毎回いろんな企画やメニューを考えて下さり感謝です。子どもたちと土曜日お昼ゆっくりご飯を楽しめるのは嬉しい。ありがとうございます。
40代	ボランティアの中には、事業所を利用している方々もいて、働いたり、人とふれ合うことでそういった方にも良い社会の場だなと思った。
40代	大変な事業だと思います。運営してくださっているかたに感謝しています。
40代	いつも感謝の気持ちでいっぱいです。
40代	大変有難いです。自分もこういったボランティアに参加できれば良いのですが、今は無理なので本当に尊敬します。
40代	とても大勢の方が運営されていてありがたい
40代	お弁当配布や食堂を利用できて助かっています。とても感謝しています。
40代	ありがたい
40代	利用している居場所の運営者は大らかで、子どもだけでなく大人も安心する場づくりをしている。今、なかなかこういう居場所は見つけれないので、ご縁をいただけてありがたく感じている。
40代	感謝の気持ちしかない
40代	いつも明るく接して下さりありがたいです。また、夏祭りやクリスマス会もしていただき、子どもたちも喜んでいます。
40代	さぐりさぐりな様子で、とても気を使ってもらっているのが感じられて、気が引けるときがある。
40代	資金、人材確保が大変
40代	大変だとは思いますがとても助かっているので感謝の気持ちです
40代	低価格でご飯が食べられてほんとにありがたいです
40代	美味しい食事を提供して頂けて、感謝です。
40代	とても有難く感じています

40 代	場所の提供やスタッフの取り纏めや運営に尽力してくださり感謝している
40 代	高齢者の方がやってくださっていて凄いと思いました。本当に有難いです。
40 代	本当に有難いです
40 代	みなさん親切な方だった
40 代	いつも笑顔で子どもたちに接してくれ、楽しい企画も用意していただい、美味しい料理も用意していただいととてもありがたいです
40 代	いつも感謝しております。
40 代	いつも優しく美味しいものを朝から作っていただいていて感謝です。特に食材配布は賞味期限が切れているものもたまにあります、大変助かっています。
40 代	感謝
40 代	大変ありがたく感じています。
40 代	色々イベントを考えてくれて感謝しています。
40 代	企画、運営して下さいありがとうございます。
40 代	人による
40 代	感謝
40 代	皆さまとても協力的で、開催にあたり、生き生きとされてるように感じます。
40 代	善意に頼ってしまっていて申し訳ない気持ちとありがたい気持ちとあります。人手不足で大変そうです。手伝える時にしか手伝えず、すみません。
40 代	若手がほしい
40 代	安心感を感じています。
40 代	学校以外に、子供たちが集まれる場所を提供してくださって、本当にありがたいです。
40 代	みなさん優しい
40 代	親切な方が多い
40 代	みんな親切です。
40 代	高校生の方が気さくに話しかけてくれてうれしい。
40 代	いつも見守っていただき感謝しています。
40 代	保護者にも寄りそって下さる。ありがたいです。
40 代	頑張って活動しておられる
40 代	とても感謝しています
50 代	月に1回でも食事を作らなくていい日(1食)が定額で利用できて本当にありがたいです。
50 代	小学生向きだと思う
50 代	よくみていただいて助かっています

3. 居場所による効果

- 居場所による、自分自身への効果では、「楽しい時間を過ごせている」の割合が 79.0%で最も高く、次いで「ほっとできる場所になっている」が 69.4%である。
- 一緒に利用している子どもへの効果では、「様々な体験の場になっている」の割合が 77.4%で最も高く、次いで「表情が明るくなり、笑顔が増えた」が 62.9%である。
- 地域における効果では、「地域住民の結びつきが強まっている」の割合が 64.5%で最も高く、次いで「困難を抱える家族を見守る体制が地域に生まれている」が 62.1%である。

図表 116 自分自身への効果（上位5つ）〔複数回答〕

	人数	割合 (%)
楽しい時間を過ごせている	98	79.0
ほっとできる場所になっている	86	69.4
元気になった、穏やかになった、笑顔が増えた	83	66.9
家事・子育ての負担が軽くなった	83	66.9
地域の中に顔見知りが増えた	69	55.6
お子さんとの関係が良くなった	69	55.6
回答者数	124	

図表 117 一緒に利用している子どもへの効果（上位5つ）〔複数回答〕

	人数	割合 (%)
様々な体験の場になっている	96	77.4
表情が明るくなり、笑顔が増えた	78	62.9
他者とのコミュニケーションが向上した	68	54.8
社会性が身についている（挨拶をする、マナーが身につくなど）	66	53.2
親以外に頼れる大人を増やせた	62	50.0
回答者数	124	

図表 118 地域における効果〔複数回答〕

	人数	割合 (%)
地域住民の結びつきが強まっている	80	64.5
困難を抱える家族を見守る体制が地域に生まれている	77	62.1
高齢者の生きがいがいづくりにつながっている	67	54.0
回答者数	124	

・居場所により生じている変化などのエピソードは以下の通りである。

図表 119 居場所により生じている変化などのエピソード[自由記述]

子どもが楽しく参加している【12件】
みんなで楽しく話していた
イベントの時に子供達にカブトムシをプレゼントした。沢山の子供が楽しめていたと思います。
夏祭りやハロウィンなどのイベントが有りとても楽しませていただきました。
子供が、利用できる！ってなった時は、その日までをととても楽しみにしてます。
食堂の日は嬉しそう
開催日をカレンダーに丸を付けている
季節ごとにイベント考えてくれて子供たち嬉しそうです。
楽しいイベントを企画して頂きありがとうございます。
たのしい
休みの日の楽しみがふえた
こども食堂があることで笑顔が多くなった
放課後、親が帰宅する、迎えに行くまでの時間が充実している
子どもの居場所となっている【5件】
子どものお友達と一緒にいつもお邪魔させていただいてます。公民館で行われてるので地域の行事を知る機会にもなっています。神社が近いのでご飯後は子ども達が遊んでいてゆるい繋がりができているのはありがたいです。
父親の仕事は忙しく、あまり家族の時間は多くとれない。母親の私は人が多い場所にいると気疲れしやすく、子どものために奮起して様々な交流の場に足を運んでいた。利用している居場所は、親しみやすい雰囲気と、運営者の大らかなたたずまいのおかげで、負担少なく通えている。何より、一人っ子の息子が大勢でワイワイ食事することに喜びを感じていて、素晴らしい居場所ができた実感している。また、息子の学習発表会に運営者が友人を誘いながら駆けつけてくれたりと、子ども食堂以外でも気にかけてくれて心の繋がりをより深く感じている。
土曜日の遊び場となっていて、ありがたい。(友だちと遊びたくても集まれる場所が無いため)
親に言いづらいことも、スタッフの方に聞いてもらうことができるようです。
子どもの顔を覚えてもらえてうれしい
学校・学年や年齢を超えた子ども同士のつながりが生まれている【5件】
兄弟以外にも兄弟のように会うのを楽しみにする友達が出来た。学校が苦手でも他の子と遊ぶのが楽しい姿。
学校は違えど子供食堂で会える友達がいる、その子たちの話を家でもする。自分から大人たちに関わろうとする気持ちが増えてることが感じられる
遊び仲間が増えた
他校の子や中・高生とのコミュニケーションもとれて楽しんで行けている
友だちがふえた。

子育て・家事の負担が軽減されている【5件】
子育てに悩んでいるのが自分だけでないと分かった
寺子屋食堂を頼んでいる日は家事が減り、他のことに時間を当てられるので気持ちが楽です。メニューもこだわっているので普段の料理の参考にもなります。
家事の負担が減りました。
子供がまた行こうね！楽しかった！と言っていて家にいる時よりしっかり食べてくれるし私も家事の負担が少し減りました。
休日のご飯のメニューにいつも悩めます。いつも美味しいご飯があり子供達がお腹いっぱいになれてとても満足しています。

子どもの成長・経験の場となっている【4件】
子供達のやりたい！を引き出す事の楽しさと難しさ、子供の成長の変化への居場所づくりのあり方の再考
やったことない流しそうめんや室内ボーリング、すごく楽しんでくれる
流しそうめん、おすしやさんになってみよう、おもちつきなど、家庭ではなかなかできない体験ができてとても喜んでいました！
学習支援に通うまで、机に向かうことも勉強も字を書くことも好きではなかった娘が、学習支援で学ぶことが楽しく感じられるようになった。

さまざまな世代における交流が生まれている【4件】
ボランティアの学生さんたちは小さな子供と触れ合う機会が少ないようで、よく可愛がっていただきます。子供も学生さんと触れ合う機会が少ないのでお互いに良い刺激になっているのではないのでしょうか。いつも優しく接していただいて有難い限りです。
ポケモンカードを大学生と一緒にやったりと、普段中々関わることが出来ない世代の方との交流があり、子供にとって貴重な経験になっていて有難いです。
利用者の看護学生さんから、息子や娘を可愛がってもらい嬉しく思っています。看護学生さん達が通っている看護学校のオープンキャンパスや、スーパーで見かけたときにも声をかけてもらって顔を覚えてくれたことに感謝です。
お料理のベテランさんたちが作ってくださる種類豊富なメニューに、子どもも毎回喜んでいきます。お料理だけでなく、運営してくださる方々が、地域子どもたちに、孫や子どもを見守るような視線を向けてくださるし、とてもありがたいです。子どもも、地域の大人の方とのコミュニケーションを自然ととれるようになってると感じます。

自身の交流の場となっている【2件】
他の学校のお母さんとの交流が増えて嬉しいです。
活動の場が増えた

精神的に穏やかになっている【2件】
おだやかな気持ちがふえた
きょうだいで参加した時、穏やかに過ごせている（家ではケンカが多い）

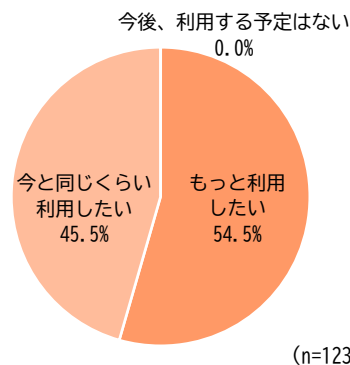
その他【2件】
広報誌や新聞に写真が掲載されることがあった。
普段、買わないものをもらえたりしてうれしいです。

4. 居場所に関する今後の意向や意見

- 今後の居場所の利用意向については、「もっと利用したい」が 54.5%、「今と同じくらい利用したい」が 45.5%で、「今後利用する予定はない」との回答はなかった。

図表 120 今後の利用意向

	人数	割合 (%)
もっと利用したい	67	54.5
今と同じくらい利用したい	56	45.5
今後、利用する予定はない	0	0.0
合計	123	100.0



図表 121 今後、居場所に望むこと[自由記述]

運営者の負担軽減の期待【8件】
運営の経済負担が減ったらいいと思う
長く続けて欲しいので、無理のない運営をしていただきたい。
助成金が国からもっと出て、運営スタッフの負担が軽減してくれたら
運営側と参加側の垣根のない、みんなで運営する場所になること
市や国をあげて、子ども食堂や居場所づくりの金銭面の支援や援助をもっとして欲しい。
運営スタッフさんに負担がかからない（かかりすぎない）ようにできたらいいと思う。
ひとり親、世帯の人数に応じた支援
いろいろな年代に合った対応をしてほしい。いろいろな学年・年代が楽しめる（行きたい）と思う場所になってほしい

感謝／活動継続への期待【5件】
みんなの居場所でこれからもあってほしい
ぜひ活動を続けて頂きたいです
このまま続けて欲しい
これからも本当に困っている人達にとっての居場所であって欲しいと思います。
いつもありがとうございます

開催回数・場所・時間帯についての希望【3件】
長時間滞在できる場所や普段から行っている場所、学童やこども園なんか併設されていると子どもたちだけでも参加できたりお迎えの時に親子で参加しやすかったりするんじゃないのでしょうか？
難しいとは思いますが時間を 16:00～にいただけると園の帰りにそのまま寄って帰れるのでありがたい。
開催回数が増えるといいなと思います。

活動の活発化への期待【3件】
季節のイベントなどで、もっと交流を深めたり出来たら良いなと思います
もっと多くの人に知ってもらいたい。
子ども同士の繋がりが増えていったらいいなと思います。

活動内容の充実への期待【2件】
塾とは違う、子どもの学びのスペースになればありがたい。秋田県のような、祖父母が同居孫の宿題を見守るイメージ。
マッサージは続けてほしいです。子供とできるワークショップを増やしてほしい。

その他【2件】
お菓子をたくさんもらえる時があって嬉しいですが、子どもだけで行かせるかと食べすぎにならないかと思うくらい制限なく頂いてきて、本当に食料を必要としている子に届いているかなと不安になる時があります。
今のところ異物混入などの問題は私自身、遭遇していないのですが…折角、用意して頂いた食事に髪の毛など入ってしまうと残念な気持ちになるので、配膳される方は髪の毛は結んでもらいたいと思います。

図表 122 意見[自由記述]

支援継続をお願いします。
子ども食堂への補助金かなんかの支援が期間限定と以前聞いた気がします。 その期間後も運営者の経済的負担なく安心して運営してもらえるようお願いします。
いつも楽しい経験をさせていただきありがとうございます。
いつもありがとうございます
子供がいろいろな人と合流するよい機会でありがたい
美味しい食事とてもありがたいです。
都合がつけばもっと参加させていただきたいです。いつもありがとうございます。
子ども食堂に協力している方々もとても暖かく行くたびに嬉しくなります。 子供達も楽しくて行きたいと言ってます。
とても助かっています。お弁当も美味しく、ありがとうございます。
いつもありがとうございます
いろいろな学年・年代が楽しめる（行きたい）と思う場所になってほしい
いつもありがとうございます。
これからもよろしくお願いします。

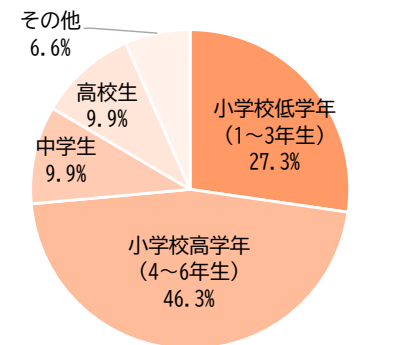
第5章 調査結果4： 居場所を利用する子どもに対するアンケート結果

1. 回答者属性

- 回答者の学年は、「小学校高学年」の割合が 46.3%で最も高く、次いで「小学校低学年」が 27.3%である。
- 性別は、「女性」が 55.8%、「男性」が 39.2%、「回答しない」が 5.0%である。

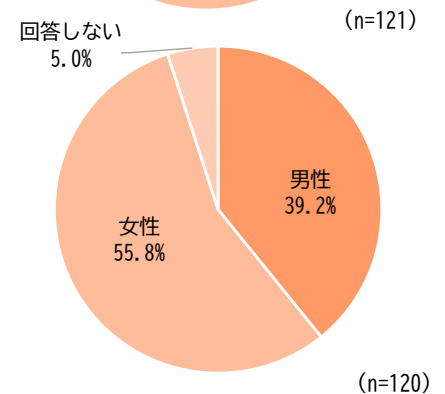
図表 123 学年

	人数	割合 (%)
小学校低学年(1～3年生)	33	27.3
小学校高学年(4～6年生)	56	46.3
中学生	12	9.9
高校生	12	9.9
その他	8	6.6
合計	121	100.0



図表 124 性別

	人数	割合 (%)
男性	47	39.2
女性	67	55.8
回答しない	6	5.0
合計	120	100.0



2. 居場所に対する考え

- 居場所で経験した楽しかったことは以下の通りである。

図表 125 居場所で経験した楽しかったこと[自由記述]

学年	友だちと一緒に過ごしたこと【37件】
小学校低学年	みんなと遊んだり、ご飯食べたりする
小学校低学年	みんなでいっしょに遊んだりご飯を食べるのがたのしかった
小学校低学年	みんなで遊ぶこと
小学校低学年	みんなで遊ぶこと
小学校低学年	子供同士で遊べる
小学校低学年	友達と会って遊べること。一緒にご飯を食べれること。
小学校低学年	学校の友達と遊べる
小学校低学年	みんなとあそべたこと。
小学校低学年	外でみんなでおにごっこをしたこと
小学校高学年	みんなで喋ったり、ボードゲームとかで遊んだこと
小学校高学年	友達と一緒に食べられたこと
小学校高学年	友達と遊べた事
小学校高学年	みんなでご飯を食べている時。
小学校高学年	みんなで食べる食事や、食後の遊び
小学校高学年	友達と作ったり食べたり事が楽しかった
小学校高学年	友達と遊んだこと 兄弟と遊んだこと
小学校高学年	友達とゲームをした
小学校高学年	みんなと遊んだり、ごはんを食べたりすることが楽しかったです。
小学校高学年	みんなとあそぶこと
小学校高学年	みんなとごはんをたべること
小学校高学年	友達と遊べる
小学校高学年	友達とはなせること
小学校高学年	友達と遊ぶこと
小学校高学年	みんなとあそべる
小学校高学年	友だちとあそぶこと
小学校高学年	友達と遊んだこと
小学校高学年	ともだちとひさしぶりにあえた
小学校高学年	みんなとあそべるから
小学校高学年	友達と遊ぶ。
小学校高学年	みんなとあそべるから
小学校高学年	みんなで協力できたこと

小学校高学年	みんなといっしょにごはんがたべられて楽しかったです。
小学校高学年	みんなとしゅくだいをしたりごはんをたべたりすること
中学生	友達とゆっくりできて、話したり遊べたり安心できた。
中学生	友達と一緒に食べた事
中学生	みんなで話しながら食べたこと。
高校生	友達と楽しめる居場所でもとても楽しかった

学年	新しい／普段できない体験をしたこと【21 件】
小学校低学年	ハロウィンイベント
小学校低学年	お料理するのが楽しい。
小学校低学年	お料理作り。
小学校低学年	お餅つき
小学校低学年	家ではできないお餅つきや流し素麺ができた
小学校低学年	みんなでクレープをつくった。
小学校低学年	くじ引きが楽しかった
小学校低学年	わたあめがおいしい
小学校高学年	自分でついたおもちを食べれたこと
小学校高学年	色々な体験ができる
小学校高学年	手巻き寿司、お餅つき大会
小学校高学年	たき火をあまりしなかったからできて楽しかった
小学校高学年	たき火
小学校高学年	七夕
中学生	ピザ焼き
中学生	料理教室などの体験の場
その他	千本くじ ポップコーン
その他	わたあめ、千本引き、バルーン
その他	わたあめ、くじ
その他	ふうせんをおおきくした事
その他	作ったことのない食べ物を作ったり郷土料理を作ったこと

学年	遊んだこと【11 件】
小学校低学年	工作をしたり、遊んだりできるのも嬉しい。
小学校低学年	輪投げ
小学校低学年	ゲーム
小学校低学年	あそんだこと
小学校低学年	かくれんぼ
小学校高学年	公園で遊ぶ時。

小学校高学年	射的
小学校高学年	工作
小学校高学年	ゲーム、ボッチャ
中学生	水でっぽう、ボードゲーム
その他	キーボードでピアノをひくのが楽しかった。

学年	年齢を越えた交流ができたこと【10件】
小学校低学年	大学生とあそぶこと。
小学校低学年	大人のみんなと遊べる
小学校高学年	高校生と遊んだりした事
小学校高学年	大人と話ができるようになった
小学校高学年	工作（高校生といっしょ）
小学校高学年	しゅさいしてくださっている人がたくさん声をかけてくれたこと！
中学生	ちゅうぼうの人としゃべるのがたのしい
中学生	5年くらい前に高校生の人達とお話ししながら食事したのがたのしかった。
高校生	子どもとのコミュニケーション
高校生	たくさん小学生と遊んだこと

学年	おいしいごはんを食べられたこと【10件】
小学校低学年	美味しいごはんをママと一緒に食べられて嬉しかった。
小学校低学年	美味しいご飯が食べられる
小学校低学年	いろんな食べ物が食べれてうれしかった。
小学校低学年	お弁当がおいしかった！わたあめも！
小学校高学年	美味しいご飯が食べられる
小学校高学年	ごはんを食べられる。
小学校高学年	ごはんがおいしい
中学生	お腹いっぱいになってとても楽しく満足した。
高校生	ご飯が美味しい
その他	食事がおいしい

学年	友だちや顔見知りが増えたこと【7件】
小学校低学年	みんなとなかよくなれたこと
小学校低学年	いろんな人とふれあえた。
小学校高学年	色んなお友達ができた。
小学校高学年	ともだちができる
小学校高学年	他の子でも、いっしょに話したり遊んだりして楽しかった。

中学生	しり合いが増えたこと
中学生	違う学校の友達と過ごす時間

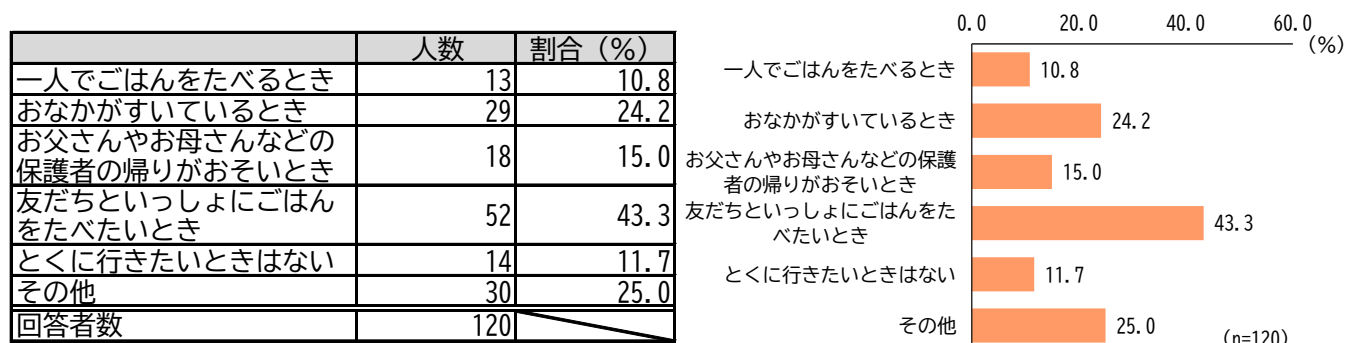
学年	お菓子やおもちゃなどをもらえたこと【7件】
小学校低学年	お菓子をたくさんもらったこと
小学校低学年	いろいろもらえる所
小学校高学年	ブロックや、おやつを貰ったこと。
小学校高学年	楽しいし、おもちゃがもらえるから
小学校高学年	いろんな物がもらえる。
高校生	いろんな物がもらえる。
その他	おかしがもらえる

学年	勉強ができたこと【3件】
小学校低学年	勉強を教えてもらえた
高校生	勉強がはかどった
高校生	友達と教えあいながら勉強出来た。

学年	その他【3件】
小学校高学年	すべて
小学校高学年	食事には行っていない（しょくもつアレルギーなので） みんなと食事を楽しんでみたい。
小学校高学年	食物アレルギーがあるから、さんかするのはたべる以外の行事。みんなとたべられたらいいな。

- どんなときに居場所に行きたいかについては、「友だちといっしょにごはんをたべたいとき」の割合が43.3%で最も高く、次いで「その他」が25.0%、「おなかがすいているとき」が24.2%である。

図表 126 どんなときに居場所に行きたいか[複数回答]



【その他の内容】

- ・ 楽しく過ごしたり友だちと遊びたいとき
- ・ ごはんやおやつを食べたいとき
- ・ 時間があるとき
- ・ 保護者がいないとき など

3. 居場所による効果

居場所による自分自身への効果では、「さまざまな体験をした」の割合が 58.2%で最も高く、次いで「いろいろな人とお話することがふえた」が 51.6%となっている。

図表 127 自分自身への効果（上位5つ）

	人数	割合 (%)
さまざまな体験をした	71	58.2
いろいろな人とお話することがふえた	63	51.6
笑うことがふえた	59	48.4
あいさつができるようになった	49	40.2
お父さん、お母さん以外で、たよれる大人がふえた	48	39.3
回答者数	122	

4. 居場所に関する今後の意向

今後の利用意向は、「もっと行きたい」が 49.6%、「いまと同じくらい行きたい」が 44.5%、「行きたくない」が 5.9%となっている。

図表 128 今後の利用意向

	人数	割合 (%)
もっと行きたい	59	49.6
いまと同じくらい行きたい	53	44.5
行きたくない	7	5.9
合計	119	100.0

